

解答

1. ① 1. ② ① 3. ④ 4. ② 5. ③  
6. ① 7. ① 8. ④ 9. ④ 10. ②  
2. 1. was just about to go

2. been ten years since I moved here  
3. More than ten years have passed since

1. Richard's family lived in Chicago from 1980 to 1987, and then they moved to Los Angeles. 「リチャードの家族は1980年から1987年までシカゴに住み、それからロサンゼルスに引っ越した」  
⑫ from 1980 to 1987は現在を含まない過去の期間なので、過去形の① lived が正解。これはロサンゼルスに引っ越した以前のことだが、then「それから」によって時間の前後関係が明らかになっているので、過去完了形にする必要はない。  
⑬ 現在完了形② have lived、現在完了進行形③ has been living、現在進行形④ are living はいずれも「現在、住んでいる」ことを含む表現なので不可。  
2. X: Your girlfriend is visiting you now, right? Y: No, not yet. She is coming next Sunday. 「X: あなたのガールフレンドが今、あなたを訪ねてきているのですよね」 「Y: いいえ、まだです。今度の日曜日に来ます」  
⑬ next Sundayがあるので未来の文。現在進行形で「確定的な近未来の予定」を表すことができるので、① is coming が正解。  
⑭ 現在完了進行形② has been coming、現在完了形③ has come は未来のことを述べられない。未来完了形④ will have come は、未来のある時点「までに」来るという動作が完了していることを表すので、ここでは next Sunday の前に by「～までに」などの表現が必要。  
3. They will be having a good time at this time tomorrow. 「明日の今頃、彼らは楽しく過ごしているだろう」  
⑫ have a good time「楽しく過ごす」。〈時〉を表す副詞句 at this time tomorrow「明日の今頃」は未来の一時点を表し、ある一時点において動作が進行中であることを表すには進行形を用いる。よって、未来進行形④ will be having が正解。  
⑬ ① have は現在、③ would have は過去の習慣（「～したもだった」）を表すので、未来の〈時〉を表す副詞句に一致しない。② will have been は be の未来完了形なので、内容的に S = C（第2文型）が成立しなくてはならないが、They = a good time ではないので、文が成立しない。  
4. She belongs to the flower arrangement club. 「彼女は華道部に所属している」

- ⑫ belong「所属している」は状態を表す動詞で、ふつう進行形にならない。また、目的語をとらない自動詞なので、「～に所属している」と表現するときには、たいてい前置詞の to を要する（～の部分で〈前置詞の目的語〉ということがある）。この条件に合う②が正解。  
5. ⑫ We have been good friends since we were in elementary school. 「私たちは小学校にいた頃からずっと、いい友達だ」  
⑬ 接続詞 since「～（して）以来」で始まる節（主語+動詞）を含む意味のまとまりは、過去の（起点）を表すので過去形となり、主節は（継続）を表す完了時制となる。よって、現在完了形の③ have been が正解。  
⑭ ① are と④ have to be「～でなくてはならない、～に違いない」は現在、② were は過去を表現するもので、いずれも継続的な内容を表せない。  
6. Your Chinese is very good. How long have you been learning Chinese? 「あなたは中国語がとても上手ですね。どのくらい長い間、中国語を学んでいるのですか」  
⑫ 第1文（現在時制）からの文脈上、第2文は「（現在まで）どのくらい長く学んでいるか」という質問と考えて自然である。現在完了進行形の④ have (you) been learning は、「過去に学び始め、継続的に、現在も進行中で学んでいる」ことを表すので、これが正解。  
⑬ 過去完了形の② had (you) learned は、ここでは「過去に学び始め、継続的に、それ以降の過去のある時点まで学んだ」ことを表す。現在を含まない文脈が不自然と判断する。③ (do you) learn は「（現在、習慣的に）学ぶ」という意味だが、例えば every day「毎日」や a week「1週間」などの基準期間が示されておらず、不足と判断する。④ are (you) learned は受動態の形。「あなたは学ばれる」では文章が通じない。  
7. My wife had traveled in Europe many times before we went to France for our honeymoon. 「妻は、私たちが新婚旅行でフランスに行く前に、何度もヨーロッパを旅行したことがあった」  
⑫ we went to France「私たちがフランスに行った」という、過去の基準時点よりも before「以前」の経験を表す、過去完了形① had traveled が正解。

- ⑬ 現在完了進行形② has been traveling、現在完了形③ has traveled はどちらも現在を含む時制なので不可。④ was traveled は受動態の形だが、「妻が旅行された」では文章が通じない。  
8. Jimmy had been playing the TV game for three hours when his mother came home. 「ジミーは母親が帰宅したときにはテレビゲームを3時間し続けていた」  
⑫ when his mother came home「母親が帰宅したとき」という過去の一時点において、その時点を含め、それまで3時間継続してゲームをしていたという文脈と判断できるので、過去完了進行形の④ had been (playing) が正解。  
⑬ 現在進行形① is (playing)、現在完了進行形③ has been (playing) は、その動作が現在の時点で進行中であることを表すので、「母親が帰宅したとき」と時制が合わない。②は、had doing という述語動詞の形がなく、playing を動名詞と解釈することもできない。不可。  
9. Paul's yacht will have arrived at Hawaii by the end of next March. 「ボールのヨットは今度の3月末までにはハワイに到達しているだろう」  
⑫ the end of next March「今度の3月末」という未来の時点「までに」(by)、「到達する」という動作が完了していることを表すので、未来完了形の④ will have arrived が正解。なお、by以下は〈時〉を表す副詞句。  
⑬ 過去形① arrived は過去に「到達した」ことを、現在完了形② has arrived は現在の時点で「到達する」動作が完了したことを表すので、未来を表す副詞句と時制が合わない。③ used to arrive は「（今は違うが）以前は到達していた」という〈過去の習慣〉を表すので、これも時制が合わない。  
10. If it rains tomorrow, the gardening lesson will be postponed. 「明日雨が降れば、園芸の授業は延期されるだろう」  
⑫ tomorrow があるので未来の文だが、〈条件〉や〈時〉を表す副詞節の中では、未来のことを述べるのにも現在形を使う。よって、② rains が正解で、③ will rain は不可。主語が it なので三単現の s がついている（① rain は不可）。なお、この it は〈天候〉や〈距離〉などを表す文の主語に用いられるもので、訳す必要はない。  
⑬ ④ rainy「雨降りの、雨の多い」は形容詞。動詞がなくなると文が成立しなくなる。  
⑭ postpone「延期する」(= put off)。

2

1. He was just about to go out when he got a call.

- 「電話がかかってきたとき、彼はちょうど外出しようとしているところだった」  
⑫ 主語 He に続くのは was しかない。(be (just) about to do)「まさに(ちょうど)～しようとしている」の表現に気づければ、代入して完成できる。強調の just は be 動詞の直後に置くのが原則。(be going to do) より目前に迫った未来を表す。  
2. It's already been ten years since I moved here. 「私がここに引っ越してもう10年になる」  
⑫ since, years, been, ten などの語から、(It has been [is] + 時間 + since ~)「～して以来、〈時間〉が経過した」という表現に気づく。文頭の It's は It has の短縮形。主語 it は〈時間〉を表す文の主語に用いられるもので、訳さない。  
⑬ 同じ意味の内容は、Ten years have already passed since I moved here. という表現に書き換えられる。  
3. More than ten years have passed since my brother went abroad. 「兄が海外に渡って10年以上になる」  
⑫ since, ten, passed, years, have など語から、(時間 + have [has] passed since ~)「～以来、〈時間〉が経過した」という表現に気づく。  
⑬ 同じ意味の内容は、It has been more than ten years since my brother went abroad. という表現に書き換えられる。

学習のポイント

〈時〉〈条件〉を表す副詞節中の時制 ① 10, ③ 8

- ▶ 時や条件を表す副詞節中では、未来のことを表すときも現在形を用いる。  
ex. Call me tonight if [when] you are free. 「今夜暇なら[暇なときに]電話して」  
▶ if や when で始まる名詞節もある。「～ということ」をつなげて意味が通じれば名詞節。  
ex. I don't know if [when] she will come. 「彼女が来るかどうか[いつ来るか]（ということ）がわからない」※節全体が know の目的語になる。

「～して以来…の時間がたつ」の表現 ② 2, 3

- ex. A week has passed since I lost my wallet.  
= It has been a week since I lost my wallet.  
「財布をなくして1週間がたつ」

進行形の重要用法

- ▶ 一時点における進行中の動作を表す ① 3, 8  
▶ 〈確定的な近未来の予定〉を表す ① 2, ④ 4  
ex. I'm leaving for London tomorrow.  
「明日ロンドンに発ちます」  
▶ 進行形にならない動詞がある ① 4, ③ 3  
ex. belong, resemble, know, remain「～のままである」※主に継続的な状態を表す動詞

## 解答

1. ① → When I opened  
2. ① → did you buy  
3. ① → resembles  
4. ④ → holds [will hold]

5. ① → have been living [have lived]  
6. ① → didn't go 7. ④ → had changed  
8. ② → have

1. ③ 2. ① 3. ④ 4. ③ 5. ①

## 3

1. When I open opened the door, he was sitting at the desk, the letter lying open before him. 「私がドアを開けたとき、彼は机に向かって座っていて、前に手紙が開いたまま置いてあった」

㊦ When が導く副詞節と、主節の動作は、文脈的に同時である。主節の was が過去を表しているので、①の open を過去形 opened に正す。

㊦ 副詞節の「開けたとき」は一時点を表すので、過去進行形② (was) sitting 「座っていた」は正しい。(sit) at the desk 「机に向かって(座る)」も正しい。③ the letter lying open は、主節主語 (he) と分詞 lying の意味上の主語 (the letter) が一致していない、独立分詞構文として正しい。lying は自動詞 lie 「置いている」の現在分詞で、(lie + C) は「～(Cの状態)で置いている」の意味 (lie を be 動詞に変えても意味が通じるので第2文型)。ここでは「手紙が開いたまま置いている」という付帯状況を表し、正しい。④ before him 「彼の前に」も〈位置〉を表す副詞句として正しい。

2. “When have you bought did you buy that sweater? I've never seen you wear it, before.” “I bought it, last week. Do you like it?” 「そのセーター、いつ買ったんだい。これまで着ているのを見たことがないけど」「先週買ったの。気に入ったかしら」

㊦ ふう when で始まる疑問文に現在完了形は用いない。ここでは文脈的に「買った」という一時的な過去の動作を表すので、現在完了形の① have you bought を過去形の did you buy に正す。

㊦ I've ② never seen (you) ③ wear (it) は、(see + O + 動詞の原形)「O が～するのを見る」という知覚動詞の表現を含む現在完了の文。② (現在完了の否定)、③ (動詞の原形) はいずれも正しい。④ it は that sweater を指している。すでに話題にはなった単数名詞を it で受けており、正しい。

3. She is-resembling resembles her mother, in appearance, but not in personality. 「彼女は外見は母親に似ているが、性格は似ていない」

㊦ resemble 「～に似ている」は継続的な状態を表す動詞なので進行形にできない。①を現在形の resembles に正す。

㊦ ② in (appearance) 「外見の点では」と④ (in)

personality 「性格の点では」の2つの表現を対比している。③ but not (in personality) は、but (she does) not (resemble her mother) in personality を省略したもの。いずれも正しい。

4. We're visiting Tokyo Disney Resort, this coming Saturday. I hope, this weather held holds [will hold], till the weekend. 「私たちは今度の土曜日に東京ディズニーリゾートに行く。この天気が週末まで持つほしい」

㊦ ④ held 「(天候などが)もった」は、文脈的に till the weekend 「週末まで」が未来を表すので、will hold に正す。なお、現在形の holds に正してもよい。現在形のほうが実現の可能性をより強調する言い方で、口語ではより自然である。

㊦ ① We're visiting は〈近未来の確定的な予定〉を表す現在進行形。②の (this) coming 「今度の土曜日」の予定を表しており、正しい。この coming は「来たるべき、今度の」の意味の形容詞で、名詞 Saturday を修飾している。週末のことを現在の時点で望んでいるので、③ (I) hope のように現在形を使っても問題はない。

5. I am living have been living [have lived] in Osaka for over a year, now, but I still don't know my way around. 「私はもう1年以上大阪に住んでいるが、まだ地理に詳しくない」

㊦ 現在進行形の① am living は現時点で住んでいることだけを意味するので、a year という期間の表現と合わない。(継続)した状態を表すように、現在完了形の have lived か、現在完了進行形の have been living に正す。now は「今までのところ、これまで」という意味で、完了形と一緒に用いることができる。

㊦ ② for over a year 「1年以上(の間)」は、完了(進行)形とともに用いられる。but 以下は現在形の③ still don't ～「まだ～ない」だが、語順に問題はなく、文脈的に前の文との時制がずれても問題ない。④ (know) my way (around) は「周辺地理をよく知っている」の意味。正しい。

6. Peter hasn't gone didn't go to work yesterday, he wasn't feeling well, and took the day off. 「昨日、ピーターは仕事に行かなかった。気分がよくなって、休みを取ったのだ」

㊦ 現在完了形は、yesterday や last week など、明らかに過去を表す語(句)とともに用いることはできない。yesterday があるので、現在完了形の① hasn't gone を過去形の didn't go に正す。

㊦ 進行形は、一時点の進行中の動作を表す以外に、限られた期間にわたって続く動作や状態を表現できる。過去進行形の② wasn't feeling ③ well 「(ずっと)気分がよくなかった」も、「昨日」という限られた期間の継続的な動作を表しており、誤りではない。feel well で「気分がいい(と感じる)」の意味。この well は「元気な」の意味の形容詞。take the day off は「休暇をとる」の意味。昨日のことなので、過去形④ took で問題ない。

7. Jane was angry with Paul, because he didn't notice, she has changed had changed her hairstyle. 「ジェーンはポールに腹を立てた。彼女が髪型を変えていたことに気づかなかったからだ」

㊦ 主節の was から過去時制であることが確定し、③ didn't notice 「(ポールが)気づかなかった」も過去形で問題ない。ジェーンが髪型を変えたのは、ポールが気づかなかった過去の時点よりもさらに前のことなので、現在完了形の④ has changed を過去完了形の had changed に正す。

㊦ be ① angry ② with ～は「～(人)に怒っている」の意味。どちらも正しい。

8. You can watch TV, when you will have finished doing your homework—but not before! 「宿題をやり終えたらテレビを見てもよいが、その前はだめだ」

㊦ 〈時〉や〈条件〉を表す副詞節の中では、未来のことを表す場合でも現在形を使う。この原則は完了形を伴っても成立する。よって、未来完了形の② will have (finished) を現在完了形の have (finished) に正す。

㊦ ① when 「～のとき」は〈時〉を表す副詞節を導く接続詞。finish は動名詞を目的語にとり、「宿題をする」は do one's homework なので、③ doing は問題ない。④ (not) before は、(you can) not (watch TV) before (you have finished ～) を省略したもので、文脈的に、when 節と before 節が対比されている。いずれも正しい。

## 4

1. Smoking is often condemned, because of its bad effects, on people's health. 「人々の健康への悪影響を理由に、喫煙はよく非難される」

㊦ 「～に与える影響」は (an effect + ③ on ～) で表す。正解は③。

㊦ 「～(による)影響」は (an effect + ② of ～)

で表す (ex. effects of gravity on light 「重力の光に与える影響」)。慣用的に① in や④ to は用いない。

2. Hi! It's me. I'm sorry, I'm late. I'm running, in the direction of the ticket gate. I'll be with you, in a minute. 「もしもし! 僕だよ。遅くなってごめん。今改札口に向かって走っているところなんだ。すぐそちらに行くよ」

㊦ 「～の方向に」は〈① in + the direction of ～〉で表す。in は〈方角〉を表すことがある (ex. The sun rises in the east and sets in the west. 「太陽は東に昇り、西に沈む」)。正解は①。

3. The demand for personal computers, has dramatically increased, recently. 「最近パソコンの需要が劇的に増加している」

㊦ 「～の需要、～に対する要求」は〈④ demand for ～〉で表す。前置詞の for から正解を導く。

㊦ 〈① importance of ～〉で「～の重要性」、〈② supply of ～〉で「～の供給」、〈③ dependence on ～〉で「～への依存」。いずれも前置詞 for にはつながらない。

㊦ 副詞 recently 「最近」や形容詞 recent 「最近の」を含む英文は、過去時制が現在完了時制になることが多い。

4. That gentleman, dressed in black, is my English teacher, Mr. Smith. 「黒い服(喪服)を着たあの紳士は、私の英語の先生、スミス先生です」

㊦ dress は他動詞で「～に服を着せる」の意味で、be dressed ～「～の服を着ている」形で用いられることが多い。「～色の服を着ている」は〈(be dressed) in + 色〉で表せる (ex. men in black 「黒服を着た男たち」)。③ dressed in black は gentleman を修飾する過去分詞。これが正解。

㊦ 一般的に、「身につける(着る、はく、かぶるなど)動作は put on、「身につけている」状態は wear または have on で表す (ex. have a hat on 「帽子をかぶっている」)。① putting on は「着ている途中」の現在分詞を表せるが、black だけでは「黒い服」を表せない。② wear は、「身につけている」の意味では他動詞で、目的語を要する。in black は目的語ではない。④ wears black 「黒っぽい服(喪服)を着ている」は正しい表現(この black は名詞)だが、すでに動詞 is があるので、文が成立しなくなる。いずれも不可。

5. Is this your first visit, to America? 「アメリカへの訪問は今回が初めてですか」

㊦ 動詞 visit はふつう他動詞で、目的語のために前置詞を要さないが、名詞 visit を用いて「～への訪問」という意味を表す場合は、前置詞 to を用いる。正解は①。

## 解答

1. ① ④ 2. ④ 3. ③ 4. ③ 5. ①  
6. ② 7. ③ 8. ② 9. ③ 10. ④

## ①

1. According to the police, the accident was caused by drunk driving. 「警察によると、その事故は飲酒運転によって引き起こされたことだ」

⑬ by drunk driving 「飲酒運転によって」があるの  
で、主語の the accident 「事故」は「引き起こさ  
れる」という受動態の形にしなければならぬ。  
(be done) の構造を持つ④ was caused が正解。

⑭ 過去形① caused、過去完了形② had caused、現  
在完了形③ has caused はいずれも能動態。不可。

2. We had to wait hours because the plane was delayed. 「飛行機が遅れたので、私たちは何時間  
も待たなくてはならなかった」

⑬ because 節の主語は the plane 「飛行機」。delay  
は「(乗り物など)を遅らせる」という意味の他  
動詞で、遅れるものが主語の場合は受動態で表す  
(直訳「～が遅らせられる」→「～が遅れる」)。  
よって、④ was delayed が正解。

⑭ 過去形① delayed、過去進行形② was delaying、  
過去完了形③ had delayed はどれも能動態。不可。

⑮ この hours は for hours 「何時間も」と同じ意味。  
副詞的に用いられている。

3. The answers must be written on one side of the paper only. 「答えは用紙の片面だけに書かなくては  
ならない」

⑬ 主語の The answers 「答え」は「書かれる」も  
のなので、動詞は受動態。よって、③ be written  
が正解。助動詞を含む受動態では、(助動詞 + be  
+ done) の形になる。助動詞の次に来る動詞は  
必ず原形なので、be は変化しない。

⑭ 原形① write、進行形② be writing、完了形④  
have written はいずれも能動態。不可。

4. A: Did you take the bus to school today?

B: Yes, because my bicycle is being fixed.

[A: 今日学校までバスを使ったのかい]

[B: うん、自転車が修理中だからね]

⑬ because 節の主語は my bicycle 「私の自転車」。  
自転車は「修理される」ものなので受動態にな  
る。よって、(be done) の構造を持つ④ is being  
fixed が正解。この (be being done) は進行形 (be  
doing) と受動態 (be done) を合わせた形で、「～  
されている(ところだ)」の意味。受動態の動作が、  
ある一時点(この文では会話している時点)で進

- ② 1. was caught in a shower on  
2. be seen coming and going all  
3. are believed to come back

行中であることを意味する。

⑭ 過去形① fixed、三単現形② fixes、現在進行形④  
is fixing はいずれも能動態で不可。

5. That bike has been left there in front of the house since last week. 「あの自転車は先週から  
その家の前に置き去りにされている」

⑬ 主語 That bike は「置き去りにされる」ものな  
ので、受動態になる。この構造を含むのは① has  
been left と④ was left だが、since last week 「先  
週以来」があるので、現在完了形の①「(先週  
からずっと)置き去りにされている」が正解。この  
(have been done) は、現在完了形 (have done)  
と受動態 (be done) を合わせた形。

⑭ ④ was left 「置き去りにされた」は、受動態の過  
去の動作・状態を表し、時間の継続を表す since  
～「～以来(ずっと)」とともに用いることはで  
きない。現在完了形② has left、過去形③ left は  
どちらも能動態で、不可。

6. On her way home from school, the little girl was spoken to by a stranger. 「学校からの帰り道、そ  
の幼い少女は見知らぬ人に話しかけられた」

⑬ 主語 the little girl 「その幼い少女」が was  
spoken to 続くことから受動態の文とわかる。群  
動詞は1つの動詞のように機能するので、群動  
詞 speak to 「～に話しかける」の受動態は～  
is spoken to となる。また、文末の a stranger 「見  
知らぬ人」は受動態の行為者(ここでは「話しか  
けた人)」になるので、直前に by が必要。よっ  
て、「～に(よって)話しかけられる」は (be)  
spoken to by ～となる。正解は②。

⑭ 能動態の文は A stranger spoke to the little girl.  
となる。違いをよく見比べてみよう。

7. The politician's manner was made fun of by the media. 「その政治家の態度はマスメディアによっ  
て笑いのものにされた」

⑬ 主語は The politician's manner 「その政治家の  
態度」。選択肢から、文末が by the media 「マス  
メディアによって」となる受動態の文とわかる。  
make fun of ～は「～を笑いのものに、からか  
う」という意味の群動詞なので、この受動態は～  
is made fun of by ... 「～は…によって笑いの  
ものにされる」の形になる。よって、正解は③。

⑭ ① 述語動詞部分は過去進行形だが、能動態なので

主語とかみ合わない。②のような表現はない。④  
は of が欠落しており、群動詞の受動態として成  
立していない。

8. Is that model car made of plastic or metal? 「あ  
の模型自動車はプラスチック製ですか、それとも  
金属製ですか」

⑬ plastic or metal 「プラスチックまたは金属」は、  
主語 that model car 「あの模型自動車」の原材料  
を表している。「～(原材料)でできている」は、  
作られたものが原材料と比べて変質しない場合、  
(be made of ～) で表す。よって、正解は②。

⑭ 作られたものが原材料と比べて変質する場  
合は (be made from ～) を用いる (ex. Butter is  
made from milk. 「バターは牛乳から作られる」)。  
この道に、原材料が作られたものに変質する場  
合は (be made into ～) を用いる (ex. Milk is  
made into butter. 「牛乳はバターになる」)。

9. His name is known to many baseball fans. 「彼  
の名前は多くの野球ファンに知られている」

⑬ 「～(行為者)に知られている」は、be known  
to ～で表すのが一般的。よって、③ to が正解。

⑭ be (well) known ① for ～は、「～で(よく)知  
られている、有名である」の意味で、～の部分に  
は行為者ではなく(理由)が入る (ex. Mt. Fuji  
is known for its beautiful shape. 「富士山は美  
しい形で知られている」)。「～の間で知られている」  
は be known among ～(集団)や、between ～(二  
者)で表せる。ここでは many baseball fans (集  
団)なので、④ between は不可。② with は行為  
者にも理由にもつながらぬ。

10. Sarah was made to wait for a very long time in  
the airport. 「サラは空港でとても長い時間待た  
された」

⑬ be made と選択肢の wait で、使役動詞 make を  
用いた受動態と判断する。「O を待たせる」は  
(make O wait) だが、これを受動態にすると、  
動詞の原形(原形不定詞) wait が to 不定詞に変  
わり、(O is made to wait) 「O は待たされる」  
となる。よって、正解は④ to wait。

## ②

1. I was caught in a shower on my way home from  
school. 「学校から帰宅する途中でわか雨に遭った」

⑬ 整序語内の caught, shower などから、be caught  
in a shower 「わか雨に遭う」の表現に気づけ  
ばほぼ完成。on (my way home) 「自宅に帰る途  
中で」の表現につなげる。

2. Tourists can be seen coming and going all day  
long at the airport this summer. 「今年の夏に

は、その空港で旅行者が一日中行ったり来たりし  
ているのが見受けられるだろう」

⑬ 助動詞の直後には必ず動詞の原形が続くので、be  
が決まる。ここでは、be の次は現在分詞(進行形)  
か過去分詞(受身形)が候補だが、前者を続け  
た場合 seen が残ってしまう。よって、知覚動詞  
see と現在分詞 doing を用いる (see O doing) 「O  
が～しているところを見る」を受動態にし、助  
動詞 can を含めた (O can be seen doing) の形  
にする。あてはめると、(Tourists) can be seen  
coming and going となる。この doing は進行形  
と同様、「動作の一時点(を知覚する)」というこ  
とである。これに、all (day long) 「一日中」と  
いう意味の副詞句をつなげば完成する。

⑭ 知覚動詞と動詞の原形を用いた (see O do) 「O  
が～するのを見る」の受動態は、使役動詞の場合  
と同様、動詞の原形が to 不定詞に変わって (O  
is seen to do) となる。

3. During the Bon Festival, our ancestors' spirits  
are believed to come back to this world. 「お盆  
の時期は私達の祖先の霊がこの世に戻ってくると  
信じられています」

⑬ 文脈を考えると、our ancestors' spirits come  
back (to this world) で意味は通るが、believed,  
are, to が残ってしまう。ここで、(S is believed  
to do) 「S は～すると信じられている」の表現に  
思い当たれば、代入して正解できる。

⑭ なお、この表現は (it is believed that S do(es))  
としても表せる。参考までに書き換えると、～,  
it is believed that our ancestors' spirits come  
back to this world. となる。

## 学習のポイント

進行形を含む受動態 ① 4

進行形を含む受動態は、進行形 (be doing) と受動  
態 (be done) が合わさった (be being done) の  
形になる。

ex. The island is being used to protect the national  
interests. 「その島は、国益を守るために利用され  
ている」

完了形を含む受動態 ① 5

完了形を含む受動態は、完了形 (have [has] done)  
と受動態 (be done) が合わさった (have [has]  
been done) の形になる。

ex. The Beatles has been recognized as one of  
the best music groups of all time. 「ビートルズ  
は史上最高の音楽グループのひとつとして認められ  
ている」

## 解答

3 1. ① 2. ②

3. thrown 4. wasn't 5. seen to

6. be heard singing

4 1. ② 2. ③ 3. ① 4. ③ 5. ①

3

1. The thief was caught up with by a policeman/ soon. 「泥棒はすぐに警官に逮捕された」

⑩ A policeman caught up with the thief soon. 「警官はすぐに泥棒を逮捕した」。catch up with ~ は「〜に追いつく、逮捕する」という意味の群動詞。受動態では、このまとまりをそのまま用いて、be caught up with となる。a policeman は行為者を表すので前置詞 by を省き、be caught up with by a policeman となる。よって①が正解。

③ ③は with が不足、④は語順がおかしい。②の過去進行形は、(過去から見た) 未来の子定を表す表現だとして、「泥棒がまもなく警官をつかまそうとしていた」という変な文意になる。

2. Bill was taken advantage of by John. 「ビルはジョンに欺かれた」

⑩ Advantage was taken of Bill by John. 「(直訳) 利益がビルからジョンに奪われた」。take advantage of ~ は「〜(機会など)を利用する、(人)を欺く、つけ込む」などの意味の群動詞。この群動詞は2通りの受動態が可能で、1つは目的語(〜の部分)を主語にするもの、もう1つは advantage を主語にするもの(上の、与えられている英文の形)。確認のために能動態にしてみると、by で示される行為者 John が主語になるので、John took advantage of Bill. 「ジョンはビルを欺いた」となる。これを受動態にする(目的語を主語に変換すると)、群動詞をまとまりのまま用いて Bill was taken advantage of by John. となる。よって、②が正解。

③ ①の能動態は John と Bill が逆。③ have the advantage of ~ 「〜に対して優位に立っている」、④ give an advantage to ~ 「〜に優位性を与える」は、それぞれとの群動詞と意味が違う。不可。

3. The magazine was thrown away by Yuki after she had finished reading it. 「その雑誌はユキが読み終えた後に捨てられた」

⑩ Yuki threw away the magazine after she had finished reading it. 「ユキは読み終えた後にその雑誌を捨てた」。throw away ~ は「〜を捨てる」という意味の群動詞。受動態は be thrown away (by) となる。

4. Why wasn't I informed of the party's date? 「どうして私にはパーティーの日にちが知らされ

なかつたのか」

⑩ Why didn't someone inform me when the party would be held? 「パーティーがいつ開かれるのかを、どうして誰か私に教えてくれなかったのか」。上の文の when the party would be held 「パーティーがいつ開かれるか」という疑問詞節(名詞節)が、下の文では the party's date 「パーティーの日にち」という名詞句で表されている。inform は、直接目的語(「〜を」)を取るときには(inform O of [about] ~)「Oに〜を知らせる」の形になる。これを、O を主語にして受動態にすると(O is informed of [about] ~)となるが、ここでは上の文(過去形の否定疑問文)にあわせて、(Why) wasn't (I informed of ~)にする。

5. The old man was seen to fall down in his garden by the children. 「おじいさんは自分の庭で転ぶのを子どもたちに見られた」

⑩ The children saw the old man fall down in his garden. 「子どもたちはおじいさんが自分の庭で転ぶのを見た」。知覚動詞の(see O do)「Oが〜するのを見る」の形を受動態にすると、動詞の原形は to 不定詞になり、(O is seen to do) の形になる。fall down 「転ぶ」。

6. A child could be heard singing in the next room. 「隣の部屋で(1人の)子どもが歌っているのが聞かれた」

⑩ It was possible to hear a child singing in the next room. 「隣の部屋で(1人の)子どもが歌っているのを聞くことができた」。It is possible (for ...) to ~ は「(…にとって)〜することは可能である、能力がある」の意味。possible (可能)の意味を下の文では could 「〜できた」で表している。上の文を could を使って書き換えると、We [I] could hear a child singing in the next room. となり、下の文はこれを受動態にしたもの。(hear O doing)「Oが〜しているのが聞こえる」を受動態にすると、(O is heard doing) となり、ここに助動詞 could が加わって(O could be heard doing) となる。

4

1. As yet, she has not succeeded. 「これまでのところ彼女は成功していない」

⑩ as yet は、ふつう否定文や疑問文で用いられる副

詞句で、「これ[それ]までのところ」の意味。② so far 「これまでのところ」と一致(ex. So far so good. 「これまでのところはうまくいっている」)。

③ as usual 「いつものように」、③ however 「しかしながら」、④ moreover 「さらに」は、どれも意味が一致しない。

2. She speaks English to some degree. 「彼女はある程度英語を話す」

⑩ to some degree は「ある程度、多少」の意味の副詞句。③ more or less 「ある程度、おおよそ」に一致(ex. Their opinions are more or less the same. 「彼らの意見はある程度同じだ」)。

③ to some extent 「ある程度」も類出なので一緒に覚えておこう。degree も extent も「程度」(数えられない)の意味では、複数形にならない。

③ ① at (the) most 「多くても、せいぜい」(= not more than)、② at least 「少なくとも」(= not less than)、④ at best 「せいぜい、多くても」はどれも意味が一致しない。

3. He discovered by accident that an old friend of his had been staying at the same hotel. 「彼は旧友の一人が同じホテルに泊まっていたことをたまたま知った」

⑩ by accident は「偶然、思いがけず」の意味の副詞句で、ここでは discovered を修飾している。① by chance 「偶然、思いがけず」と一致。

③ by instinct 「本能で」。③ by trouble という副詞表現はない。④ by surprise は、take O by surprise 「O(人)に突然起こる」という表現で多く用いられる(ex. Her sudden visit took me by surprise. 「彼女の突然の訪問に面食らった」)。

③ an old friend of his は「彼の古い友人(の一人)」。この人称代名詞 his は所有代名詞。

4. I could not go to the party because I was on duty. 「私がパーティーに行けなかったのは、仕事からだ」

⑩ on duty は「勤務時間中である」の意味。duty は「義務、仕事、勤務」などの意味がある。反意表現は off duty. ③ at work 「勤務中」と一致。

③ ① in class 「授業中に」、③ in trouble 「苦しい状況で」、④ at ease 「くつろいで」はどれも意味が一致しない。

5. The members can use the lounge for nothing. 「メンバーの方はラウンジを無料でご利用いただけます」

⑩ for nothing 「無料で」は① free of charge 「無料で」に一致。for free 「無料で」も覚えておこう。

③ ② at any time 「いつでも」、③ without any rule

「規則なしで」、④ in vain 「無駄に」は、いずれも意味が一致しない。

## 学習のポイント

群動詞の受動態 ① 6,7, ③ 1,2,3

動詞が前置詞や副詞を伴って、全体で1つの動詞の働きをするものを群動詞という。他動詞の働きをする群動詞(⑩)を受動態にする場合は、前置詞や副詞を省略せず、そのまとまりのまま用いる。

(\*受動態は目的語を主語に変換した状態である。自動詞は目的語をとらないので、目的語をとらない文は、そもそも受動態にできない)

ex. A lot of people's look up to him.  
= He is looked up to by a lot of people.  
「彼は多くの人々に尊敬されている」

使役動詞 make の受動態 ① 10

▷ (make O do) 「Oを〜させる」を受動態にするときは、(O is made to do) 「Oが〜させられる」のように、動詞の原形 do が to 不定詞に変わる。

ex. John made me wait for thirty minutes.  
= I was made to wait for thirty minutes by John. 「私はジョンに30分間待たされた」

知覚動詞の受動態 ② 2, ③ 5,6

▷ (see [hear] O do) 「Oが〜するのを見る[聞く]」を受動態にするときは、(O is seen [heard] to do) 「Oが〜するのを見られる[聞かれる)」のように、動詞の原形 do が to 不定詞に変わる。

ex. We heard him sing. = He was heard to sing.  
「彼は歌うのを聞かれた」

▷ (see [hear] O doing) 「Oが〜しているのを見る[聞く]」を受動態にするときは、(O is seen [heard] doing) 「Oが〜しているのを見られる[聞かれる)」のように、現在分詞 doing はそのままである。

ex. We heard him singing. = He was heard singing. 「彼は歌っているところを聞かれた」

believe や say などの受動態 ③ 3

believe や say, think などの動詞が that 節を目的語にとるとき、形式主語 it を使った受動態と、that 節中の主語を文全体の主語にした受動態の2通りで表現できる。

ex. They say that he is a great writer.  
= It is said that he is a great writer.  
= He is said to be a great writer.  
「彼はすばらしい作家とされている」

by 以外の前置詞を使う受動態 ③ 8,9, ④ 1

▷ be caught in ~ 「〜(雨・洗濯など)に会う」  
▷ be covered with [in/by] ~ 「〜で覆われている」  
▷ be fixed with ~ 「〜でいっぱいである」  
▷ be pleased with [by/about/at] ~ 「〜に喜ぶ」  
▷ be surprised at [by] ~ 「〜に驚く」

(\*受動態は、〜の部分の性質によって前置詞が使い分けられる)

## 解答

1. ① 2. ② 3. ① 4. ④ 5. ②

6. ② 7. ③ 8. ③ 9. ③ 10. ②

2. 1. You should not have driven so fast

1

1. The car broke down, and we had to get a taxi yesterday. 「車が故障したので、昨日私たちはタクシーに乗らなければならなかった」

⑩ yesterdayがあるので、過去の内容を表すものを選ぶ。文意から、「タクシーに乗らなければならなかった」の意味を表す③ had to getが正解。mustは、「～しなければならない」(義務・必要)の意味では過去形がないため、had toを使う。よって、④は不可。

⑨ ① must have gotten「乗ったに違いない」は〈強い推量〉を表す。主語がweなので推量するのは不自然。② have got to (get) は have to (get) とほぼ同じ意味の口語表現。現在を表すので不可。

2. You mustn't stay on the computer so long, or you'll hurt your eyes. 「そんなに長時間コンピューターに向かっていてはいけません。さもないと目を痛めますよ」

⑩ 〈命令文+, or ~〉で「…しなさい。さもないと～」の意味だが、この命令文の部分を他の強い表現で代用することができる。ここでは、「さもないと目を痛めますよ」の文脈から、〈強い禁止〉を表す② mustn't「～してはいけない」が正解。

⑨ ① couldn't「～できなかった」は過去形で時制が合わない。③ needn't「～する必要はない」、④ won't「～しないだろう」は、いずれも「さもないと～」以降の文脈に合わない。

⑧ so longは「それほど長い間」を表す副詞句。

3. Nobody is answering the phone. They must all be out. 「だれも電話に出ない。彼らはみんな出かけているに違いない」

⑩ 「電話に出ない」という状況から、話し手が「(現在)彼らが出かけている」ことを推量しているので、① must「～に違いない」が正解。

⑨ ② need「～する必要がある」は文脈上不可。③ had to「～しなければならなかった(過去)」、④ will「～するだろう(未来)」はいずれも、文脈上と時制上で不可。

4. Mary cannot be over forty; she must still be in her thirties. 「メアリーが40歳を過ぎているはずがない。彼女はまだ30(歳)代に違いない」

⑩ 後半の「まだ30(歳)代に違いない」という内容から、前半はover forty「40歳を超えて」の可

2. may well be anxious about

3. we might as well walk

能性を否定する文になるはず。よって、〈可能性を否定〉する④ cannot「～のはずがない」が正解。

⑨ ① should「～のはずだ」、② may「～かもしれない」はいずれも肯定する文なので不可。③ need not「～の必要はない」は文脈上不可。

⑧ 〈可能性〉を表す can(not) は出題頻度が非常に高い(ex. It can happen to me. 「それは私にも起こりうる」)。in one's 30s [thirties]で「30(歳)代」、forty「40」の綴りにも気を付けること。

5. The doctor said, I ought to give up the trip. 「医者

は私がその旅行をあきらめるべきだと言った」  
⑩ 助動詞の後には動詞の原形がくる。よって、① might、② would、④ should はすべて不可で、正解は② ought、ought to「～するべきだ」は2語で1つの助動詞として扱い、意味はshouldとほぼ同じと考えてよい。否定形はought not to。

⑨ ought to も should も「(現在)～するべきだ」の意味で用いられる助動詞だが、この文では主節が過去のsaidなのに、ought toの形そのままである。say や tell などの「～を言う」という意味の動詞を主節に持つ文において、従属節の動詞にought to や should が用いられるとき、これらの助動詞は時制の一致を受けない。

6. We all tried to push the truck, but it wouldn't move. 「私たちは全員でトラックを押そうとしたが、どうしても動かなかった」

⑩ 「トラックを押して動かそうとした」という内容に逆接のbutが続くので、文脈的にトラックが動かなかったと判断できる。wouldには〈過去の強い意志や固執〉を表す用法があり、否定文だと〈強い拒絶〉を表す。よって、② wouldn't「どうしても～しなかった」が正解。

⑨ ① won'tも「どうしても～しようしない」という〈拒絶〉の意味を表すが、これは現在の表現なので時制が合わない。③ mightn'tはmay notの過去の短縮形だが、「ひょっとすると～しないかもしれない」という、現在や将来の〈低い可能性〉や〈弱い推量〉を表す。④ mustn'tは「～してはならない」という〈強い禁止〉を表す。どちらも過去の表現には使えないので不可。

7. Robin used to be a vegetarian, but he is now eating meat 「ロビンは以前は 채식주의者だったが、今は肉を食べている」

⑩ 「しかし、今は肉を食べている」と逆接するので、「以前は( 채식주의者だった)」という〈過去の習慣〉を表す③ used to beが正解。(used to do)には「現在はそうではない」という含意がある。

⑨ (be to do) は〈予定〉・〈義務〉・〈運命〉・〈可能〉などを表す。① was to useは「( 채식주의者)を使うことになっていった」などの意味になるが、どれも文意が成立しない。④ was used to be「( 채식주의者に)なるために使われた」も文意が成立しない。(be used to doing)で「～することに慣れている」の意味だが、② used to beingにはbe動詞がなく、意味をなさない。

8. You had better not walk alone in this neighborhood after dark. 「暗くなってからは、この辺りを1人で歩かない方がいい」

⑩ had betterは「～した方がいい」という、〈命令〉や〈忠告〉、時に〈威嚇〉の意味合いを持つ。1つの助動詞として機能するので、後に続く動詞は必ず原形となり、否定語は直後に置かれて(had better not do)のようになる。正解の語類は③。

9. I suggested that we should change our original plan immediately. 「私は自分たちの当初の計画をすぐに変更するように提案した」

⑩ 主節の動詞がsuggest「～を提案する」などの〈提案〉や〈要求〉を表す場合、その目的語にあたるthat節の中の動詞は〈(should +) 原形〉の形になる。よって、③ should changeが正解。なお、英語ではshouldが省略されて動詞だけになることがほとんどだが、節中の主語の人称や時制に関係なく、動詞の原形にするのが正しい用法である。

10. I can't find my pen. I may have left it behind in my car. 「ペンが見つからない。車の中に置き忘れてきたのかもしれない」

⑩ 第1文の「ペンが見つからない」という現在の状況から、第2文は「ペンを置き忘れた」という過去の表す内容になるのが自然。ここでは、「置き忘れてきたのかもしれない」という、現時点で過去を推量する② may have leftが正解。(may [might] have + 過去分詞)で「～だったかもしれない、～したかもしれない」という、過去についての現時点での〈推量〉を表す。

⑨ ① may leave と④ might leave はどちらも「置き忘れるかもしれない」という未来についての推量を表す(④の方が弱い推量)ので、文脈的に不可。③ (I) might be leftは受動態表現だから「私が残されるかもしれない」という意味になるが、文脈的におかしいし、空所の後にit(目的語)が残ることで構造的にもおかしくなる。

⑧ leave O behind「Oを忘れてくる」。

2

1. You should not have driven so fast in such a heavy rain. 「あんな大雨のときに、そんなにスピードを出さなければよかったのに」

⑩ 過去に実行されなかった事柄を感じている場合、〈should have done〉「～するべきだったのに(実際にはしなかった)」を使う。この否定は〈should not have done〉「～するべきではなかったのに(実際にはした)」の意味となり、これに代入して完成する。不足している1語はhave。driveは「車を運転する」の意味の自動詞。

2. She may well be anxious about her son. 「彼女が息子のことを心配するのも無理はない」

⑩ (may [might] well do) の表現において、wellはmayの強調と考えればよい。「(十分に～するかもしれない、～してもよい)～するものもつとめだ、無理はない」。

⑨ 1つの助動詞として機能するので、否定形は(may [might] well not do)となる。be anxious about「～を心配する」。

3. We'll have to wait an hour for the next bus, so we might as well walk. 「次のバスまで1時間待たなければならぬので、歩いた方がよさそうだ」

⑩ (might [may] as well do)で「～した方がよさそうだ」という意味で、〈控えめな提案〉を表す。本来の形は(might as well do<sub>1</sub> as do<sub>2</sub>)「do<sub>2</sub>するのと同じくらい、do<sub>1</sub>するのがよいかもしい」だが、実際は「(do<sub>2</sub>するより)do<sub>1</sub>した方がよさそうだ」という意味を含む。

⑨ an hourは、waitの目的語ではなく、forが省略された形。動詞waitの後に期間が続く場合、〈期間〉を表す前置詞forはよく省略される。

## 学習のポイント

used to do / be used to doing ①7

〈used to do〉「かつて～したものだ」

(現在は違うという含意がある)

(be used to doing)「～するのに慣れている」

ex. I used to play in this park. 「この公園でよく遊んだものだ(今は遊んでいない)」

I'm used to playing golf with adults. 「大人とゴルフをするのには慣れている」

can't [cannot] do ①4

ex. The story can't be true. 「その話は本当であるはずがない」

had better not do ①8

ex. You had better not stay up late. 「君は夜更かししない方がいい」

## 解答

- ③ 1. ② 2. ① 3. ③ 4. rather  
5. must have lost 6. have done

③

1. Shall I turn on the light? 「電気をつけましょうか」  
⑩ Do you want me to turn on the light? 「あなたは私に電気をつけてほしいですか」。下の文の主語はIなので、「(私が) 電気をつけましょうか」という〈相手の意思〉を尋ねる Shall I ~? の文になる。よって、② Shall が正解。  
⑥ ① May I ~? と③ Can I ~? は「~してもいいですか」という〈許可〉を尋ねる表現。④ Do I ~? は「私は~しますか」という疑問文。いずれも上の文との意味合致の点で不可。  
2. You need not answer all the questions. 「あなたはすべての質問に答える必要はありません」  
⑩ You don't have to answer all the questions. (訳はほぼ同上)。have to の否定形 don't have to は「~する必要はない」の意味で、don't need to (この need は動詞) または need not (この need は助動詞) で同じ意味を表せる。よって、① need not が正解。どちらも (not ~ all) 「すべてが~とは限らない」を含む〈部分否定〉の文。  
⑥ ② must not 「~してはいけない」、③ should not 「~するべきではない」、④ will not 「~しないだろう」は、いずれも意味合致の点で不可。  
3. She would often take a walk in the afternoon. 「彼女はよく午後に散歩をしたものだ」  
⑩ She was in the habit of taking a walk in the afternoon. 「彼女は午後に散歩するのが習慣だった」。〈過去の習慣〉や〈くり返し行われた動作〉を表す③ would が正解。often や usually などの副詞とともに使われることが多い。used to do と違うのは、過去の状態を表すことができず、また、「現在はそうではない」という含意もない点。  
⑥ ① could 「~できた」、② was to 「~するようになっていた(予定)、~しなければならなかった(義務)」、④ should 「~するべきだ」は、いずれも意味合致の点で不可。  
4. I would rather stay at home tonight. 「私は今夜、どちらかといえば家にいたい」  
⑩ I prefer to stay at home tonight. (訳はほぼ同上)。prefer to do<sub>1</sub> (rather than to do<sub>2</sub>) と would rather do<sub>1</sub> (than do<sub>2</sub>) はどちらも「(do<sub>2</sub>するよりも) どちらかといえば do<sub>1</sub>したい」という意味を表す。( ) 内の比較対象は、文脈上明らかな場合は省略される。この文の場合、「外出するよ

7. have done 8. too 9. help, but  
④ 1. ③ 2. ② 3. ④ 4. ④ 5. ①

りも」という含意がある。正解は rather。

- ⑥ would rather do の否定形は would rather not do となる。not の位置に注意。  
5. She must have lost her way. 「彼女は道に迷ったに違いない」  
⑩ I am sure that she lost her way. 「きっと彼女は道に迷ったのだと私は思う」。〈話し手の確信〉を表しているため、「~に違いない」という〈強い推量〉を表す must を使って言い換える。上の文の時制から、話し手が確信しているのは現在で、道に迷ったのは過去とわかる。よって、過去の事柄について現在の時点で強く推量する (must have done) 「~したに違いない」の形にする。  
6. She can't have done such a thing. 「彼女がそんなことをしたはずがない」  
⑩ It is impossible that she did such a thing. 「彼女がそんなことをしたという事はありえない」。impossible 「不可能な」を、「~のはずがない」という〈強い否定的推量〉を表す can't を使って書き換える。「ありえない」と思っているのは現在で、そのありえない内容は過去のことである。よって、過去の事柄について現在の時点で強い否定を推量する (can't have done) 「~したはずがない」の形にする。  
⑥ 上の文の It は、that 節の内容を表す形式主語。  
7. He ought to have done his best. 「彼は最善をつくすべきだったのに」  
⑩ It is not good that he didn't do his best. 「彼が最善を尽くさなかったことはよくない」。「よくない」と話し手が思っているのは現在で、そのよくない内容は過去のことなので、過去に実行されなかった事柄について〈話し手の非難・後悔〉の気持ちを表す (ought to have done) 「~するべきだったのに (実際はしなかった)」の形にする。  
⑥ 上の文の It は、that 節の内容を表す形式主語。  
8. We cannot praise him too much. 「彼をいくらほめてもほめすぎることはない」  
⑩ It is impossible to overpraise him. 「彼をほめすぎることは不可能だ」。これは、「いくら~してもしすぎることはない」の意味を表す (cannot do too much) 「(直訳) ~しすぎることはできない」または (cannot do enough) 「(直訳) 十分に~することはできない」の表現に言い換えられる。この問題では下の文に much があるので、前者

にあてはめる。正解は too。

- ⑥ 上の文の It は、to 不定詞以降の内容を表す形式主語。  
9. I cannot help accepting Betty's offer. = I cannot help but accept Betty's offer. 「私はベティの申し出を受け入れないわけにはいかない」  
⑩ My only option is to accept Betty's offer. 「私の唯一の選択は、ベティの申し出を受け入れるということだ。これは、「~しないではいられない」という意味を表す (cannot help doing) = (cannot help but do) を使って言い換えられる。この help は「~を避ける」、but は「~を除いて」という意味。直訳を考えてみよう。  
④  
1. Watch your step when you leave the train. 「電車から降りるときには足元にご注意ください」  
⑩ ③ watch には「(注意して) 見る」だけでなく「(抽象的なものに対しても) 気を付ける」の意味がある (ex. Watch your manners. 「礼作法に気を付けなさい」)。ここでの (your) step は「あなたが電車から降りるときの一歩」のこと。慣用表現として覚えること。② see にも「気を付ける」の意味はあるが、この場合に用いることはない。  
⑥ ② see で「気を付ける」の意味は、that 節を目的語とする場合が多い (ex: See (to it) that it won't happen to you. 「それが自分の身に起きないように注意しなさい」)。他の選択肢の中心的な意味はそれぞれ、① meet「会う」、④ notice「気づく」。  
2. It's a long trip, so we should take turns driving, don't you think? 「長旅ですから、交代で運転しませんか」  
⑩ ② (take) turns (～) で「交代で (～) する」。この turn は「順番」の意味だが、交代する場合の順番の数は必ず複数になる (例えば自分と相手) ので、turn も複数形になる (相互複数) という。～の部分には名詞、動名詞、to 不定詞がくるが、名詞と動名詞の場合には at などの前置詞を伴うこともある (ex. take turns at [in] driving 「交代で運転する」)。  
⑥ ① handle 「取っ手」に車のハンドルの意味はない。自動車では steering wheel、二輪車では handlebars という。③ (take) order(s) で「注文(命令)を受ける」の意味。この場合の order に「順番」の意味はない (ex. in (good) order 「順番に、順序正しく」)。④ のような表現はない (ex. make a change in ~ 「~を変更する」)。  
3. The teacher encouraged the pupil to make effort. 「先生はその生徒にがんばるよう励ました」

- ⑩ ④ make effort で「努力する」。この場合のように「(一般的で漠然とした) 努力」の意味では不可算名詞、具体的な内容や複数の努力が想像できる場合は可算名詞となることが多い (ex. make every effort to enter the university 「大学に入るために、あらゆる努力をする」)。  
⑥ ① find、② have、③ do の動詞はいずれも、慣用的に、effort を目的語にとることはない。  
4. We will soon make a brief stop at Nagoya. 「まもなく名古屋で一時停車致します」  
⑩ 東海道新幹線の車内アナウンスである。④ make a brief stop = stop briefly 「短い間止まる、(電車が途中駅で) 一時停車する」。  
⑥ ① put a stop で「(休止を置く→) やめさせる、止める」の意味。この場合は brief 「短い」と結びつかないので、不可。② place 「置く」と③ do はいずれも、目的語に a stop をとらない。  
5. It will take time, but I'm sure your efforts will finally bear fruit. 「時間はかかるでしょうが、あなたの努力は最後にはきっと実を結びます」  
⑩ ① bear fruit 「(果実や努力の成果などが) 実を結ぶ」の意味で、日本語の表現に似た抽象性を持つ。この bear は「(花や実を) 付ける、(子どもを) 産む」の意味の他動詞で、bear-bore-born と活用する。過去分詞形は見慣れているだろう。  
⑥ ② bring 「運ぶ」、③ keep 「とっておく」では、fruit は「成果」の意味になれない。④ stand は目的語をとる他動詞として、ふつう否定文や疑問文で「我慢する」などの意味を持つ。effort 「努力」を主語にすることはしない。なお、他動詞の bear にも「我慢する」の意味がある。

## 学習のポイント

- 〈助動詞 + have done〉 ⑩ 10, ① 1, ⑤ 5, 6, 7  
▶ can't have done 「~したはずがない」  
▶ must have done 「~したに違いない」  
▶ may (might) have done 「~したかもしれない」  
▶ should (not) have done  
「~するべきだった (べきではなかった)」  
※ should (not) = ought (not) to

- 助動詞を使った慣用表現 ② 2, 3, ③ 4, 8, 9  
▶ cannot do too much = cannot do enough  
「いくら~してもしすぎることはない」  
▶ cannot help doing = cannot help but do  
「~しないではいられない」  
▶ may well do 「~するのちもつとちだ」  
▶ might as well do 「~したほうがよさそうだ」  
▶ would rather do 「むしろ~したい」

## 解答

1. ① 1. ① 2. ② 3. ③ 4. ④ 5. ②  
6. ④ 7. ③ 8. ① 9. ① 10. ③  
2. 1. about time someone did something

- about the garden  
2. Should you have any problem  
3. little more care would have spared her

## ①

1. How would you feel, if you were the last person on the earth? 「もしあなたが地球上で最後の人だとしたら、どのように感じるでしょうか」  
① if が導く節において、the last person on the earth 「地球上で最後の人」は事実と異なる内容。主節に would (you) feel があるので、〈現在の事実と異なる内容〉を述べる〈仮定法過去〉の文である。仮定法過去の文では、条件節中の be 動詞は主語にかかわらず were を用いるのが基本。よって、① were が正解。  
② ③ are、④ is は現在形なので仮定法ではない。口語では、主語が I または三人称単数の場合に was が使われることもあるが、ここでは you なので ② was は不可。  
2. Christina would have gone to last night's party if somebody had invited her. 「もし誰かが招待していたなら、クリスティーナは昨夜のパーティーに行っていただろう」  
① if が導く条件節の had invited は、「(実際にはしなかったが)もし招待していたなら」という、〈過去の事実と異なる内容〉を述べる〈仮定法過去完了〉。このときの主節は (would [could / might] have done) などの形を用いる。よって、② would have gone 「行っていただろう」(実際は行かなかった) が正解。  
③ ①③④はいずれも、〈現在の事実と異なる内容〉を述べる〈仮定法過去〉の表現なので、不可。  
3. If I had worked harder, my business would be more successful now. 「もっと熱心に働いていたなら、私の事業は今頃もっと成功していただろう」  
① 条件節の had worked harder 「もっと一生懸命働いていたなら」は〈過去の事実と異なる内容〉を表す仮定法過去完了。一方、主節には now があるので、「今頃はもっと成功しているだろう」という〈現在の事実と異なる内容〉を表すために仮定法過去を用いる。よって、(would [could / might] do) の形の ③ would be が正解。  
② ① had been、② has been、④ is は、いずれも現実のことを述べる直説法(仮定法ではない、という意味)の形なので不可。  
4. If you were to go down that road, it would be impossible to turn back. 「仮にあの道路を下っ

たとしたら、引き返すことは不可能だろう」

- ① 条件節の were to ~ は〈あまり起こりそうにない未来〉についての仮定を表し、「仮に~するとすれば」の意味。起こる可能性がある場合から、まったく可能性がない場合まで、さまざまな段階の仮定に用いることができる。主節は仮定法過去で表すので、④ would be が正解。  
② ① has been、② will be はどちらも直説法、③ would have been は仮定法過去完了なので不可。  
5. Were I in your position, I would follow the teacher's advice. 「私があなただけの立場なら、その先生の助言に従うだろう」  
① 仮定法の if 節で if を省略すると、その後が倒置されて疑問文の語順になる。ここでは、省略しない形は、If I were in your position. よって、② Were I (in your position) が正解。  
6. I am very busy with repairing my computer today. I wish I could go to the concert with you. 「今日、私はコンピューターの修理でとても忙しい。あなたと一緒にコンサートに行ければいいのになあ」  
① 1文目で「今日は忙しい」という現在の状況を述べているので、2文目は「コンサートに行けないか」行けたらなあ」という〈現在の事実と異なる内容〉と判断する。現在において実現できそうにない願望を表すには (I wish + 仮定法過去) を用いる。よって、④ could が正解。  
② ② can と③ can't は仮定法過去ではない。① did は過去形で、go が続くので強調表現と考えられるが、wish に続くことはない。不可。  
7. Nicola swims very well as if she were a mermaid. 「ニコラはまるで人魚のようにとても上手に泳ぐ」  
① as if [though] ~ 「まるで~のように」の表現で、~の部分には直説法も仮定法もくることができ。ここでは、Nicola を〈現在の事実と異なる内容〉の a mermaid 「人魚」にたとえているので、仮定法にするのが基本。よって、仮定法過去を用いた ③ were を正解とする(実際は is や was も用いられるが、were で覚えておけばよい)。  
② ①は主語の she に一致しない。②は未来を表すので時制が一致しない。④の現在完了は、「まるで以前から(ずっと)人魚だったかのように」という継続的な表現が不自然と判断する。  
8. I'd rather you didn't help me. I can do it all by

myself. 「手伝わないでいただければと思います。自分一人ですみますから」

- ① (I would rather (that) + 仮定法) は〈話者の現在の願望〉を控え目に表す。後に続く that 節 (that はふつう省略される) の中では、動詞の過去形(仮定法過去)を用いて「できれば~して(しないで)もらいたい」の意味となる。よって、過去形の ① didn't help が正解(比較的強い口調の don't help も用いられるが、仮定法で覚えておけばよい)。  
② 未来を表す ②、完了形の ③ は文法的に不可。④ は肯定文なので「手伝ってほしい」の意味になってしまう。  
9. But for the rain, we would have had a pleasant weekend. 「雨が降らなかったなら、私たちは楽しい週末を過ごしただろう」  
① 主節の would have had が〈仮定法過去完了〉の形なので、〈過去の事実と反する内容〉を述べている文である。the がついているので、この rain は名詞。よって、「もし(現在)~がなければ、もし(過去に)~がなかったなら」の意味で前置詞の働きをする ① But for が正解。仮定法過去・仮定法過去完了のどちらの文でも、if ~ に代わって条件を表すことができる。but for = without.  
② ②では動詞がないので節が成立しない。③ 「もしそれがその雨でなければ」では意味が通らない。not の後に for があれば、If it were not for the rain 「その雨がなければ」となり、文法的には可。④の fall は目的語をとらない自動詞なので文が成り立たない(その雨が目的語になってしまう)。  
10. I studied very hard last night. Otherwise, I would certainly have failed today's math exam. 「私は昨夜とても熱心に勉強した。そうでなかったら、今日の数学の試験にきっと落第していただろう」  
① 「熱心に勉強した」と「試験に落第していただろう」という相反する内容を結ぶので、「そうでなければ」の意味を表す ③ Otherwise が正解。この otherwise は 1語で If I had not studied very hard last night の意味を表す。  
② ① In addition 「その上」、② On the other hand 「他方では」、④ Therefore 「それゆえ」は、いずれも文脈的に意味が通らない。  
2  
1. It's about time someone did something about the garden. 「もうそろそろ誰かが庭の手入れをしても良い頃だ」  
① 実際には行なわれていない動作について、「そろそろ S が V してもいい頃だ」という意味を、(It is (about [high]) time S' V) で表す。仮定法過

- 去の表現なので、V には過去形の動詞を用いる。  
2. Should you have any problem, please let me know immediately. 「万が一問題が起きたら、すぐに知らせて下さい」  
① あまり起きそうにない未来について、「万一~なら」という仮定を表すときには should を用いる。主語の you や助動詞の should はあるが、接続詞の if がいないことから、if を省略した条件節と考える。if があれば If you should have any problem だが、if がいないので主語と助動詞が倒置し、Should you have any problem, ... となる。  
3. A little more care would have spared her a great deal of trouble. 「もう少し慎重だったら、彼女はだいぶおん苦勞しませんでしたの」  
① 和文から、if で始まる条件節や、she で始まる主節が期待できるが、整序語句内には見当たらない。「もう少しの慎重さが彼女から多大な苦勞を省くだろう」という無生物主語の構文に変換する。主語は A little more care (If she had taken a little more care という仮定の意味が含まれる)、述語動詞以降は、(spare O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>) 「O<sub>1</sub> (人) から O<sub>2</sub> (手間など) を省く」と、仮定法過去完了 (would have done) の形をあてはめれば完成する。

## 学習のポイント

- 仮定法の文の基本形 ① 1, 2, 5, ② 2  
▶ 〈現在の事実と異なる仮定〉は仮定法過去  
ex. If I were you, I would study harder. 「もし私があなただったら、もっと勉強するだろう」  
▶ 〈過去の事実と異なる仮定〉は仮定法過去完了  
ex. If I had been you, I would have studied harder. 「~、もっと勉強していただろう」  
▶ if を省略すると倒置が起きる  
ex. Were I you, ... / Had I been you, ...

- さまざまな仮定法の表現 ① 4, 6, 7, ② 2, ① 1, 2  
▶ as if ~ 「まるで~のように」事実と異なるたとえ  
ex. He talks as if he knew it. 「彼はまるでそれを(現在)知っているかのように話す」  
ex. He talks as if he had seen it. 「彼はまるでそれを(過去に)見たかのように話す」  
▶ I wish ~ 「~ならいいのに」事実と異なる願望  
ex. I wish I knew his address. 「彼の住所を(現在)知っていたらなあ」  
ex. I wish I had known his address. 「彼の住所を(過去に)知っていたらなあ」  
▶ should / were to ~ 未来における仮定  
ex. If you should need any help, ... / Should you need any help, ... 「万一手助けが必要なら、...」  
ex. If I were to have a million dollars, ... / Were I to have a million dollars, ... 「仮に 100 万ドル手にするとしたら、...」

## 解答

3. 1. ① 2. ② 3. ① 4. ④ 5. ②  
6. ③

4. 1. join 2. mean 3. other  
4. turn 5. present

## 3

1. **If only I had been rich at that time!** 「あのとき裕福だったならなあ」  
 ㊦ **I wish I had been rich at that time.** (訳はほぼ同上)。動詞が過去完了形の *had been* なので(過去の事実と異なる願望)を表している。(I wish + 仮定法)とはほぼ同じ意味は「If only + 仮定法」でさえあれば(あったら)なあ」で表せる。よって、① *If only* が正解。これは条件節だけで完結できる表現で、主節は不要。  
 ㊦ ② *Provided (that)* と ③ *Providing* は if とほぼ同じ意味の接続詞。④ *Unless* は「もし～でなければ (= if ~ not)」の意味の接続詞。いずれも条件節を導くが、基本的に主節がないと文が成立しない表現で、願望も表さない。不可。  
 2. **I wish I had seen her brother!** 「彼女のお兄さん[弟さん]に会っていたらなあ」  
 ㊦ **What a pity I didn't see her brother!** 「彼女のお兄さん[弟さん]に会わなかったのは、なんて残念なことだろう」。(過去に実現しなかった事柄に対する現在の願望)という内容の合致を考えて、(I wish + 仮定法過去完了)「(過去に)～していたらなあ」で書き換える。② *had seen* が正解。  
 ㊦ ① *hadn't seen* 「会わなければよかった」では意味が逆。③ *have seen*、④ *saw* は仮定法過去完了の形ではない。いずれも不可。  
 3. **Were it not for birds, the world would be filled with insects.** 「もし鳥がいなければ世界は虫だらけだろう」  
 ㊦ **Thanks to birds, the world is not full of insects.** 「鳥のおかげで、世界は虫だらけではない」。内容の合致を考える。上の文は現在時刻なので、下の文は「鳥がいなければ～」という仮定法過去の文にする。「もし(現在)～がなければ」は「if it were not for ~」で表すが、if を省略すると倒置して「were it not for ~」となる。正解は①。  
 ㊦ ② 「If it had not been for ~」 「もし(過去に鳥が)いなかったなら」と、③ *Had there been* (= *If there had been*) 「もし(過去に鳥が)いたなら」は仮定法過去完了の表現で、どちらも時刻が合わない(仮定法過去完了にする必然性がない)。④ *If there were* 「もし(鳥が)いなかったら」は仮定法過去なので現在の内容だが、意味が逆。  
 ㊦ *be filled with* ~ = *be full of* ~ 「～でいっぱい」。

4. **Without your advice, I would have failed.** 「あなたの助言がなかったなら、私は失敗していただろう」  
 ㊦ **If it had not been for your advice, I would have failed.** (訳はほぼ同上)。(if it had not been for ~) 「もし(過去に)～がなかったなら」は(過去の事実と異なる仮定)を表す。前置詞(句)の *but for* ~ と *without* ~ は、時刻に関係なく「～がなければ」という条件を表せる。よって、④ *Without* が正解。  
 ㊦ ① *Except* 「～を除いて」に仮定の意味はなく、不可(except for ~ ならば *but for* ~ と同様、「～がなければ」の仮定の意味で用いられるが、まれな表現である)。② *For* 「～のために」は意味が通らない。③ *With* 「～があれば、(過去に)～があったなら」では仮定が逆になる。いずれも不可。  
 5. **With a little more patience, Mr. Lee would not have left his company.** 「もう少し辛抱強さがあったなら、リー氏は会社を去りはしなかっただろう」  
 ㊦ **If he had had a little more patience, Mr. Lee would not have left his company.** (訳はほぼ同上)。条件節の *If he had had* ~ は「彼が(過去に)～を持っていたなら」の意味なので、「～があれば、(過去に)～があったなら」という(条件)の意味を表す② *With* が正解。  
 ㊦ *a little more patience* は名詞句なので、節を導く接続詞① *If* は不可。③ *Had* も文が成立せず不可(*Had he had* ならば可)。前置詞④ *Of* に条件の意味を表す用法はない。不可。  
 6. **If they saw us walking together, they would take you for my sister.** 「私たちが一緒に歩いているところを見たら、彼らはあなたのことを私の姉[妹]だと思うだろう」  
 ㊦ **To see us walking together, they would take you for my sister.** (訳はほぼ同上)。上の文では不定詞が「もし見たら」という(条件)を表しており、これを *if* を使って書き換えれば正解文となる。主節の *would take* から(仮定法過去)の文と判断できるので、if 節の動詞は過去形を使う。よって、③ *they saw* が正解。  
 ㊦ 現在完了形の②は不可。①は動詞が違う(take)ので不可。条件節中の *would* は「もし～するつもりがあれば」という、主語の(非現実的な意志)を表すことがあるが、ここでは文脈にそぐわない(意志は関係ない)ので④は不可。

㊦ *take* [mistake] *O* for ~ 「O を～と間違える」。

## 4

1. (a) **The two roads join here.** 「その2つの道はここで交わる」  
 (b) **Start eating, please. I'll join you in a few minutes.** 「(先に)食べ始めてください。私もすぐに加わります」  
 ㊦ 主語が「もの」と「人」、(a)が自動詞、(b)が他動詞で異なるが、どちらの場合も「合流する」という同じ感覚である。  
 2. (a) **Don't get so upset. I didn't mean it.** 「そんなに怒らないで。そんなつもりで言ったんじゃないよ」  
 (b) **Everybody hates her because she is always mean to them.** 「だれもが彼女を嫌っているのは、彼女がいつもみんなにいじわるだからだ」  
 ㊦ (a) の *mean* は動詞で「～を意味する、～のつもりで言う」の意味。ここでは後者が、慣用表現として覚えること。*get upset* 「取り乱す、怒る」。(b) の *mean* は形容詞で「いじわるな、卑劣な」。  
 ㊦ *everybody* は単数扱い(三単現の *hates* になっている)だが、代名詞は複数形の *they (their/ them)* などを受けることが多い。  
 3. (a) **We'd like to see him some other time.** 「また別の機会に彼と会いたいものだ」  
 (b) **Could you turn it the other way around?** 「それを逆になるように回していただけませんか」  
 ㊦ (a) *some other time* 「いつか別のときに」は、別の機会を漠然と表す副詞句。(b) *the other way around* [round] 「(方向や事情を)逆に、あべこべに」の意味を表す副詞句。この(b)の英文は、例えば液晶テレビの画面をぐるっと180度回転させるようなイメージ。  
 4. (a) **I hate big banks because they make you wait for your turn.** 「私が大きな銀行を嫌うのは、順番を待たされるからだ」  
 (b) **How can you turn your back on me now? We're friends, aren't we?** 「どうして今、私に背を向けることができるの。私たちは友人だよ」  
 ㊦ (a) *turn* は「順番」の意味の名詞。*make you wait* は「あなたを待たせる(使役)」が直訳だが、この *you* は(後ろの *your* も)、「(特定のでない)一般の人」を表している。(b) *turn your back on* ~ は「～に背を向ける、無視する」の意味で、*turn* は動詞。*How can you do?* は「どうして～できるのか(いや、できない)」という反語表現(「修辭疑問文」という)。第2文は付加疑問文。  
 5. (a) **You must forget the past and start living in the present.** 「過去は忘れて、今を生き始めなさい」  
 (b) **The committee will present its final report to Parliament in April.** 「委員会は4月に、最終報告書を議会に提出するだろう」  
 ㊦ (a) *live in the present* は「今を生きる」の意味で、この *present* は名詞の「現在」。in the past 「過去に」、in the future 「将来に」と同列の表現である。なお、*present* の形容詞形「現在の、出席している」も覚えておこう。(b) 動詞の *present* は「(賞などを)贈る、(レポートなどを)提出する」の意味がある。*committee* は「委員会」、*Parliament* 「(主に英国の)議会」のこと。

## 学習のポイント

- 「～がなければ、～がなかったなら」 ㊦ 3, 4  
 ▶ *if it were not for* ~ = *(were it not for ~)* 「もし(現在)～がなければ」(仮定法過去)  
 ex. *if it were not for* [Were it not for] your help, I could not finish it. 「あなたの助けがなければ、私はそれを終えられないでしょう」  
 ▶ *if it had not been for* ~ = *(had it not been for ~)* 「もし(過去に)～がなかったならば」(仮定法過去完了)  
 ex. *if it had not been for* [Had it not been for] your help, I could not have finished it. 「あなたの助けがなかったならば、私はそれを終えられなかったでしょう」

if 節に相当する表現 ㊦ 9, 10, ㊦ 3, ㊦ 4, 5, 6

- ▶ 句による表現: *(but for ~)* = *(without ~)* 「～がなければ、(過去に)～がなかったならば」  
 ex. *But for* [Without] your help, .... 「あなたの助けがなければ(なかったならば)」  
 ▶ 句による表現: *(with ~)* 「～があれば、(過去に)～があったならば」  
 ex. *With* your help, .... 「あなたの助けがあれば(あったならば)」  
 ▶ 語による表現: *otherwise* 「そうでなければ、(過去に)～でなかったならば」(接続詞的な副詞)  
 ex. *I took this medicine. Otherwise I might have got carsick.* 「この薬を飲んだ。そうでなかったら、車酔いしていたかもしれない」※ *Otherwise* = *If* *had not taken this medicine*  
 ▶ 不定詞による表現  
 ex. *To hear him speak English, you might mistake him for an American.* 「彼が英語を話すのを聞けば、彼を米国人と間違えるかもしれない」※ *To hear* = *If you heard*  
 ▶ 主題の名詞  
 ex. *A true friend would not say such a thing.* 「本当の友人ならそんなことは言わないでしょう」  
 ※ *A true friend* = *if he or she were a true friend, he or she would not say such a thing.*



## 解答

1. ① ③ 2. ② ③ 3. ① 4. ③ 5. ①  
6. ③ 7. ③ 8. ④ 9. ② 10. ③  
2. 1. is about time for us to go back

2. to be held at Tom's house the day after  
3. seems to have been some  
misunderstanding between

## ①

1. Although I found it easy to learn this subject, I did not feel that I wished to devote my whole life to it. 「この科目を学ぶのは簡単だとわかったが、自分の一生をそれに捧げたいとは感じなかった」
- ⑤ I found it easy の部分は SVOC の第 5 文型で、「私はそれが簡単だとわかった」の意味。この it は〈形式目的語〉といって、まず it を仮に入れて基本文型を完成し、不定詞や that 節、動名詞で it の内容を後から説明する構造になる。正解は to 不定詞の名詞的用法の ③ to learn 「学ぶこと」。
- ⑥ ① learn は動詞、② by learning 「学ぶことによって」は〈手段〉を表す副詞句。いずれも不可。④ to have learned は完了不定詞 (to have + 過去分詞) の形だが、この形はふつう、遠語動詞よりも以前の内容を表す。「[(これから) 学ぶこと] が簡単だとわかる」という含意に達せず、不可。
- ⑦ devote O to ~ 「O を ~ に捧げる」。
2. I have nothing to write with. Will you lend me your pencil? 「私は書くものを何も持っていない。あなたの鉛筆を貸してもらえますか」
- ⑩ 名詞 nothing を後ろから修飾する、形容詞的用法の不定詞を選ぶ。第 2 文の内容から、nothing は「何もない書くための道具 (鉛筆やペンなど)」ということ。「鉛筆で書く」は write with a pencil のように前置詞 with が必要で、書くための道具は with の目的語となる。よって、② to write with が正解 (〈手段・道具〉の with)。③ for と ④ by の前置詞は用いない。
- ⑪ ① to write で終わる場合は書く〈内容〉を表すが、第 2 文との文脈がつかない。
- ⑫ 「何か (紙のような) 書くもの」は something to write on で表す (write on a paper 「紙に書く」)。
3. You should go to Tokyo Dome to see a baseball game. 「野球の試合を見に東京ドームに行くといいよ」
- ⑩ 野球の試合を見る「ために」東京ドームに行くのだから、〈目的〉を表す副詞的用法の不定詞 ① to see が正解。
- ⑪ ③ for doing は「~するための」という形容詞的な〈用途〉の意味で用いられることが多い。「野球の 1 試合を見るための東京ドーム」という意味が不自然と判断する。④ to doing は be used

[accustomed] to doing 「~することに慣れている」や look forward to doing 「~することを楽しみにする」といった、限られた表現にしか用いない。② seeing は分詞構文の形と思われすが、野球を見ながら東京ドームに行く (付帯状況) の意味が不自然と判断する。

4. Caesar entered the town only to find that the enemy had already fled. 「シーザーは町に入ったが、敵はすでに逃げ去っていた」
- ⑩ 「町に入ったら」→「(その結果) 敵はもう逃げ去っていた」のように、空所以降はその前の部分の結果を表している。よって、〈結果〉を表す副詞的用法の不定詞 ③ only to find が正解。(only to do) は「結局~しただけだ」という意味で、意外な結果や望ましくない結果について、find, learn, discover, fail などの動詞とともに用いられる。
- ⑪ ①は the town を形容詞的に修飾する。「敵がすでに逃げたことを発見する (ための) 町」は意味が不自然。②は単独では不可だが、and [but] found なら可。④ only to be found は受け身の不定詞。「わかる」のが Caesar でも「わかった」のが難かわからない。不可。
- ⑫ 「入る」の意味の enter は他動詞で、into などの前置詞を要さない。flee-fled-fled 「逃げる」。
5. My grandfather was carried into the hospital to be treated for high blood pressure. 「私の祖父は高血圧の治療を受けるために病院に担ぎ込まれた」
- ⑩ 空所にかかる不定詞の〈意味上の主語〉は、文全体の主語と同じ My grandfather。treat は「~を治療する」という意味の他動詞なので、「(祖父は) 治療されるために病院に担ぎ込まれた」としなくては意味が通らない。よって、不定詞の受動態 (to be done) の形の ① (to) be treated が正解。能動態の ③ treat は不可。
- ⑪ treat O for ~ 「O (人) の ~ (病名) を治療する」。
- ⑫ trust は「~を信頼する」の意味だから、② (to) be trusted 「信頼されるために」、④ (to) trust 「信頼するために」はどちらも意味が通らない。
6. Tom did not tell the truth so as not to hurt his mother. 「トムは母親を傷つけないように真実を言わなかった」
- ⑩ to 不定詞の副詞的用法において、〈目的〉の意味を明確にするために、in order to do や so as to

do (どちらも「~するために」) の表現を用いることがある。不定詞を否定する場合、to の直前に not や never の否定語を置いて not [never] to do の形にするが、in order ~ と so as ~ においても否定語の位置は to の直前である。よって、③ so as not to が正解。繰り返して音読すること。

7. Mary went outside, even though her mother told her not to. 「母親が外出しないと言ったにもかかわらず、メアリーは外出した」
- ⑩ tell O to do 「O に ~するように言う [命じる]」。不定詞の内容を否定する場合、否定語は to の直前に入れるのが基本なので、ここでは told her not to do 「彼女に ~しないように言った」となる。~ not to go outside とするところを、同じ語句の繰り返しを避けて to 不定詞の to のみで表現する (〈代不定詞〉という) ③ not to が正解。
- ⑪ ②は to がなく、④は順番が違う。tell O ~ の形で、~の部分に命令文が続くことはない。よって、①は不可。
8. Have you decided where to go for your spring vacation this year? 「今年の春休みにどこに行くか決めましたか」
- ⑩ (疑問詞 + to 不定詞) は「(これから) 何をいつ/どこで/どのように etc.」~するべきか」という意味の名詞句になる。この形の ④ where to go 「どこへ行くべきか」が正解。動詞の decide は to 不定詞を含む名詞 (名詞句・名詞節) を目的語にとる。
- ⑪ decide は目的語に動名詞をとれないので ①は不可。動詞の go に疑問詞の where を続けることはないので ②も不可。〈疑問詞 + to 不定詞〉には「これから(するべき)」という未来志向の含意があり、この不定詞を進行形にすることはできない。③も不可。
9. John failed many of his classes last year. Needless to say, he should study harder. 「昨年ジョンは多くの科目を落とした。言うまでもなく、彼はもっと熱心に勉強するべきである」
- ⑩ needless to say 「言うまでもなく」は、不定詞を用いた定型の慣用表現 (〈独立不定詞〉という) の 1 つ。独立不定詞は文全体を修飾する副詞句として、コンマで区切って使われる。型が決まっているので理屈抜きで覚える。正解は ② Needless (to say)。
- ⑪ fail a class で「科目で落第する、単位を落とす」。
10. To begin with, I would like to thank you for your support. 「まず始めに、皆様のご支援に感謝申し上げます」といいます」
- ⑩ to begin with は「まず始めに」の意味を表す独立不定詞。理屈抜きで覚える。正解は ③ with。

## ②

1. It is about time for us to go back to the school. 「そろそろ学校へ戻る時間だ」
- ⑩ to the school があるので、前に go back を置いて「学校へ戻る」ができる。主語の It に続くのは動詞 is しかないで、第 2 文型 (SVC) になる。C (補語) となるのは名詞が形容詞だが、名詞の time しかない。ここで、It is (about [high]) time ~ の構文をあてはめる。~の部分には過去形の that 節か to 不定詞が来るので、ここでは It is about time to go back ~ とつなぐ。残った for us は to 不定詞の〈意味上の主語〉として、to 不定詞の直前に置く。
2. The party is to be held at Tom's house the day after tomorrow. 「パーティーは、明後日トムの家で行われる予定です」
- ⑩ tomorrow があるので、直前に the day after を置いて「明後日」ができる。副詞句の at Tom's house も、さらにその前に置ける。主語の The party is に held を続ければ受動態の「パーティーが行われる」ができるが、to と be が余る。ここで〈予定・運命・意図・義務・可能〉を表す (be to do) をあてはめ、The party is to be held とつなげて、〈予定〉を表す表現にする。
3. There seems to have been some misunderstanding between them. 「彼らの間には何か誤解があったようだ」
- ⑩ 「彼らの間には」は between them。There is [are] 構文は、その後に来る名詞 (事実上の主語) によって動詞が決まる。ここでは不可算名詞の (some) misunderstanding なので、動詞は三単現の seems になる。ここで (seem to do) 「~であるようだ」の型をあてはめる。to 不定詞にあたる動詞の原形は have しかないで、There seems to have been some misunderstanding のようにつなぐ。「誤解があった」のは過去のことだが、話し手がそう感じているのは現在のことだと判断できる。不定詞の表す時が遠語動詞よりも前の場合、不定詞は完了形の (to have done) の形になる。

## 学習のポイント

## 独立不定詞

① 9.10

- ▶ needless to say 「言うまでもなく」
- ▶ to begin with 「まず始めに」
- ▶ to tell (you) the truth 「実を言うと」
- ▶ to be honest 「正直に言うと」
- ▶ so to speak 「いわば」
- ▶ to make matters worse 「さらに困つたことに」

## 解答

1. it 2. no need [necessity] for  
3. of 4. to find 5. is easy 6. in

7. too 8. enough 9. to have  
1. ④ 2. ④ 3. ③ 4. ④ 5. ②

3

1. One day it will be possible to travel to the stars. 「いつか星に行くことが可能になるだろう」

⑫ One day people will be able to travel to the stars. 「いつか人々は星に行くことができるだろう」。will be (述語動詞)が続くので、空所には主語が入るとわかる。補語 possible「可能な」の内容は to travel to the stars「星に行くこと」なので、これが意味上の主語。ここで (it is ... to do)「～することは…だ」の構文をあてはめる。この構文の主語の位置にある it は (形式主語) といって、to 不定詞以降の内容を表す。よって、正解は it。形容詞 possible は原則として人を主語にはできない。ここでは people は不可。

2. There is no need [necessity] for you to come if you don't want to. 「来たくなければ、あなたは来る必要はありません」

⑫ It is not necessary for you to come if you don't want to. (訳はほぼ同上)。上の文では「必要ない」を形容詞の not necessary で表現しているが、下の文の There is に続く事実上の主語は名詞となるので、名詞を否定する no と、「必要」を表す名詞 need [necessity] の形に変換する。to come は名詞の need [necessity] を修飾する形容詞的用法の不定詞となり、意味上の主語を作るために you の前に前置詞 for を置く。よって、正解は no need [necessity] for。

⑬ if が薄く節の最後の to は代不定詞で、to の後の come が省略されている。

3. It was brave of him to take such a risk. 「そのような危険を冒すとは、彼は勇敢だった」

⑫ He was brave to take such a risk. (訳はほぼ同上)。不定詞の意味上の主語は (for + ) で表すことが多いが、(it is ~ to do) の構文において、～の部分 brave「勇敢な」や kind [nice]「親切な」のような (人の性質を表す形容詞) のとき、不定詞の意味上の主語は (of + ) で表す。よって、正解は of。

4. I was surprised to find a dog in my bed. 「ベッドの中に犬がいたので私は驚いた」

⑫ I found a dog in my bed. I was surprised. 「私のベッドの中に犬がいた。私は驚いた」。感情を表す形容詞 (ex. surprised「驚いて」、happy「うれしい」、sad「悲しい」) の後に不定詞を置いて、

その感情の原因や理由を表すことができる。正解は to find。ここでは「犬がいるとわかったので (理由)、驚いた」。

5. My E-mail address is easy to remember. 「私のメールアドレスは覚えやすい」

⑫ You can easily remember my E-mail address. 「私のメールアドレスは容易に覚えられる」(You は一般の人を意味していると考えてよい)。この can easily remember「容易に覚えられる」という副詞を用いた表現を、下の文で「(覚えるのが) 簡単だ」という形容詞を用いる表現に変換する。easy, hard [difficult], possible, impossible, tough, safe, dangerous などの、難易や危険や安全などを表す形容詞を用いて動作を説明する場合、不定詞を含む 2 通りの構文で表現することができる。1つは (S is + 形容詞 + to 不定詞) の形で、もう1つは (it is + 形容詞 + to 不定詞 + S (不定詞の目的語)) の形式主語構文。前者の構文により、正解は is easy。参考までに正解文を後者の構文にあてはめると、It is easy to remember my E-mail address となる。

6. This river is dangerous to swim in. 「この川は泳ぐには危険だ」

⑫ It is dangerous to swim in this river. 「この川で泳ぐのは危険だ」。下の文は、不定詞 (句) の to swim (in this river) が形容詞 dangerous を修飾する用法。この文では、主語 This river は前置詞 in の意味上の目的語となるので、この in を省略することはできない。あるいは、swim in を1つの辞動詞、this river をその目的語ととらえてもよい。正解は in。

7. **解答** This question is too difficult to solve. 「この問題は難しすぎて解けない(解くには難しすぎる)」

⑫ This question is so difficult that no one can solve it. 「この問題はとても難しいので、だれもそれを解けない」。(so ~ that ... (否定文)) 「とても～なので…できない」の構文は、(too ~ to do) の構文を使って書き換えられる。よって、正解は too。下の文では、主語は to 不定詞の意味上の目的語になっている (solve this question)。

8. The ice is thick enough for you to walk on. 「その氷はあなたが上を歩けるほど十分に厚い」

⑫ The ice is quite thick. You can walk on it. 「その氷はかなり厚い。あなたはその上を歩くことが

できる」。この内容をふまえて、(形容詞 [副詞] + enough to do)「～するのに十分に (形容詞 [副詞])」の型にあてはめる。正解の enough は、形容詞 [副詞] を後ろから修飾することに注意する。

⑬ なお、(so ~ that ... (肯定文)) 「とても～なので…だ」の構文を使って書き換えると The ice is so thick that you can walk on it. 「その氷はとても厚いので、あなたはその上を歩ける」となる。

9. She seems to have gone back to her hometown yesterday. 「彼女は昨日、故郷に帰ったようだ」

⑫ It seems that she went back to her hometown yesterday. (訳はほぼ同上)。(It seems + that S' V) の文は、that 節の主語を文全体の主語にして (S' seem(s) to do (V')) に書き換えられる。上の文で、主節動詞 seems は現在形、that 節中の動詞 went は過去形で、時刻のずれが生じている。主節動詞が表す時よりも以前の動作を to 不定詞で表すには完了不定詞 (to have done) を用いる。よって、正解は to have (gone back)。

4

1. "Whose ideas are they?" "The former is my idea, the latter is Jim's." 「それらは誰の案ですか」「前者は私の案で、後者はジムのものです」

⑫ former は「以前の、かつての」という意味の形容詞だが、冠詞の the を伴うと代名詞扱いの「(二者のうちの) 前者」を意味し、これに対する「後者」は the latter で表す。正解の④は、このセットを根拠に選ぶ。なお、the がつくのは、二者における前者後者は常に特定できるからである。

⑬ later は late の比較級で、「より後の (形容詞)、より後で (副詞)」などの意味。the を伴って代名詞扱いになることはないで、①は不可。③ the better は「よりよい人 (もの)、よりよい方」という名詞の意味があり、② another「もうひとつの、別の」は不特定なものを表す代名詞だが、どちらも the former とはセットにならない。

2. "What happened? You look so angry." "Anne has just made a fool of me in public. I'm never going to talk to her again." 「どうしたの。ずいぶん怒ってるみたいけど」「ついさっき、アンが人前で僕をばかにしたんだ。二度と彼女と話すつもりはないよ」

⑫ make a fool of ~ = make fun of ~ 「～をばかにする、物笑いの種にする」。正解は④。～の部分で複数形の場合、fools (複数形) になる。

⑬ ① fun「楽しみ、からかい」は不可算名詞。不定冠詞の a があるので不可。② laugh (名詞で「おかしなこと、愉快な人」などの意味) が make の目的語になることはない。③ (make a) joke (of

～) は「～を笑い飛ばす」の意味で、～の部分には (人) ではなく (深刻な状況) などがある。いずれも不可。

⑬ in public「人前で、公の場で」は頻出の副詞句。

3. It isn't my fault if they are late. 「彼らが遅れたとしても、それは私のせいではない」

⑫ ③ fault は「(過失の) 責任」の意味で、正解。この It は if に続く内容「彼らが遅刻する (こと)」を表す。この if は「たとえ～だとしても (= even if ~)」の (譲歩) の意味でとらえる。

⑬ ① blame「非難、責任」は my などの所有格代名詞で形容詞でできない。② cause は一般的に「原因、理由」、所有格を伴うと「主義、目標」などの意味だが、どれも文意が通らない。④ reason「(もっともな) 理由、理性」も文意が通らない。

4. We have no choice but to import raw materials and export industrial products. 「我々には、原料を輸入して工業製品を輸出する他に手がない」

⑫ (have no choice but to do) は「～すること以外に選択肢がない、～するしかない」という意味の慣用句。正解は④。この but は「～を除いて」という意味で、前置詞に分類される。

⑬ ① supplies「供給物、生活必需品 (supply の複数形)」、② right「権利」、③ demand「需要」。

5. Because I jog regularly, I am in good shape. 「私は定期的にジョギングするので、体調は良好です」

⑫ shape は一般的に「形」の意味だが、前置詞 (句) の in or out of を伴って「状態、調子」の意味を表せる。in (good) shape で「体調・状態がよい」、in bad (poor) shape または out of shape で「体調・状態が悪い」。正解は②。

⑬ ① fit は名詞で「ぴったり合うこと」。形容詞に「健康な」の意味があるが、この問題では前置詞 in があるので、空所には名詞しかこない。意味が通じず、不可。③ mind「心」と④ body「体」はどちらも、in good に続けて「好ましい状態」を表せない。

## 学習のポイント

不定詞の受動態・完了形 ① 5, ③ 3, ④ 9  
ex. It seems that a car ran over the snake.  
= The snake seems to have been run over by a car. 「その蛇は車にひかれたようだ」

不定詞の (結果) を意味する副詞的用法 ① 4  
ex. One morning I awoke to find myself famous.  
「ある朝、目覚めると私は有名人になっていた」

(be to 不定詞) ② 2  
ex. You are to obey traffic rules. 「交通ルールを守らなくてはならない」(義務)

## 解答

- ① 1. ② 2. ② 3. ④ 4. ② 5. ④  
6. ④ 7. ② 8. ① 9. ③ 10. ②  
② 1. getting regular sleep may harm your

- health  
2. is no use trying to persuade him  
3. What do you say to going to the movies

## ①

1. "Would you like to come in/ for coffee?" "I'd love to, but I'm right in the middle of making my daughter's birthday cake." 「コーヒーを飲みに来ませんか」「そうしたいのですが、娘の誕生日ケーキを作っている真っ最中なんです」  
① 直前の (right) in the middle of ~ は「~の(ちょうど) 真ん中に、~の最中に」の意味の前置詞句。前置詞(句) は名詞の直前に置かれるので、後に続く動詞は、名詞に相当する動名詞にする。よって、② making が正解。動詞の原形の①、過去・過去分詞形の③は不可。  
② 不定詞は動詞の目的語になれるが、前置詞の目的語にはなれない。よって、④ to make は不可。  
③ love to の to は代不定詞。  
2. That pop singer hates being followed by reporters. 「あのポップ歌手はレポーターに追いかけられるのが大嫌いだ」  
① 空所は他動詞 hate 「~を嫌う」の目的語にあたるので、名詞またはそれに相当する句や節である。主語 That pop singer と by reporters の関係と、動詞 follow 「~の後を追う」から、「(ポップ歌手がレポーターたちに) 追いかけられる」という受動的な内容を名詞的に表現する。動名詞② being followed 「追いかけられること」が正解。  
③ ①現在進行形と④受動態は名詞に相当しない。③前置詞 to に導かれた句は目的語にはならない。  
3. I would appreciate your helping me. 「お手伝いいただけるとありがたいです」  
① 他動詞 appreciate には「~に感謝する」と「~を正しく理解する」という2つの意味がある。ここでは、選択肢の you(r) と help(ing) と me 「あなたを私を手伝う」という内容から、前者の意味と判断する。他動詞だから目的語となる名詞が必要なので、動名詞の④ your helping me が正解。  
② この文は、I would appreciate it if you would help me. と表せる(it は付節を表す形式目的語)が、②には it がいないので不可。①は前置詞 for で導かれた句なので目的語にならない。③は句として成立していないが、what がなければ可。  
③ appreciate 「感謝する」は、動名詞を目的語にできるが、that 節や不定詞を目的語にできない(「正しく理解する」の意味では that 節を目的語にで

きる)。動名詞が目的語になるとき、この動名詞の意味上の主語は、代名詞の場合は動名詞の直前に所有格または目的格で示される。よって、この your は動名詞 helping の意味上の主語である。

- ④ この would は一種の婉曲表現で、過去形にすることで(現在の仮定的な意見・要求)などを表す。  
4. My work clothes need washing, but I don't have time/ to do the laundry now. 「私の仕事着は洗う必要があるが、今は洗濯をする時間がない」  
① wash 「~を洗う」は他動詞。主語の My work clothes は wash の意味上の目的語にあたるので、「仕事着は洗われる」という受動的意味を表すことになるが、動詞 need には例外的に、動名詞を目的語とするときに「~される必要がある」という意味を表す用法がある。よって、動名詞の② washing が正解。繰り返し音読すること。  
③ to 不定詞を目的語とするときには to be washed のように受動態にしなくてはならない。能動態の④、to がいない③は不可。wash を「洗う(洗われる) こと」の意味の名詞として使う場合、need a wash のように a を伴う。よって、①は不可。  
④ need には助動詞の「~する必要がある」の意味もあるが、ふつう肯定文では用いられない。  
5. I don't feel like watching television. 「私はテレビを見る気がしない」  
① feel like doing 「~したい気がする」は動名詞を用いる慣用句。よって、④ watching が正解。  
② 不定詞の②と動詞の原形の③は不可。この慣用句はもともと「これから(~したい)」という未来志向の内容を表すので、ふつう動名詞の部分で完了形になることはない。よって、①も不可。  
6. I can't eat any more. I'm not used to eating so much/ at lunchtime. 「もうこれ以上食べられません。昼食時にこんなにたくさん食べることに慣れていないのです」  
① be used [accustomed] to ~ (doing) で「~(すること)に慣れている」の意味。この to は前置詞で、後には名詞あるいは名詞に相当するものが続く。動作が続く場合、名詞相当の動名詞にする必要があるので、④ used to eating が正解。  
② <過去の習慣・状態>を表す助動詞 used to do 「以前は~だった、したもった(今は違う)」との混乱を招く問題が頻出する。③は不可。

7. My sister is looking forward to attending her graduation ceremony. 「私の姉(妹)は卒業式に出席するのを楽しみにしている」  
① look forward to ~ (doing) で「~(すること)を楽しみにする」の意味。この to は前置詞なので、後に続くのは名詞、代名詞、動名詞。よって、② to attending が正解。  
② ①④の to 不定詞、③動詞の原形は不可。to につられて動詞の原形を続けるミスが多い。要注意。  
8. There is no telling/ what might come next/ in the present political situation. 「現在の政治の状況では、次に何が起るかわからない」  
① there is no ~ で「~がない」という意味。There is [are] 構文では、事実上の主語は動詞の後に来るので、~の部分には名詞がくる(no は名詞を修飾する形容詞)。動作を表す場合には動名詞となるので、① no telling が正解。この tell は「~がわかる」の意味。There is no telling [knowing] / denying ~ 「~はわからない/否定できない」をそのまま覚えること。  
② 過去分詞が続く②、形容詞が続く③④は、いずれも事実上の主語となる(代)名詞がなく、文として成立しない。なお、正解文は It is impossible to tell what might come ~. に書き換えられる。  
9. I spent all morning/ reading a report/ on the problem. 「私は午前中ずっと、その問題についての報告書を読んで過ごした」  
① spend O ~ 「~にO(お金・時間・労力など)を費やす」。~の部分には(in/onなどの前置詞+ (動)名詞)がくる(動名詞がくる場合、前置詞はよく省略される)。よって③ reading が正解。なお、前置詞を含まない doing の場合、動名詞ではなく分詞構文と判断することもある。  
② 不定詞の①④、動詞の原形の②は、いずれも不可。  
10. Janet was busy helping her mother cook/ in the kitchen. 「ジャネットは母親が台所で料理するのを手伝うのに忙しかった」  
① busy (in) doing 「~するの忙しい」から、② helping が正解。④は前置詞連いで不可(inも、実際に用いられることは少ない)。動詞の原形の①も不可。  
③ busy は (too busy to do) 「忙しすぎて~できない」の表現以外では不定詞を伴わない。③は不可。  
④ (help O (to) do) 「Oが~するのを手伝う」。

## ②

1. Not getting regular sleep/ may harm your health. 「規則正しい睡眠を取らないと健康に害があるかもしれない」

- ① 日本文に「~を取らない」とあるが、整序語中にifがない。この日本文の意味を言い換えた、「規則正しい睡眠を取らないことはあなたの健康を害するかもしれない(直訳)」という無生物主語の構文が思い浮かぶかどうかカギ。動名詞を否定する場合は動名詞の前に not や never の否定語を置く。この文では、Not getting regular sleep 「規則正しい睡眠を取らないこと」が主語。harm は他動詞で「~を害する」、your health は「(一般の人の)健康」を表す。  
2. It is no use/ trying to persuade him. 「彼を説得しようとしても無駄だ」  
① 主語の It と、整序語中の no と use から、it is no use doing 「~することは役に立たない、~しても無駄である」という慣用表現が思い浮かぶかどうかカギ。この it は形式主語で、動名詞以降の内容を指す。受験生の大半が知る次のことわざを覚えよう。It is no use crying over spilt milk. 「覆水盆に返らず(こぼれた牛乳のことで嘆いても無駄だ)」。try to do 「~しようとする」。  
3. What do you say to going to the movies/ next Sunday? 「今度の日曜日に私と一緒に映画を見に行きませんか」  
① 「~しませんか」という勧誘表現は、(what [how] about + 動名詞?)、(why don't you + 動詞?)、(why not + 動詞?) など数多くあるが、ここでは (what do you say to ~?) 「~に対してあなたは何と言いますか?」~はどうですか、~しませんか」の表現をあてはめる。この to は前置詞で、動詞の原形ではなく(動)名詞が続く。なお、日本語の「私と一緒に」に対応する with me がないが、口語表現なので合意されていると判断する。

## 学習のポイント

## 動名詞の意味上の主語 ① 3, ① 1

▶ 動名詞の意味上の主語が文の主語と異なる場合、動名詞の前に(代)名詞の所有格または目的格を置いてその主語を明示する。

- ex. Would you mind opening the window?  
「(あなたが) 窓を開けていただけませんか」  
Would you mind my [me] opening the window?  
「(私が) 窓を開けても構いませんか」

## need doing ① 4

▶ need や want など、(必要)を表す動詞の後に動名詞を続けて「~される必要がある」という受動的意味を表せる(この doing を、能動・受動的の意味を含まない単なる名詞とする考え方もある)。  
ex. These shoes want mending. 「この靴は修繕する(修繕の)必要がある」

## 解答

- ① 1. ③ 2. ④ 3. ③ 4. about  
5. without 6. It, without saying

③

1. He insisted on our returning to the village. 「彼は私たちが村に戻るべきだと主張した(直訳:彼は私たちの村への帰還を主張した)」

⑫ He insisted that we should return to the village. (訳は上の意識とはほぼ同じ。(insist + that 節[on + (動)名詞])の形で「～を強く主張する」の意味。that 節中の動詞の原形 return (自動詞「戻る」)は、下の文では前置詞 on の目的語(名詞)となるので、動名詞 returning となる。また、この意味上の主語 we は、文の主語 He と異なるため、これを所有格の our か目的格の us に変えて returning の直前に置く。よって、③ on our returning が正解。⑬ 前置詞 on がない②は不可。④は動名詞の受動態だが、return の意味が他動詞の「返す」に変わってしまい、文意が合わない。①は、return を名詞と考えたと on がなし、動詞の原形と考えたと insist の語法にはあてはまらない。

2. This book is worth reading. 「この本は読む価値がある」

⑫ This book deserves reading. 「この本は読まれる(読む)価値がある」。deserve doing 「～されるに値する」は、want [need] doing 「～される(する)必要がある」と同様、動名詞が受動の意味を含む。be worth doing 「～する価値がある」ではほぼ同じ意味を表せるので、④ is worth reading が正解。of を含む①は不可。正解文の主語 This book は reading の意味上の目的語。

⑬ worthy は (be worthy of + 名詞 [to 不定詞]) の形で用いる。よって、②③は不可。

3. I regret not having worked harder. 「私はあまり懸命に働かなかったことを後悔している」

⑫ I regret that I didn't work harder. (訳はほぼ同上)。regret は、目的語が不定詞か動名詞かで意味が変わる。不定詞だと「残念ながら(これから)～する」、動名詞だと「(過去に)～したことを後悔する」の意味になる。上の文では that 節中の過去の事柄に対する後悔を表しているのので、下の文では動名詞を使う。上の文の that 節が否定文なので、not を動名詞の前に置いて I regret not working harder. で同じ意味を表せる。このとき、述語動詞が表す(時)(ここでは regret)よりも前の事柄であることをより明確にするために、完了動名詞 having done を用いることもある。こ

こでは③ not having worked が正解。

⑬ ①②は不定詞でも(動)名詞でもなく、regret の目的語として成立しない。④は不定詞だが、「(これから)より懸命に働かない」は文意が合わない。

4. How about having lunch together? 「一緒に昼食を食べませんか(～を食べるのはどうですか)」

⑫ Shall we have lunch together? (訳はほぼ同上)。「～しませんか、～はいかがですか」という(提案・勧誘)を表す(How [What] about ～?)の表現をあてはめる。about は前置詞なので、ふつ～の部分には(代)名詞や動名詞がくる(ここでは動名詞の having)。

5. They never meet without quarreling. 「彼らは会えばいつもけんかをする(直訳:彼らがけんかすることなしに会うことは決してない)」

⑫ Whenever they meet, they always quarrel. 「彼らが会うときにはいつも、(常に)けんかをする。(never ~ without + (動)名詞 (...)) 「…(すること)なしに決して～ない」～すれば必ず…する」という、肯定的な意味になる二重否定の表現をあてはめる。この quarreling は動名詞で、その直前の without は前置詞である。

6. It goes without saying that she has broad experience as a teacher. 「彼女に教師としての幅広い経験があることは言うまでもない」

⑫ Needless to say, she has broad experience as a teacher. 「言うまでもなく、彼女には教師としての幅広い経験がある」。独立不定詞の needless to say 「言うまでもなく」と、動名詞を使った it goes without saying that 「～ということは言うまでもない」の2つの慣用表現で意味を合わせる。前者は独立した句として用いられ、後者は that 節を真正主語(it は形式主語)とする主節として用いられる。どちらも繰り返し音読すること。

④

1. **1322** Take a chance, or you'll never win anything. 「いちかばちかやってみなさい。さもないと何一つ得ることはできませんよ」

⑫ chance には「チャンス、(思いがけない)好機」以外に、「可能性、偶然、冒険、リスク」の意味がある。ここでは、or 以降の「さもない」との文脈から、② Take a risk 「危険を冒す」に一致すると判断する。この win は他動詞で「～を

得る、勝ち取る」の意味。

⑬ ① Take advantage (of ～) で「(～を)利用しなさい」という意味だが、of に続く前置詞の目的語がなく文意不明。③ Take it easy 「よくよするな、落ち着きなさい」は意味が一致しない。④ Take this opportunity は「この機会を利用しなさい」の意味。特定の「この機会」は a chance が持つ不特定性に一致しない (opportunity には「(用意された)機会」という含意もある)。

2. What a shame that John failed the exam! 「ジョンが試験に落ちたのは本当に残念だ」

⑫ 名詞 shame には、主に不可算名詞として「恥、不名誉」の意味と、主に可算名詞として「残念なこと、ひどいこと」の意味がある。ここでは、a があるので可算名詞の意味。④ (a) pity も、不可算名詞として「哀れみ」、可算名詞(主に単数形)で「残念なこと」の意味がある。どちらも、It is a pity [a shame] that ～「～ということは残念だ」のように用いられる。正解は④。

⑬ ① humility 「謙虚さ」は不可算名詞なので冠詞を伴わない。② embarrassment は可算名詞で「困らせる人[物]」の意味。③ a disaster は「災難、まったくの失敗」の意味。いずれも、代入しても同じ意味にはならない。

3. Mary has been on her own since she graduated from college. 「メアリーは大学を卒業して以来、ずっと自活している」

⑫ on one's own は「独力で、一人で、自立して」などの意味をもつ。よって、正解は② independent 「独立した、自立した」。

⑬ ① ambitious 「大望のある」、③ possessive 「所有の、独占欲の強い」、④ selfish 「わがままな、利己的な」。どれも「一人で、自立して」という含意はない。

4. Mary's way of speaking gets on my nerves. 「メアリーの話し方には、私はイライラする(直訳:メアリーの話し方は私をイライラさせる)」

⑫ get on one's nerves は「(主語)～の神経に障る、～をイライラさせる」の意味のイディオム。よって、正解は③ makes me irritated 「私をイライラさせる」。

⑬ ① makes me interested 「私をおもしろがらせる」は意味が合わない。② sounds nervous 「神経が高ぶっているように聞こえる」と④ sounds intelligent 「知的に聞こえる」は、どちらもメアリーの話し方を形容する文(SVCの第2文型)。「私」の含意がなく、意味が合わない。

5. There are quite a few questions to answer. 「回答すべき質問が、かなりたくさんある」

⑫ quite a few は、quite 「かなり」と a few 「(肯定的に)少数の」の組み合わせだが、「かなりの数の、非常に多い」という意味になる。a few には、few 「ほとんどない」に比べて、「ある」という肯定的なニュアンスを含む。よって、③ a fairly large number of 「かなり多数の」が正解。この fairly も、quite や pretty と同様、「かなり、やや」という意味を持つ副詞。number 「数」の多寡は large, small で表すことも重要ポイント。

⑬ ① not so many 「それほど多くない」(否定的なニュアンス)、② some 「いくつかの」(多寡のニュアンスを含まない)、④ 「1つか2つの」はいずれも意味が合わない。

## 学習のポイント

動名詞の完了形 ③

▶ 動名詞の表す(時)が述語動詞の表す(時)よりも前のとき、動名詞は完了形 having done にする。  
ex. I don't remember having made such a promise. 「私はそんな約束をした覚えはない」

動名詞の重要表現① ⑤, 8, 9, ⑥, 2, 5, 6

▶ feel like doing 「～したい気がする」  
ex. I don't feel like eating tonight. 「今夜は食事を取る気がしない」  
▶ there is no doing 「～することはできない」  
ex. There is no knowing what will happen tomorrow. 「明日何が起きるかは知るよしもない」  
▶ spend O doing 「～してOを費やす」  
ex. He spent all his fortune searching for treasure. 「彼は宝探しに全財産を費やした」  
▶ be worth doing 「～する価値がある」  
ex. Kyoto is worth visiting for all foreign tourists. 「京都はすべての外国人観光客にとって訪れる価値がある」  
▶ never ~ without doing 「～すれば必ず…する」  
ex. I never go out without bringing my camera with me. 「私は外出時に必ずカメラを携帯する」  
▶ it goes without saying that ~ 「～ということは言うまでもない」  
ex. It goes without saying that the global economy is changing vastly. 「世界経済が大きく変化しているということは言うまでもない」

動名詞の重要表現② ①, 6, ③

▶ be used [accustomed] to doing 「～することに慣れている」  
ex. I'm not used to being praised. 「私は褒められることに慣れていない」  
▶ What do you say to doing? 「～するのはいかがですか、どう思いますか」  
ex. What do you say to going to see a movie? 「映画を見に行くのはいかがですか」

## 解答

- ① 1. ③ 2. ② 3. ④ 4. ③ 5. ②  
6. ③ 7. ③ 8. ③ 9. ② 10. ②

- ② 1. The number of young people traveling

- abroad has remarkably increased  
2. have to get the work done in  
3. Not having seen my daughter for such

## ①

1. The workers want higher pay, to keep up with rising prices. 「労働者たちは上昇する物価についていくためにより高い給料を望んでいる」

⑮ 選択肢の rise 「上昇する」は自動詞で、活用は① rise-④ rose-② risen. 分詞はその1語なら、形容詞のように前から名詞を修飾できる。「～する、～している」という能動や進行の意味なら現在分詞、「～される」という受動の意味なら過去分詞を用いる。ここでは、物価は「上昇する」ものなので、能動を意味する現在分詞③ rising が正解。

2. In our office, we buy recycled paper, to reduce costs. 「私たちの会社では、経費を削減するために再生紙を買う」

⑮ recycle 「～を再生する」は他動詞。紙は「再生される」ものなので、受動の意味を表す過去分詞 recycled を伴って「再生された紙、再生紙」となる。正解は②。現在分詞の③は不可。

⑮ ①は文構造的に動詞の原形はありえない。river mouth 「河口」のように、名詞 (river) を形容詞的に用いることはあるが、recycle にこの用法はない。④ to 不定詞は buy の目的語になれないし、副詞的用法と考えると目的語が不在になる。

3. An old man stood, in the doorway, holding a lamp. 「老人がランプを持って戸口に立っていた」

⑮ stand は、分詞を補語 (C) とする SVC の文型をとれる。補語が現在分詞なら「～しながら、～して」という能動の意味を、過去分詞なら「～されて」という受動の意味を表す。どちらを使うかは、文の主語との関係から判断する。hold 「～を持つ」は他動詞で、An old man was holding a lamp. 「老人がランプを持っていた」という能動の関係にある。よって、現在分詞④ holding が正解。

⑮ ①②③はいずれも、代入すると文全体の述語動詞のように働きそうだが、すでにある動詞 stood によって文構造が成立しなくなる。

4. I heard that beautiful song, sung by the young girl. 「私はあの美しい歌がその若い娘に歌われるのを聞いた」

⑮ 知覚動詞 hear は、(hear O do) 「O が～するのを聞く」、または (hear O doing [done]) 「O が～している [～される] のを聞く」の形をとれる。O (目的語) とそれに続く動詞形との関係によっ

て能動か受動かが決まる。O の後には、能動ならば動詞の原形か現在分詞、受動ならば過去分詞が来る。ここでは O は that beautiful song. 歌は「(人に) 歌われる」ものなので、受動の意味を表す過去分詞③ sung が正解となる。

⑮ 動詞の原形①「歌が歌う」、現在分詞②「歌が歌っている」はどちらも意味をなさない。過去形④ sang が知覚動詞に続く O の後に来ることはない。

5. Going to the store, I discovered, I had forgotten my wallet. 「店に行くときに、私は財布を忘れていたことに気づいた」

⑮ 分詞で始まる句が、動詞の意味と接続詞の働きを含む副詞句として用いられているとき、これを分詞構文という。分詞構文の主語は、文の主語と同じ場合に省略される。ここでは、選択肢に主語がないので、( ) to the store の句が分詞構文で、その意味上の主語は文の主語と同じ I である。分詞構文の分詞が現在分詞 (doing) になるか過去分詞 (done) になるかは、分詞構文の意味上の主語 (つまり、文の主語と同じ) との関係で決まる。能動ならば現在分詞、受動ならば過去分詞となる。ここでは、文の主語 I 「私」が go 「行く」という能動の関係になり、よって、現在分詞の② Going が正解。過去分詞の① Gone は不可。

⑮ ③ Goes は三単現形なので分詞構文が成立せず、主語と接続詞が必要。④ Go は動詞の原形なので命令文になるが、コンマ以降の内容が続かない。

6. Not knowing what to say, Travis remained silent, all through the meeting. 「何と書いていかなかったので、トラヴィスは会議の途中で黙っていた」

⑮ what to say 「何を言うべきか」は名詞句。選択肢からわかるのは、これを目的語とする動詞が (not) know で、主語がないということ。よって、「何を言うべきかわからなかった (ので)」の意味の分詞構文と判断する。主節の主語 Travis を精うと、Travis didn't know what to say という能動の関係が成立、主節の述語動詞が表す (時) と同じ過去時刻なので、現在分詞 knowing を用いた分詞構文になる。否定語の not は分詞の前に置くので、③ Not knowing が正解。この表現は何度も音読して覚えること。①過去分詞は受動の関係。know は目的語を1つ取るが、すでに目的語

(what to say) があるので成立しない。受動態とは、目的語が主語になる形である。

⑮ 動詞 know は目的語を2つとれない。「～に…を知る」という表現はおかしい。②は nothing と what to say の2つの目的語ができてしまうので不可。分詞構文は原則、分詞の前に置く not や never で否定形にするので、④は不可。no は名詞を否定する形容詞なので、knowing が動名詞になってしまう。

7. Having seen the show, many times, before, she soon became bored. 「そのショーを前に何度も見たことがあったので、彼女はすぐに退屈した」

⑮ 前半の「ショーを前に何度も見た」のは、後半の「退屈した」という過去の出来事よりもさらに以前のことので、これを節の形で表すと she had seen the show ~ となる。これを分詞構文にする場合、分詞が表す時の方が以前であることを明確に示すために、完了形の (having done) の形にすることがある。よって、③ Having seen が正解。

⑮ ①の未来完了時刻は、同じ節中の before 「以前」と時刻が合わない。④は文構造的に不定詞の副詞的用法となるが、「(将来) 見ているために」ととらえても、「もし (将来) 見ていれば」(if 節の代用) ととらえても、意味が通じない。② Had she seen は if が省略された倒置形 (= If she had seen) で、仮定法過去完了の条件節「もし彼女が (ショーを以前に何度も) 見ていたら」となるが、主節が直説法なので文が成立しない。

8. Seen from the plane, the houses look like so many boxes. 「飛行機から見ると、その家々とはとてもたくさんさんの箱に見える」

⑮ 主節の主語 the houses と選択肢の動詞 see との関係を考える。the houses are seen (from the plane) 「家々が (飛行機から) 見られる」という受動の関係になるため、過去分詞を使った分詞構文になる。よって、過去分詞の③ Seen が正解。

⑮ ①②はいずれも能動の関係になるので不可。④は if 節の代用としての仮定を表す to 不定詞句と考えても、後半の主節が仮定法ではないので、不可。

9. There being no more topics to discuss, the chairperson concluded the meeting. 「話し合う題目がもうなかったので、議長は会議を締めくくった」

⑮ 主節の時刻と選択肢から考えて、従節は there were no more topics to discuss の意味となるが、これらの節を結ぶ接続詞がないため、分詞構文と判断する。There is [are] の形を分詞構文にする場合、be 動詞を現在分詞の being にして (There being ~) とする。正解は②。

⑮ ③④は接続詞がなく、時刻も合わない (③は単複

も合わない)。①の形はありえない。

10. He was lost in thought, with his eyes closed. 「彼は目を閉じて物思いにふけていた」

⑮ (with + (代) 名詞 + 分詞) で付帯状況 (中心となる文に、そのときの状況を添えて表現する用法) を表す。(代) 名詞と分詞との関係が能動なら現在分詞、受動なら過去分詞を使う。ここでは、目は「閉じられる」(he closed his eyes → his eyes were closed) という受動の関係なので、過去分詞の② closed が正解。能動・進行を表す③ closing では「目が閉じていく (わずかな間に (物思いにふける) という意味になってしまう。

⑮ 動詞の原形でも形容詞の「近い」でも、① close がこの位置に置かれることはない。④ eyes to close 「閉じるための目」も意味がおかしい。

## ②

1. The number of young people, traveling abroad, has remarkably increased. 「海外旅行する若者は著しく増加している」

⑮ 日本語に「若者は増加している」とあるが、英語では「若者の数が増加している」と表現する。よって、主語 the number of young people、述語動詞 has remarkably increased によって文の主構造が決まる。複数の語からなる分詞 (句) は名詞を後ろから修飾するので、残った traveling abroad は young people の直後に置いて「海外旅行をする若者」という句にする。

2. I have to get the work done, in a week. 「一週間でその仕事をしなければなりません」

⑮ a week が見えているので in a week の句を作る。主語の I が確定しており、さらに the work と done の受動の関係がわかる。ここで、(get O done) 「(O が～されるようにする) O を～してしまふ」の形を思い浮かべる。この動詞の前に、残った動詞 have to を置けば完成する。

3. Not having seen my daughter, for such a long time, I could not recognize her. 「とても長い間、娘と会っていなかったため、娘だとわからなかった」

⑮ 見えている部分から、for such a long time 「そんなに長い間」の句を作る。接続詞も述語動詞もないが、having があるので、これを現在分詞とする分詞構文と判断し、having seen とする。分詞構文の意味上の主語は主節と同じ (ここでは I) なので、my daughter は目的語として seen の直後に置く。否定語の not を分詞の前に置けば完成する。「会っていなかった」は could not recognize 「わからなかった」ときよりも前のことなので、完了形の分詞構文となっている。

## 解答

1. ④→ called    2. ④→ burning  
3. ①→ waiting    4. ④→ fixed  
5. ③→ understood

6. ①→ working    7. ①→ Judging  
① 1. ② 2. ③ 3. ① 4. ① 5. ④

3. As you know, Microsoft developed a computer operating system, calling called Windows. 「知っ  
ての通り、マイクロソフトは Windows と呼ばれ  
るコンピューターの基本ソフトを開発した」

⑫ 名詞を修飾する現在分詞は「～している、～す  
る」という能動の意味を表すため、④ calling  
Windows は「(コンピューターの基本ソフトが)  
Windows を呼んでいる、Windows に電話をし  
ている」という意味になってしまう。「Windows  
と呼ばれる」という受動の意味になるように、④  
calling を過去分詞 called に正す。

⑩ ① As you know 「(あなたも) ご存じの通り」  
は定番の口語表現で、この as は接続詞。②  
developed は「～を開発した」という意味の他動詞。  
その目的語の③ (a computer) operating system  
では、operating は「作用する、動作する」の意  
味の形容詞としてとらえてもよい(少々専門的だ  
が、「基本ソフト」はワープロなどのプログラムに  
作用するので、the system operates for programs  
という能動の関係が成立する)。いずれも正しい。

2. Did you turn off the stove, in the kitchen? I can  
smell something to burn, burning. 「台所のこんろ  
を消しましたか。何かが焦げているにおいがします」

⑫ burn はここでは自動詞の「燃える」。something  
is burning 「何か燃えている」という能動かつ  
進行の関係にある。また、smell は知覚動詞なの  
で、(smell O doing) の形で「O が～している  
においがする」の意味になる (smell では、この  
現在分詞の位置に動詞の原形は置けない)。よっ  
て、④ to burn を現在分詞 burning に正す。

⑩ ① (turn) off ～は「(電気など) ～を消す」とい  
う他動詞扱いの熟語。② stove 「ストーブ」は、  
ここでは台所にあるので「こんろ」の意味と考  
える。smell は「～のにおいを感じる」の意味で③  
can を伴うことが多い。いずれも正しい。

3. Junko kept me waited waiting, for an hour, in  
front of the library. 「ジュンコは図書館の前で私  
を1時間待たせた」

⑫ keep は「O を C の状態にしておく」という意味  
で SVOC の第5文型で用いられるが、この補語  
C に分詞を用いることができる。この O と C は  
意味上で(主語+述語)の関係になり、述語が能

動の場合は現在分詞、受動の場合は過去分詞に  
なる。I (me) wait 「私は待つ」の能動関係から  
(「待つ」の受動は「待たされる」ではなく「待た  
れる」)、① waited を現在分詞 waiting に正す。

⑩ ② for (an hour) は「1時間」の意味。この〈期  
間〉を表す前置詞 for は、wait を動詞とする文  
では省略されることも多いが、あって誤りではな  
い。③ in (front of the) ④ library 「図書館の前で」  
は〈場所〉を表す副詞句。いずれも正しい。

4. This machine seems to be out of order, so you must  
have it fix fixed. 「この機械は故障しているよう  
なので、きみは修理してもらわなくてはならないよ」

⑫ ③ have の目的語 it は this machine 「この機械」  
を指す。次の④ fix は「～を修理する」という意  
味の他動詞。機械は「修理される」ものなので、  
it と fix は受動の関係になる。よって、過去分詞  
を用いる (have O done) 「O を～してもらう」  
の形をあてはめ、④を過去分詞 fixed に正す。

⑩ ① seems の直後には、主語が It の場合は that 節  
が、There や一般名詞の場合は不定詞や形容詞  
がくる。ここでは、主語が It ではないので不定  
詞 to be が続き、時制(三単現)も正しい。②  
out of order 「(主に公共の機械などが)故障して」  
は形容詞句で、be 動詞に続く。正しい。

5. I had no difficulty, in making myself understand  
understood, in English, when I went to America,  
last summer. 「私は今年の夏にアメリカに行った  
とき、英語で意思を通じさせるのに困らなかった」

⑫ (make O done) 「O を～されるようにする」か  
ら、make oneself understood で「(自分自身を  
理解されるようにする) 意思を通じさせる」と  
いう意味になる。よって、③ understand を過去  
分詞の understood に正す。主語が I で、文脈上  
② myself にも誤りはない。make oneself heard  
「自分の声を聞かせる、届かせる」も覚えること。

⑩ ① (have no) difficulty (in doing) 「(～するのに)  
苦勞(しない)。in が前置詞なので doing は動  
名詞。過去を表す副詞句 last summer から、④  
went to になる。どちらも正しい。

6. There were more than 2,000 employees worked  
working, in the automobile factory, most of whom,  
had come from overseas. 「その自動車工場には  
2,000 人を超える従業員がいて、その大部分は海

外から来ていた」

⑫ <There is [are] ～+分詞(...)>は「…している(さ  
れている)～がいる」という意味で、事実上の主  
語(～)と分詞の関係が能動か受動かで、現在分  
詞か過去分詞かが決まる。ここでは、「従業員は  
働く」という能動の関係なので、① worked を現  
在分詞の working に正す(この work 「働く」は  
自動詞なので、受動態にならない)。

⑩ ② most of (the) ～「～の多く」の most は代名  
詞。ここでは、～の部分に the を含まない関係代  
名詞がきているが、誤りではない。③ whom は  
more than 2,000 employees を先行詞とする継  
続用法の関係代名詞。先行詞が人、前置詞 of の  
目的語の働きをするため、目的格で正しい。文後  
半の「従業員が海外から来た」のは、文前半に過  
去形で示される「従業員が働いていた」より前の  
ことなので、過去完了形④ had come も正しい。

7. Judged Judging from the look of the sky, it looks  
like rain. 「空模様から判断して、雨になりそうだ」

⑫ 分詞構文には慣用的に使われるものがあり、その  
1つが judging from ～「～から判断すると」で  
ある。よって、① Judged を現在分詞の Judging  
に正す。このような慣用的な分詞構文においては、  
分詞の意味上の主語が主節の主語と同じでなく  
ても、意味上の主語を明示せずに使えるものがある  
(意味上の主語を明示する場合を〈独立分詞構文〉  
というが、慣用的なものを除いて、現在はほとん  
ど使われない)。

⑩ ② (the look) of (the sky) 「空の様子」。この  
look は名詞で、of は(所有・所属)を表す前置  
詞。正しい。③④ (it) looks like rain 「雨が降  
りそうだ」。この it は〈天候〉や〈明暗〉を表  
す文の主語に用いられ、とくに意味を持たない。  
looks like ～「～のようだ」は、like の後に(動  
名詞や節が続く(ex. It looks like it's going to  
rain.)). この④ rain は名詞で、正しい。

## 4

1. Educated in the U.S., Kozue has a good command  
of English. 「アメリカで教育を受けたので、コズ  
エは英語が達者である」

⑫ have a good command of ～「～を自在に使  
こなす」から、正解は②。～の部分には言語を意  
味する名詞が来ることが多い。good を poor に  
すれば否定的な意味になる。この command は「指  
揮すること、駆使能力」などの意味。

⑩ ① tongue 「舌」は、mother tongue 「母語」の  
ように比喩的に「言語」を表すことはあるが、こ  
の表現で用いられることはない。③ use 「使用」

と④ way 「方法」も、慣用的に不可。

2. I'm in the mood for a pizza. I haven't had one for  
months. 「ピザを食べたい気分だ。もう何カ月も  
食べていない」

⑫ be in the mood for ～ [to do / for doing] 「～を  
食べたい [～をしたい] 気分だ」の慣用表現から、  
正解は③。～の部分には(動)名詞がくる。

⑩ ① habit 「習慣」は、be in the habit of doing 「～  
する癖がある」のように用いる。② 「私は胃の中  
にいる」、④ 「私は味覚(好み)の中にいる」は  
意味不明で、慣用語でもない。いずれも不可。

3. Everyone is worried, that the company will be  
losing a lot of money, but that subject was not  
discussed, at the meeting. 「会社が大量の資金を  
失うことになるだろうと誰もが心配しているが、  
その議題は会議で議論されなかった」

⑫ 文脈から考えて、not discussed 「議論されなかつ  
た」のは that 節の「会社が大量の資金を失いそ  
うなこと」。会議で議論されるこの内容は、②  
story 「物語、(新聞等の)記事」でも、③ plan 「計  
画」でも、④ lecture 「講義」でもない。正解は  
① subject 「議題」である。

4. I have a toothache. I have an appointment, with  
the dentist, tomorrow morning. 「歯が痛い。明  
朝に歯医者への予約をしてある」

⑫ have an appointment [a reservation] は、いず  
れも「予約がある」の意味だが、① appointment  
は「(人と会う)予約」、④ reservation は「(ホ  
テルの部屋やチケットなどの)予約」に用いるの  
が原則。ここでは dentist 「歯医者」との予約な  
ので、①が正解。④は不可。

⑩ ② (have) an arrangement 「準備を整える、取り  
決めをする」のは、歯医者と患者間の行為として  
は不自然と判断する。③ a promise 「約束」に「予  
約」の意味はない。make a promise 「約束をする」  
も重要表現なので覚えておこう。

5. Emily certainly has good taste in dresses and  
accessories. She always looks nice, at work. 「エ  
ミリーは確かに服装やアクセサリーの趣味が  
いい。彼女は仕事、いつも素敵に見える」

⑫ 慣用表現の④ (have good) taste (in ～) 「(服装  
など)～の趣味がいい」が正解。この taste は「味  
わう力、審美的な趣味、センス」の意味。

⑩ ① hobby 「(習慣的な)趣味」、② preferences  
「(他と比べての)好み」(prefer の名詞形)、③  
senses 「(ユーモアなどを)理解する能力、感覚」  
の意味で、いずれも不可。これらの単語は、日本  
語の字づらだけで覚えておくと混乱する。根元的  
な意味まで理解しておくこと。

## 解答

- ① 1. ① 2. ② 3. ③ 4. ① 5. ④  
6. ② 7. ③ 8. ③ 9. ④ 10. ④  
② 1. have played an important role in

2. up for the lost time by working as hard as  
3. can not find fault with his manners

## ①

1. We need to stop at a gas station. We are running out of gasoline. 「私たちはガソリンスタンドで止まる必要がある。ガソリンが切れかかっている」  
① 「～を使い果たす」という意味の run out of ～が第1文の内容と一致するので、① running が正解。この現在進行形は、「ガス欠になる」という〈到達点に近づきつつある状態〉を表している。  
② come out of ～ 「～から出てくる、抜け出す」と③ stay out of ～ 「～に近寄らない」は前文との文脈に合わない。④ carry out 「実行する」は他動詞扱いなので、これに of ～ は続かない。  
2. Why don't you drop in and see me some time? 「いつかうちに立ち寄りませんか」  
① 「ちょっと立ち寄り」という意味の② drop (in) が正解。これは2語で自動詞扱い。「～に(立ち寄り)のように表現するとき、「人(の)ところ」には(drop in) on ～ 「場所」には at ～ を続ける。  
③ ① fit (in) 「調和する」、④ set (in) 「(悪天候や病気の流行などが) 起き始める」は文意に合わない。  
③ take (in) ～ 「～を取り入れる、～を理解する」は他動詞扱いで目的語が必要。  
③ ここでの Why don't you ～? 「～しませんか」は、〈提案〉や〈軽い命令〉を反語的に表す重要表現。  
3. My brother and I have a lot in common, and we get along with each other really well. 「兄(弟)と私は共通点が多く、お互い本当に仲がいい」  
① ③ get along with ～ 「～と仲良くやっていく」が正解。with ～ を伴わない自動詞としても使われ、このときは「(何とか) うまく暮らしていく」という意味になることもある(ex. How are you getting along? 「いかがお過ごしですか」)。  
② look down on ～ 「～を見下す(= despise)」が副詞句 really well 「とてもよく」を伴うことはない。① come up with ～ 「～を思いつく、～を提案する」、④ rise up to ～ 「～まで上る」はいずれも文意が通らない。  
③ have ～ in common 「～を共通に持つ」も重要表現。この文の～の部分にあたる a lot は have の目的語で、「たくさん(のこと)」を表す名詞句。  
4. It is hard to tell good from evil. 「善悪の区別をするのは難しい」  
① ① tell は「～がわかる、～を見分ける」という、

distinguish と同じ意味を持つことがある。tell [distinguish] O from ～ 「O を～と区別する」で覚えておこう。

- ② make good は自動詞扱いで「(目的などを) 果たす、成功する」の意味。make O from ～ は「～から O を作る」の意味だが、「悪から善を作る」という表現は、内容が抽象的かつ不明瞭なので、不適と判断する。④ hear O from ～ 「～から O を聞く」についても同様に不適。③を覚えて訳せば「悪からの善に言及する」となるだろうが、これも意味がわからない。  
5. At the moment, our technology is more advanced, but other countries are catching up with us. 「今のところ、私たちの技術のほうが進んでいるが、他の国々も私たちに追いつきつつある」  
① catch up with ～ は「～に追いつく」という意味の群動詞。よって、④ catching が正解。  
③ ① chase up は「～を急がせる」、② follow up は「～を追求する、徹底的に調査する」、③ beat up は「～を打ちのめす」の意味。いずれも他動詞扱いで、up の直後に目的語を要する。with があるので、いずれも不可。  
6. We are not sure if we can go to the beach. It depends on the weather. 「私たちは浜辺に行けるかどうかわからない。天気次第だ」  
① depend は「(～に) 左右される、(～で) 決まる」という意味の自動詞。目的語をとるために、前置詞の on (または upon) を用いる。正解は②。  
③ なお、第2文の主語 It は、前文後半の if we can go to the beach 「私たちが浜辺に行けるかどうか(ということ)」を指す。  
7. Tom thought he might have forgotten to put out the fire, so he hurried back to the campsite to make sure. 「トムは火を消し忘れたかもしれないと思い、確認するためにキャンプ場に急いで戻った」  
① 目的語が the fire なので、③ put out ～ 「～(火など)を消す」(= extinguish) が正解。  
③ なお、テレビや電灯などの「(スイッチを回して) 消す」は turn off を用いる。  
③ ① take off ～ 「～を脱ぐ、はずす」、② turn away ～ 「(顔など)をそむける、(申し出など)を拒否する」、④ make out ～ 「～を理解する」はいずれも文意が通らない。

8. After trying on a dozen skirts, Helen ended up not buying one at the store. 「何枚ものスカートを試着したあと、ヘレンは結局その店ではスカートを買わないことにした」  
① trying on a dozen skirts 「スカートを何枚も試着する」という経過と、not buying one 「スカートを買わない」という結果から、「結局～(する[しない] こと)に終わる」という意味を表す群動詞の③ (end) up ([not] doing) が正解。  
③ 自動詞 end は「(戦争や物語などが) 終わる、(人が) 死ぬ」の意味。その直後にくる up 以外の副詞や前置詞は、独立した副詞(句)の一部と考えてよい。この問題では主語の Helen が亡くなる文脈は考えられず、①②④いずれも不可。  
③ a dozen 「1ダース(の)、かなり多く(の)」。  
9. John is very busy these days. It is not easy to get in touch with him. 「ジョンは最近とても忙しい。彼と連絡を取るのには容易ではない」  
① ④ (get in) touch (with ～) 「～と連絡を取る(動作)」が前文との文脈に合う。これが正解。  
③ ① (in) connection (with ～) は「～と関連して」の意味の前置詞句だが、get in 導かれることはない。get in a fight with ～ で「～を相手に戦う」の意味だが、②は a がなく、前文との文脈も合わない。③ together with ～ で「～とともに」という前置詞句になるが、ここでは get in / together with him 「彼とともに/中に入る」などの意味になり、前文との文脈が合わない。  
10. It is impossible to deal with this problem here and now. 「今ここで、この問題进行处理するのは不可能だ」  
① 群動詞④ (deal) with ～ 「(問題など)を扱う、処理する」が正解。  
③ ① on、② for、③ under のいずれも、deal とともに群動詞にはなれない。deal を含む群動詞は、他に deal in ～ 「(商店などが) ～を取り扱う」を覚えておけばよいだろう(ex. His company deals in old records. 「彼の会社は古いレコードを扱っている」)。  
②
1. Boards of health have played an important role in the improvement of public health. 「保健所は公衆衛生の向上に大きな役割を果たしてきた」  
① 整序語中の played と不定冠詞 an と role から、play a ～ role [part] in ... 「…において～な役割を果たす」という定形表現に気づけば簡単。role はよく形容詞で修飾され、ここでは important があてはまる。残った have を、現在完了形を表

- す助動詞として played の直前に置けば完成する。  
2. ② I will make up for the lost time by working as hard as I can. 「失った時間は、できるだけ精一杯働くことで取り戻します」  
① 文末の I can から、as ～ as I can 「私にできる限り～(副詞)」の慣用表現に気づく。また、見えている動詞 make と、整序語中の for と up から、make up for ～ 「～を償う、埋め合わせる」という意味の群動詞に気づき、その目的語に名詞句 the lost time 「失われた時間」をあてはめる。残った副詞句 by working 「働くことによって」を as hard as I can の直前に置いて完成する。  
3. I cannot find fault with his manners. 「彼のマナーに非はない」  
① 整序語中の find, fault, with から、群動詞 find fault with ～ 「～の欠点を採す」(= criticize) に気づく。その目的語(～)に名詞句 his manners 「彼のマナー」を置き、助動詞 can の否定形 cannot を主語 I の直後に置けば完成する。

## 学習のポイント

目的語をとらない2語の動詞イディオム

(動詞+副詞)

- break down 「故障する」  
ex. His car broke down. 「彼の車が故障した」  
► go on 「続く」  
ex. The discussion went on for two hours.  
「討論は2時間続いた」  
► set in 「始まる」  
ex. The rainy season has set in. 「雨期が始まった」  
► stand out 「目立つ」  
ex. Her red dress stands out against that background. 「彼女の赤いドレスはあの背景に目立つ」  
► turn up 「現れる」  
ex. George didn't turn up at the party.  
「ジョージはパーティーに姿を見せなかった」

目的語をとる2語の動詞イディオム①

(動詞+前置詞)

- care for ～ 「～を好む」  
ex. I don't care for coffee.  
「私はコーヒーが好きではない」  
► call for ～ 「～を要求する、必要とする」  
ex. People were calling for reform.  
「人々は改革を要求していた」  
► call on ～ 「～(人)を訪ねる」  
ex. Please call on me when you have time.  
「時間があるときに訪ねてください」  
► cope with ～ 「～に対処する、切り抜ける」  
ex. How did you cope with the situation?  
「その状況をどう切り抜けたか」

動詞を含むイディオム(1)

解答

- ③ 1. ① 2. ④ 3. ③ 4. ④  
5. into 6. do, with 7. put off

- ④ 1. taken 2. wrong 3. hiding  
4. home 5. perfect

③

1. A student assembly will take place on Friday afternoon in the school grounds. 「金曜日の午後

に学校の構内で生徒集会が開かれる予定だ」  
⑫ There will be a student assembly on Friday afternoon in the school grounds. (訳はほぼ同上)。「(行事などが)行われる、開催される」という意味のイディオム① take (place) が正解。この表現は、予定された出来事について用いられることが多いが、「(偶発的な事故や災害などが)起こる」という意味でも用いられることがある。

⑬ ② happen, ④ occur はどちらも、これらの自動詞だけで「(偶然)起こる」という意味(後者の方が少々堅い語)。自動詞は目的語をとれないのに place があるので、文法的に不可。③のような表現はない。

2. The tour guide was not able to make out what a Japanese tourist said. 「ツアーガイドは、日本人の旅行客が言ったことを理解できなかった」

⑭ The tour guide was not able to understand what a Japanese tourist said. (訳はほぼ同上)。群動詞 make out 「～を理解する」の意味を問う問題で、④ understand が正解。what a Japanese tourist said 「ある一人の日本人旅行客が言ったこと」は名詞句で、understand や make out の目的語である。

⑮ ① ask 「～を尋ねる」、② examine 「～を調べる」、③ solve 「～を解決する」はいずれも、上の文と意味が異なる。

3. She cannot put up with his rude attitude toward her any more. 「彼女は自分に対する彼の無礼な態度に、もうこれ以上我慢できない」

⑯ She cannot stand his rude attitude toward her any more. (訳はほぼ同上)。他動詞 stand と意味が一致する群動詞を選ばせる問題。stand は自動詞で「立つ、立っている」の意味だが、他動詞で「～を我慢する」(= endure [bear / tolerate]) の意味がある。③ put up with 「～を我慢する」がほぼ同じ意味で、正解。

⑰ ① catch up with 「～に追いつく」、② get down to 「～に本気で取りかかる」、④ run up to 「～に駆け寄る」は、いずれも群動詞だが、文意が通らない。

4. Though Mr. Robert is only twenty eight, students look up to him as a good teacher. 「ロバート先生はまだ28歳だが、学生たちは彼をいい先生として尊敬している」

⑱ Though Mr. Robert is only twenty eight, students respect him as a good teacher. (訳はほぼ同上)。look up to 「～を尊敬する」という意味の群動詞で、ほぼ同じ意味の④ respect が正解。反意表現 look down on [upon] 「～を軽蔑する」も重要。

⑲ 群動詞なので、受動態になっても形は変わらない(ex. Mr. Robert is looked up to by students.)。to を脱落させないように注意する。

⑳ ① reserve 「～を予約する」は意味をなさない。② neglect 「～を無視する」、③ despise 「～を軽蔑する」はいずれも、「よい先生として」という内容にうまくつながらない。

5. I ran into a friend of mine at the ballpark last evening. 「私は昨夜、野球場でばったり友達に出会った」

㉑ I happened to meet a friend of mine at the ballpark last evening. (訳はほぼ同上)。happen to do で「偶然～する」の意味なので、happen to meet は、ほぼ同じ意味を群動詞の run into 「偶然～に出会う」(= come across) で表せる。よって、into が正解。

㉒ a friend of mine も my friend も「私の友達」と訳せるが、後者は「私の唯一の友達」という響きを持つことがある。英訳する際には、前者で表現する方がよいことが多い。

6. The leaders of the two countries agreed to do away with nuclear weapons by 2020. 「その2国の指導者は2020年までに核兵器を廃絶することで合意した」

㉓ The leaders of the two countries agreed to abolish nuclear weapons by 2020. (訳はほぼ同上)。abolish 「～を廃止する」は群動詞の do away with とほぼ同じ意味。よって、do, with が正解。

7. She has put off her departure until the day after tomorrow. 「彼女は出発をあさってまで延期した」

㉔ She has postponed her departure until the day after tomorrow. (訳はほぼ同上)。postpone 「～を延期する」は、群動詞の put off とほぼ同じ

意味。よって、put off が正解。

㉕ has がある現在完了形の文なので、この put は過去分詞。

④

1. I'm sorry. This seat is taken. 「すいません。この席はふさがっています」

㉖ This seat is reserved. (訳はほぼ同上)。動詞 reserve 「予約する、取っておく」は、ここでは受動態なので、「予約済み、取られている」などの意味。take a seat で「席に座る」だが、受動態 the seat is taken は「(その席は)座られている」→「座る人がいる」という意味なので、内容的にはほぼ同じと判断できる。正解は taken。

2. This is the wrong book. 「これは(意図したものと)は違う本です」

㉗ This is not the book we wanted. 「これは私たちが欲しかった本ではありません。」「ほしいものではない」=「意図したものと違う」の意味に近い wrong 「間違った」が正解。語感を養うために例を挙げておこう。the wrong number 「番号違い、間違い電話」、the wrong bus 「(本来乗るのとは)違うバス」、the wrong person 「適さない人(悪い人)」というニュアンスはない。

㉘ 上の文では、the book のあとに目的格関係代名詞が省略されている。

3. He is hiding something. 「彼は何かを隠している」

㉙ He is not telling us the whole truth. 「彼はすべてをありのままに私たちに話しているわけではない。この部分否定の内容を逆に考えると、「話していないことがある。hide 「隠す」を現在進行形にした hiding が正解。

4. Make yourself at home. 「くつろいでください」

㉚ Please come in and sit down. 「お入りになって、お座りください。来客を支障に招き入れ、くつろぐことを促している場面と判断できる。これは、イディオムの Make yourself at home. 「(自分自身を家にいるような気になさなさい) くつろいでください、楽にしてください」と内容的に一致していると判断できる。正解は home。

5. No one is perfect. 「完璧な人はいない」

㉛ Everyone makes mistakes. 「誰でも失敗をする」。この内容を損ねないように表現を言い換えていくと、「失敗しない人は一人もいない」=「完璧な人はだれもいない」となる。「完璧な」を表す perfect が正解。

学習のポイント

目的語をとる2語の動詞イディオム① (つづき)  
(動詞+前置詞)

- ▶ do without 「～なしで済ます」  
ex. He says he cannot do without a cell phone. 「彼は携帯電話なしではやっていけないと言う」
- ▶ go through 「～を経験する」(= experience ~)  
ex. He went through many hardships. 「彼は多くの困難を経験した」
- ▶ hear from 「～から便りがある」  
ex. Have you heard from Nancy? 「ナンシーから連絡はありましたか」
- ▶ look after 「～を世話する」(= take care of ~)  
ex. My sister looks after the baby. 「姉(妹)はその赤ちゃんの世話をする」
- ▶ look into 「～を調べる」(= investigate ~)  
ex. The police are looking into the case. 「警察はその事件を調べている」
- ▶ result in 「～の結果になる」  
ex. Our plan resulted in a great success. 「私たちの計画は大成功に終わった」

目的語をとる2語の動詞イディオム②  
(動詞+副詞)

- ▶ bring up 「～を育てる」(= raise ~)  
ex. He was brought up in Hawaii. 「彼はハワイで育てられた」
- ▶ call off 「～を中止する」(= cancel ~)  
ex. They called off the baseball game. 「彼らは野球の試合を中止にした」
- ▶ figure out 「～を理解する」(= understand ~)  
ex. I cannot figure out what she said. 「私は彼女が言ったことが理解できない」
- ▶ give up 「～をあきらめる」(= abandon ~)  
ex. We had to give up the plan. 「私たちはその計画をあきらめざるをえなかった」
- ▶ hand in 「～を提出する」  
ex. I must hand in this paper by Monday. 「私はこのレポートを月曜日までに提出しなければならぬ」
- ▶ look up 「～を調べる」  
ex. Look up the word in a dictionary. 「その単語を辞書で調べなさい」
- ▶ put away 「～を片づける」  
ex. Put away these magazines right now. 「これらの雑誌を今すぐ片づきなさい」
- ▶ put on 「～を着る」(= wear ~ 「～を着ている」)  
ex. Army put on a coat and went out. 「エイミーはコートを着て外出した」
- ▶ take over 「～を引き継ぐ」(= succeed to ~)  
ex. I'm going to take over my father's business. 「私は父の事業を引き継ぐつもりだ」
- ▶ turn on 「(テレビや電灯など)をつける」  
ex. He turned on the radio. 「彼はラジオをつけた」



## 動詞を含むイディオム(2)

## 解答

1. ③ 2. ① 3. ④ 4. ④ 5. ④  
6. ② 7. ① 8. ④ 9. ④ 10. ②  
2. 1. no idea whether to apply for

## 1

1. They will surely carry out their plan without difficulty. 「彼らはきっと自分たちの計画を難なく実行するだろう」

目的語に their plan 「彼らの計画」をとって文意が通じる群動詞を選ぶ。③ carry out ～ 「～を実行する」が正解。

① look out はたいいてい自動詞で「外を見る」。② turn on ～ は「(スイッチなどを用いて、電器製品やガスなど)をつける、出す」。④ break in は、自動詞で「(建物などに)侵入する、話に割り込む」、他動詞で「(馬や人間)を訓練する」。どれも目的語に their plan をとれる群動詞ではない。

2. The network engineer has to come up with a successful plan to solve the problem. 「そのネットワークエンジニアは、その問題をうまく解決できる計画を生み出さなくてはならない」

a successful plan 「うまくいく計画」が目的語なので、「～を生み出す、考え出す」という意味の群動詞① come up with ～ が正解。

② come up to ～ 「～に届く、～に近づく」など、③ get up (with ～) 「～とともに)起床する」、④ go up (along ～) 「～に沿って)上がる」はいずれも文意が通らない。

3. James is a very reliable young man, so you can count on him to be there on time. 「ジェームズはとても頼りになる若者なので、彼が時間通りにそこにいることは、あてにできるよ」

reliable 「頼りになる」、on time 「時間通りに」といったキーワードから、「～をあてにする、～に頼る」という意味の④ count on ～ が正解。

① assure 「～に保証する」は他動詞なので、目的語のための前置詞 on が不要。② trust は、他動詞として「～を信頼する」の意味で用いられることが多い。自動詞としては、前置詞 in を伴って「～を信頼する、あてにする」、to を伴って「～に頼る、あてにする」の意味になるが、on は伴わない。③ wait on ～ 「～に給仕する、世話をする」は文意に合わない。

4. It is good manners to turn off your cellular phone in public places. 「公共の場では携帯電話の電源を切るのが礼儀だ」

目的語が your cellular phone 「(一般的な) 携帯

2. Make use of every chance to speak  
3. be unable to go without using a cellular phone for

電話)なので、④ turn off ～ 「(電気などを)切る」が正解。これは turn on ～ の反意表現。

① make off 「逃げ去る」は自動詞扱いで、目的語を取れない。② take off ～ 「～を脱ぐ(身から外す)」、③ bring off ～ は「～をうまく成し遂げる(口語表現)」。どれも文意に合わず、不可。

5. When it comes to jogging, John is definitely the best in his class. 「ジョギングのこととなると、ジョンは間違いなくクラスで一番だ」

when it comes to ～ は「～のこととなると」という定型表現。この to は前置詞で、動名詞を含む名詞相当語句が後に続く。よって、(to + 動名詞)の④ to jogging が正解。

6. The soccer team owners finally gave in to the players' demands and promised to increase their salary. 「そのサッカーチームのオーナーたちは、最後には選手たちの要求をのんで、給料を増やすことを約束した」

後半の「選手たちの給料を増やすと約束した」という文脈に合うものを選ぶ。give in (to ～) は「(～に)屈する」(= surrender (to ～)) という意味を表すので、② gave in (to) が正解。

① kicked off ～ (with ...) 「(…で)～を始めた」は to に続かない。③ held on (to ～) 「(～に)しがみついた、固執した」は文意に合わない。④ broke up 「(友情や関係などが)壊れた、解散した」は主に自動詞扱いで、to には続かない。いずれも不可。

7. Angela takes after her mother in everything. They are like twins. 「アンジェラはあらゆる点で母親に似ている。彼女たちはまるで双子のようだ」

① (takes) after ～ 「～に似ている」が、第2文の「双子のようだ」という文脈に合う。正解。他動詞 resemble 「～に似ている」はやや堅い表現。

② (takes) in ～ は、「～を取り込む、(主に否定形や疑問文で)理解している、(主に受動態で)だます」など、さまざまな意味があるが、ここであてはまる意味はない。③ (takes) over ～ 「(仕事など)を引き継ぐ」、④ (takes) up ～ 「(話題など)を取り上げる、～を(仕事や学問として)始める」は、どちらも文意に合わない。

8. GDP stands for gross domestic product. 「GDP は国内総生産のことを表す」

GDP は gross domestic product の頭文字を取った略語。よって、「(記号などが)～を表す、～の略語である」の意味の④ stands for ～ が正解。

① derives from ～ 「～に由来する、～から出ている」、② comes from ～ 「～から来る、～に由来する」は、「～から来る」の日本語的な意味では通じそうだが、英語では同一のものについて、このようには表現しない。③ makes up for ～ 「～を償う、埋め合わせる」は文意が通らない。

9. When the police questioned the suspect, he could not account for his location the previous night. 「警察が容疑者に尋問したとき、彼は前の夜の居場所を説明することができなかった」

the police は複数扱いなので、主節の主語 he は the suspect を指す。「容疑者が警察に尋問され、前の夜の自分の居場所を…できなかった」という文脈を考えれば、…の部分には「～を説明する」という意味の④ account for ～ (= explain ～) がくると判断できる。

① get over ～ 「(困難や病気など)を克服する」は文意が通らない。②は英語にはない表現。「リストアップする」は和製英語で、英語では単に list でよい。③ take in ～ は「(話や見聞きしたこと)を理解している」の意味なので、文意が通らない。

10. Yesterday, Dick came across the professor of mathematics at the subway station when he was on his way home. 「昨日ディックは、帰宅途中に、地下鉄の駅で数学の教授に偶然出会った」

人を表す the professor 「教授」が目的語なので、② came across ～ 「～に偶然出会った」が正解。

① came about 「起きた」と③ came out 「出てきた」は自動詞扱いなので目的語をとれない。④ came (to ～) は、「(話し相手や、視点や話題の中心を表す～のところへ)来た、行った」の意味(ex. "I'll come and get you." 「私が迎えに行きます。」。at the subway station ～ 「地下鉄の駅で～」以降の部分と合わないので、不可。

## 2

1. I had no idea whether to apply for the job or not. 「その仕事に応募すべきかどうかわからなかった」

no idea を文頭につなげて I had no idea 「わからなかった」(= I didn't know) を作る。had no idea は、didn't know と同様に、接続詞 that や疑問詞で始まる、名詞節や名詞句を続けることができる。ここでは (whether + to 不定詞) の名詞句の形で (whether は接続詞)、whether to apply for ～ 「～に応募すべきかどうか」を続

ければ文が完成する。

③ apply for the job 「仕事に応募する」。whether A or not [or not A] 「A かそうでないか」。

2. Make use of every chance to speak English. 「英語を話すあらゆる機会を利用しなさい」

文末に English が見えているので、これを目的語にできる動詞 speak を直前に置く。一方で、整序語内の make, of, use から群動詞 make use of ～ 「～を利用する」に気づき、every chance 「あらゆる機会」をその目的語に置く。残った to を speak の前に置くことで、この形容詞的用法の不定詞を chance につなぎ、命令文を完成する。

3. Some young people seem to be unable to go without using a cellular phone for more than an hour. 「若い人の中には、携帯電話なしで1時間も過ごせない人がいるようです」

文末に more than an hour 「1時間以上」が見えているので、期間を表す前置詞 for をその直前に置く。整序語中の be unable to 「～することができない」には動詞の原形 go を続けるしかなく、また、文頭に見えている seem to にも動詞の原形が続くので、(seem to) be unable to go が決まる。ここで、群動詞 go without ～ 「～なしで済ませる (= do without)」をつなぐ。without は前置詞なので、動名詞を用いた句である using a cellular phone 「携帯電話を使うこと」を、その前置詞の目的語として置いて、完成する。

## 学習のポイント

目的語をとる3語の動詞イディオム  
(動詞+副詞+前置詞)

- ▶ get through with ～ 「～を終える」  
ex. I got through with my paper at midnight.  
「私は深夜にレポートを書き終えた」
- ▶ keep up with ～ 「～に遅れずについていく」  
ex. He always tries to keep up with the latest news.  
「彼はいつも最新のニュースに遅れずについていくようにしている」
- ▶ look forward to ～ 「～を楽しみにする」  
ex. I am looking forward to the party.  
「私はそのパーティーを楽しみにしている」
- ▶ look out for ～ 「～に注意する」  
ex. We had better look out for falling rocks.  
「私たちは落石に注意したほうがいい」
- ▶ speak highly [well] of ～ 「～をほめる」  
ex. Janet speaks highly [well] of you.  
「ジャンネットがあなたをほめていますよ」
- ▶ speak ill of ～ 「～の悪口を言う」  
ex. You should not speak ill of others.  
「他人の悪口を言うべきではない」

## 動詞を含むイディオム(2)

## 解答

① 1. ④ 2. ④ 3. ① 4. ① 5. ①  
6. ③ 7. ③ 8. ② 9. ③

② 1. ② 2. ① 3. ② 4. ④ 5. ②

- ③
- The new policy brought about reorganization of the industry. 「新しい政策は産業の再編成をもたらした」  
bring about ~ 「~を引き起こす、もたらす」は cause とほぼ同じ意味。過去形の④が正解。  
① stopped 「止めた」、② promised 「約束した」、③ weakened 「弱めた」は、いずれも意味が異なる。
  - It seems I have to get rid of this favorite shirt of mine. 「私のこのお気に入りのシャツを捨てなくてはならないようだ」  
get rid of ~ 「~を取り除く、捨てる」と同じ意味の④ throw away ~ 「~を捨てる」が正解。  
① repair 「~を修理する、繕う」、② cherish 「~を大事にする」、③ wash 「~を洗う」はいずれも意味が異なる。  
⑤ It seems (that) ~ 「~のようだ」。
  - To everyone's surprise, the rumor turned out to be false. 「みんなが驚いたことに、そのうわさは間違いだとわかった」  
turn out (to be) ~ は「~と判明する、~という結果になる」という意味で、prove (to be) ~ とほぼ同じ意味。よって、① proved が正解。  
② allowed 「~を許した」は〈allow O to do〉「O が~するのを許す」のように用いる。この to do の意味上の主語となる O がないので、意味が通らない。③ tried 「~を試した」は、ここでは〈try to do〉「~しようと試みる」の形だが、「うわさ」が「試みる」のは不自然。④ continued 「~し続けた」は意味が異なる。
  - It is necessary for him to get over his trauma. 「彼はトラウマを克服する必要がある」  
get over ~ 「~を克服する、乗り越える」とほぼ同じ意味の① overcome が正解。  
② analyze 「~を分析する」、③ obtain 「~を手に入れる (get の堅い語)」はどちらも意味が異なる。④ consult 「~に相談する、~を参照する」では、「(専門家などの) 人」や「(辞書などの) 参考書」が目的語になり、「(相談する) 内容」は about や on などの前置詞に導かれる。このままでは「トラウマに相談する」の意味になる。  
⑤ It の形式主語は to 以下の内容を、for に導かれる him は get over の意味上の主語を表している。

- The report should be turned in by the end of this month. 「報告書は今月末までに提出すべきだ」  
turn in ~ 「~を提出する」は、submit や hand in ~ とほぼ同じ意味。よって、過去分詞形の① submitted が正解。  
② succeed には「成功する、~の後を継ぐ」の2つの意味がある(どちらも下線部とは意味が異なる)が、前者は目的語をとらない自動詞として用いられるので、受動態になることはない。後者の意味では、「継ぐもの」は前置詞 to に導かれる。ここでは the report を「継げるもの」と考えたとき、succeeded の後に to が必要となる。  
③ struggle 「奮闘する、もがく」は自動詞なので受動態にならない。④ surrender は自動詞の「降伏する」の意味では受動態にならず、他動詞の「~を引き渡す、譲る」では意味が異なる。
- Are you going to take part in that speech contest? 「あなたはあのスピーチコンテストに参加するつもりですか」  
take part in ~ 「~に参加する」は③ participate in ~ とほぼ同じ意味で、これが正解。  
① prepare for ~ 「~の準備をする」、② pay for ~ 「~の代金を支払う」、④ look forward to ~ 「~を楽しみに待つ」はどれも意味が異なる。
- Why did you turn down the offer at the very last minute? 「なぜあなたは間際になってその申し出を断ったのですか」  
turn down ~ 「~を断る」は③ reject とほぼ同じ意味で、これが正解。  
① propose 「~を提案する」、② accept 「~を受け入れる」、④ change 「~を変える」はいずれも意味が異なるので不可。
- The war between the two countries broke out five years ago. 「その二国間の戦争は5年前に勃発した」  
break out は「(戦争・火事などが) 起こる、勃発する」の意味で、war が主語の文では start とほぼ同じ意味になる。過去形の②が正解。  
① ended 「終わった」、③ discontinued 「(続いていたものが) 中止になった」は、いずれも意味が異なる。④ continued 「続いた」は、five years ago 「5年前に」とともに用いるのは不自然。
- Fresh vegetables are hard to come by in the winter. 「新鮮な野菜は手に入りにくい」  
come by ~ 「(苦勞して) ~を手に入れる」は、

表面的には get や obtain とほぼ同じ意味で、③ get が正解。ここでは、主語の fresh vegetables が come by の意味上の目的語になっている。

① see 「~を目にする、~が見える」、② grow 「~を栽培する」、④ sell 「~を売る」はいずれも意味が異なる。

## ④

- This business opportunity sounds too good to be true. 「この商機は話がうますぎるように聞こえる」  
This business opportunity sounds so good that it might be false. 「この商機はとても聞こえがいいので、正しくないかもしれない。too good to be true (too to 構文) は「(本当であるには良さすぎる→) 話がうますぎる、すばらしい話だ」という意味の慣用表現。後者のように純粹に喜びを表す場合もあるが、下の so that 構文の文脈「この商機がとても良いように聞こえるので、~かもしれない」では、④ true 「本当の」をあてはめても不自然。ここは不自信を表す表現として、② false 「正しくない」が正解。  
① reasonable 「妥当な」は肯定的な意味なので、文脈が不自然。③ responsible 「責任がある」では文意が通じない。
- The firefighter had a narrow escape from death at the fire. 「その消防士は、その火事で九死に一生を得た」  
The firefighter barely escaped death at the fire. 「(その消防士は、その火事で、ほとんど死を免れなかった→) 辛うじて死を免れた」。形容詞の narrow 「狭い」は、それが修飾する名詞によって「間一髪の、辛うじての」などの意味になる。barely escaped 「辛うじて脱出した」は had a narrow escape 「間一髪の脱出をした」と内容的に一致する。①が正解。  
② quick 「迅速な」、④ clean 「きれいな」は内容が一致しない。③ short (escape) は「短期間の(逃避、旅行)」という意味で、これも不可。
- He is as good as his word. 「彼は約束を守る人だ」  
He always keeps his word. 「彼はいつも約束を守る」。one's word には「約束」の意味がある(ex. a man of his word 「約束を守る男」)。good には「信頼できる」の意味があるので、これを代入して直訳すると、「(彼は彼の約束と同じくらい信頼できる) 彼は約束を守る人」となる。慣用表現として覚えよう。正解は②。  
① right 「正しい」、③ fine 「元氣な、立派な」、④ perfect 「完全な、非の打ち所のない」。どれも、一般的に「約束」を修飾する形容詞ではない。

4. I was extremely touched by her sympathetic attitude. 「私は彼女の思いやりのある態度に、とても感動した」

Her sympathetic attitude moved me very much. 「(直訳: 彼女の思いやりのある態度は私をとても感動させた→) ~に私はとても感動した」。touch も move も、他動詞で「~を感動させる」の意味がある。正解は④ moved。

① surprised 「驚かせた」、② disappointed 「失望させた」、③ 「興奮させた」はいずれも意味が異なる。

5. This report is due on Friday. 「このレポートの提出期限は金曜日だ」

You have to finish this report by Friday. 「あなたはこのレポートを金曜日までに終えなくてはならない」。② due は、ここでは「提出期限が来て」という意味の形容詞。文意が同じと判断できるので、正解。due は、主語に応じて「(到着や支払いの) 予定・期限である」などの意味になる。

空所の前に is があるので、この文は SVC の第2文型と判断する。C (補語) になれるのは名詞や形容詞。① end に形容詞はないので、名詞の「終わり、結果、目的」などの意味だが、どれも文意が通らない。④ last 「最後の」も文意が通らない(名詞「最後の(物・人)」には定冠詞 the がつくのが原則)。③ overtime は、名詞「時間外労働」は意味が通らず、形容詞「時間外の」は限定用法(補語としてではなく、名詞を直接修飾する用法)でしか用いられない。いずれも不可。

ex. good weather (形容詞 good は名詞 weather を直接修飾する(限定用法))、The weather is good. (形容詞 good は補語なので(叙述用法))。

## 学習のポイント

名詞を含む動詞イディオム

- catch sight of ~ 「~を見つける」  
ex. I caught sight of Jim in the crowd.  
「私は人込みの中でジムを見つけた」
- keep in touch with ~ 「~と連絡を保つ」  
ex. We keep in touch with each other by e-mail.  
「私たちは電子メールで連絡を保っている」
- make fun of ~ 「~をからかう」  
ex. My brother made fun of me.  
「兄(弟)は私をからかった」
- make up one's mind to do ~ 「~する決心をする」  
ex. I've made up my mind to study in the U.S.  
「私はアメリカに留学しようと決心した」。

## 解答

1. ③ 2. ① 3. ④ 4. ② 5. ④  
6. ② 7. ① 8. ④ 9. ① 10. ①

2. 1. but the teacher sometimes gives us a

- lot of homework  
2. made it possible for me to enter the  
3. if it is convenient for you

## 1

1. There were few people/ at the meeting, / so/ the room was nearly empty. 「会議には人がほとんどいなかったの、部屋はほぼ空っぽだった」

⑬ 文の後半の内容から、人数が非常に少ないことがわかる。可算名詞の複数形を修飾して「ほとんどない」という否定的な意味を表す③ fewが正解。

① big「大きい」、④ little「小さい」は人数と無関係なので不可。littleは「(量か)ほとんどない」の意味では不可算名詞を修飾するので不可。名詞の② number「数」、peopleの直前に置いて修飾できないので不可。なお、a number of peopleは「たくさんの人々」の意味。

2. It is midnight, / but a few students are still in the library. 「夜中だが、図書館にはまだ数人の学生がいる」

⑬ 可算名詞の複数形 students「学生たち」を修飾できる① a few「少しの、少数の」が正解。否定的な few に対し、a few は肯定的な意味を表す。

⑤ ② a little「(肯定的に)少量の」と④ much「多量の」は不可算名詞を修飾するので不可。③ every が修飾するのは単数の可算名詞なので、不可。

3. I'm afraid, / that there is little time, / for argument. 「あいにく議論する時間はほとんどありません」

⑬ 不可算名詞の time「時間」は few で修飾できないので①と②は不可。I'm afraid「あいにく、残念ながら」には否定的な内容が続くので、「ほとんどない」という意味の④ little を正解とする。③「あいにく少し時間がある」という取った表現もありえないが、自然とは言えない。

4. A little knowledge of Asian history, / will be useful, / when you travel to China, / next summer. 「アジアの歴史について少し知っていれば(直訳: わずかなアジアの歴史の知識は)、次の夏に中国に旅行するときに役に立つだろう」

⑬ 不可算名詞の knowledge「知識」を修飾できる② A little「少しの、少量の」が正解。否定的な意味の little に対して、a little は肯定的な意味を表し、ここでの「役に立つ」という文意にも合う。

⑤ ① A few、③ Several「いくつかの」、④ So many「とてもたくさん」は、いずれも可算名詞の複数形を修飾するので、不可。

5. The news of the accident was too shocking, / for us,

to sleep/ last night. 「事故の知らせはたいへん衝撃的で、私たちは昨夜は眠れなかった」

⑬ shock は他動詞で「(人)に衝撃を与える」という意味。現在分詞の④ shocking は「(人)に衝撃を与える→(物が)衝撃的な」という能動的な意味を、過去分詞の② shocked は「(人)が衝撃を受けた、ショックを受けた」という受動的な意味を表し、どちらも形容詞として使われる(分詞形容詞という)。空所には物である The news「知らせ」を説明する補語が入るので、④ shocking が正解。② shocked は不可。

⑤ ① shock で可能性のある品詞は名詞か形容詞。空所直前の too「～すぎる」は副詞なので名詞を修飾することができない。形容詞では、例えば shock wave「衝撃波」のように名詞を直接修飾する場合に用いられる(限定用法という)が、ここでのように文の補語として用いられる(叙述用法)ということはない。いずれの品詞にしても不可。③ shockingly は「ショッキングなことに、驚くほど」という意味の副詞。副詞は文の補語になれないので、不可。

6. Your speech was just perfect. I was impressed. 「あなたのスピーチは完璧でした。私は感銘を受けました」

⑬ 他動詞の impress「(人)に感銘を与える」から派生した分詞形容詞のうち、現在分詞③ impressing は「(物が人)に感銘を与える」という能動的な意味を、過去分詞② impressed は「(人が)感銘を受けて」という受動的な意味を表す。空所は主語 I の補語なので、②が正解。③は不可。

⑤ ① impression「印象」は名詞だが、主語の I を説明する補語にはならない(「私は印象だ」では意味が通らない)。④ impressには名詞もあるが、「印象、影響」という意味なので文意が成立せず、動詞の原形がこの位置に来ることもない。いずれの品詞でも不可。

7. I'm terribly sorry, / but I'm unable to help you, / in any way. 「たいへん申し訳ありませんが、どんな形であってもお手伝いすることはできません」

⑬ 人を主語にできるのは① unable か③ incapable だが、③は (be incapable of + (動)名詞)「～(することが)できない」の形で用いられるので不可。(be unable to do)「～することができな

い」の形で用いられる①が正解。反意語はそれぞれ capable と able だが、語法は同じ。

⑤ ② impossible「不可能」は人を主語にできない。例えば it is impossible for ... to do「…が～するのは不可能だ」のように、形式的な it (ここでは主語)とともに用いられることが多い。反意語は possible「可能性のある」。④ enable は動詞で、ふつう enable O to do「(主語が) O が～することを可能にする」という形になる。動詞の原形を be 動詞の後に置くことはできない。

8. The chimpanzee is an intelligent creature, / capable of using tools, / to get food. 「チンパンジーは知能の高い生き物で、食べ物を得るのに道具を使うことができる」

⑬ of using が続くことから、④ capable が正解。⑤ コンマの後ろの部分で、直前の an intelligent creature の内容を具体的に補足説明している。

9. It took me more than an hour, / to get home, / because of heavy traffic. 「交通渋滞のために、私が家に着くのに1時間以上かかった」

⑬ 不可算名詞の traffic「交通(量)」について、「多い」は① heavy、「少ない」は③ light で表すのがふつう。ここでは、「1時間以上かかった」という表現から、①を正解と判断する。

⑤ ② many は不可算名詞を修飾できない。④ thick は「厚い、(液体が)濃厚な、(霧などが)濃い、(木や人が)密集した」などの意味で、ふつう交通量を形容することはない。

10. The soccer game was shown, / on a big screen, / in front of a large audience. 「サッカーの試合は大勢の観客の前で大きなスクリーンに映し出された」

⑬ audience「観客、聴衆」は1つの集合体として扱われる可算名詞(集合名詞という)で、「大きさ(観客が多いか少ないか)」は large や small で表す。よって、① a large が正解。

⑤ audience は、個々の観客を表すこともあるが、可算名詞を修飾する③ many、不可算名詞を修飾する④ much、可算・不可算いずれも修飾する② a lot of のいずれによっても修飾されない。

## 2

1. I like studying mathematics, / but the teacher sometimes gives us a lot of homework. 「数学の勉強は好きだけれど、先生はときどきたくさん宿題を出します」

⑬ 直前にコンマがあるので、接続詞 but「しかし」で始まる逆接的な内容が続くと判断する。動詞の (sometimes) gives と目的格の us から、S V(gives) O(us) O の第4文型がわかり、主語 S

になる名詞も the teacher に決まる。残った目的語 O は不可算名詞の homework「宿題」だが、可算名詞・不可算名詞のどちらにも使える a lot of「多くの」に続けられよい。

2. Your support has made it possible, / for me, / to enter the university. 「あなたのおかげで大学に入ることができました(直訳: あなたの支援が、私が大学に入ることを可能にした)」

⑬ 主語が無生物の Your support で、整序語句中に、人を主語にできない形容詞の possible、さらに it がある。形式目的語 it を用いた make it possible for ... to do「(主語が) …が～することを可能にする」の構文に気づくかがカギ。to do に to enter the (university) を、…に me をそれぞれ代入し、完了を表す助動詞 has に動詞 made を続ければ文が完成する。

3. Please come, / at 11 o'clock, / on Tuesday, / if it is convenient, / for you. 「都合がよければ、火曜日の11時に来てください」

⑬ 整序語句中の、人を主語にできない convenient や、形式的に用いられる it から、it is convenient for ... to do「…が～することは都合がいい」の構文に気づく。…に you を代入、条件節を導く接続詞 if を先頭に置いて完成する。it は形式主語だが、真主語となる to 不定詞などが無い。内容的に、for you の後に主節動詞と同じ (to) come が省略されていると考える。

## 学習のポイント

数値を表す形容詞 ① 1,2,3,4, ② 1, ③ 7

▶ 可算名詞に使う few (否定的) / a few (肯定的)  
ex. There are few [a few] eggs in the refrigerator.  
「冷蔵庫の中に卵がほとんどない [数個ある]」

▶ 不可算名詞に使う little (否定的) / a little (肯定的)  
ex. There is little [a little] milk in the refrigerator.  
「冷蔵庫の中に牛乳がほとんどない [少しある]」

large / small で大小を形容する名詞 ① 10

▶ amount「量」 ▶ family「家族」  
▶ population「人口」 ▶ sum「金額」

「～できる」の類似表現 ① 7,8, ② 2

▶ be able to do「～できる」  
▶ be capable of doing「～する能力・才能がある」  
▶ it is possible for ... to do「…が～することは可能だ」

人を形容できない形容詞 ② 2,3

▶ convenient「都合がいい、便利だ」  
ex. when it is convenient for you  
▶ necessary「必要である」  
ex. it is necessary for you to do

## 解答

1. ③ → excited    2. ② → amazed  
3. ① → interesting    4. ④ → satisfying  
5. ① → much alike    6. ③ → asleep

7. ① → many newspapers  
1. ④    2. ①    3. ③    4. ④    5. ④

3. 1. To my relief, the children looked **excitingly excited** about opening their presents. 「ほっとしたこと、子どもたちはプレゼントを開けることにワクワクしているようだった」
- ⑫ 他動詞 excite 「(人)を興奮させる」から派生した分詞形容詞のうち、exciting は「(主に物が、人)を興奮させる、ワクワクさせる」、excited は「(人)が興奮させられた→(人)が興奮している、ワクワクしている」という意味になる。ここでは、人の主語 the children を説明する補語なので、③ exciting を excited に正す。
- ⑩ ① to one's relief は「～が安心したこと」という副詞句の定型表現で、正しい。② looked は「～に見えた」という意味では補語を必要とする。③ を excited の形容詞にすれば補語になるので正しい。④ opening は、前置詞 about が続くので動名詞で、正しい。
2. We are always **amazingly amazed** by his incredible piano performances. 「私たちは彼のすばらしいピアノの演奏にいつも驚嘆する」
- ⑫ 他動詞 amaze 「(人)を驚嘆させる」の受動態は、be amazed by ~ 「(人)～によって驚嘆させられる」。ここでは be 動詞の are と、受動態の(行為者)を表す前置詞 by があるので、② amazingly を amazed に正す。もちろん、主語 We が「驚嘆させられる(→驚嘆する)」のだから、受動的分詞形容詞と考えてもよい。
- ⑩ ① always 「いつも」などの頻度を表す副詞は、be 動詞の文ではその直後に置くのが原則。be amazed の行為者は前置詞の at や ③ by で表す。形容詞 ④ incredible には「信じられない(ほどすばらしい)」という意味があり、piano performances を修飾できる。どれも、正しい。
3. These **interestedly interesting** paintings were donated, to the library, by the former mayor, over fifty years ago. 「これらの興味深い絵画は、50年以上前に前知事によって図書館に寄贈された」
- ⑫ 他動詞 interest は「(主に物が、人)の興味を引く」という意味で、その分詞形容詞の ① interested は「(人)が興味を持っている」という意味になる。物の paintings 「絵画」が「興味を持っている」ことはありえないので、interesting 「(人の

興味を引く、興味深い」に正す。

⑩ 主語が複数の paintings で、④ over fifty years ago 「50年以上前に」が過去を表すので、過去を受動態 ② were donated 「(絵画を)寄贈された」は正しい。③ by ~ は受動態の行為者を表す前置詞で、正しい。

4. To see something that nobody else has seen before, is **thrilling and deeply satisfiedly satisfying**. 「以前に他の誰も見たことがないものを見ることは、ワクワクするものだし、とても満足のいくものだ」

⑫ 他動詞 satisfy 「(人)を満足させる」から派生した分詞形容詞のうち、satisfying は「(主に物が、人)を満足させる」、satisfied は「(人)が満足させられた→(人)が満足した」という意味になる。文頭の To see は名詞的用法の不定詞で、before までの「～を見ること」が文の主語。これは(人)ではないので、④ satisfied を satisfying に正す。

⑩ 名詞的用法の不定詞は主語になれるので①は正しい。② that は、has seen の目的語 something を先行詞とする関係代名詞。省略できるが、あってもよい。nobody (else) は常に単数扱いなので、三単現の③ has seen も問題ない。

5. The twins are so **much like much alike** that people find it very difficult to know one from the other. 「その双子はとてよく似ているので、見分けるのがとても難しい」

⑫ like 「～に似ている」は直後に名詞や代名詞を伴い、これを伴わない場合には alike 「似ている」を用いるのがふつう (ex. Mary is like her sister. = Mary and her sister are alike.). ここでは、like の直後にある that は (so ~ that ...) 構文をなす接続詞で、代名詞ではない。よって、① much like を much alike に正す。alike は文の精語としてしか用いられない(叙述用法)の形容詞で、very でも much でも強調できる。

⑩ find it ... to do は「～することは…だ[～することが…とわかる]」という意味の構文。この it は形式目的語で、to do 以下の内容を示す。よって、② it は正しい。know [tell / distinguish] O from ~ は「O と～を区別する」の意味で、ここでは O が ③ one 「(双子のうちの)一方」に、～が ④ the other 「(双子のうちの)もう一方」にあたる。どちらも正しい。

6. We were so tired when we came back from the zoo, **that** the kids fell sleep asleep on the sofa while I was cooking dinner. 「動物園から帰ってきたとき、私たちはとても疲れていたため、私が夕食を作っている間に子どもたちはソファで寝入ってしまった」

⑫ fall asleep で「寝入る」という意味。③ sleep を asleep に正す。この asleep は叙述用法の形容詞。⑩ ① tired 「疲れた」は主語 We を形容する補語。② (came) back (from ~) 「～から帰ってきた」。④ (while I was) cooking 「料理している間に」は過去進行形。どれも正しい。

7. We should read as **many newspapers** as we can, so that we can compare the information they provide. 「新聞が提供する情報を比較できるように、私たちはできるだけ多くの新聞を読むべきだ」

⑫ 可算名詞の newspapers は much で修飾できないので、① much を many に正す。

⑩ ② (read as many newspapers as we) can 「(私たちに)できるだけ(多くの新聞を読む)」。③ (so that we) can compare は「(私たちが)比較できるように」。どちらも正しい。この so that 「～するために」は(目的)を表す接続詞句(that は省略されることも多い)。④ they provide は、その目的語である先行詞 the information を後ろから修飾している。正しい。they の直前にあるべき関係代名詞は、目的格なので省略されている。

## 4

1. We have only one computer at home. My parents and I have to share it. 「家にはコンピューターが1台しかない。両親と私で共有してはならない」

⑫ 文脈的に、④ share 「共有・共用する」が正解。⑩ ① borrow 「借りる」なら不特定の1台なので、it ではなく one としなくてはならない。「1台しかない」という否定的な文脈で、主語の We を「両親と自分」に改めて ② lend 「貸す」と言うのは不自然。③ offer 「(製品・サービスなどを)提供する」は具体的な動作が不明。「値段を提示する、売りに出す」などの意味もあるが、前置詞 for を伴って金額などを示すのがふつう。

2. Miki, could I please borrow your Brazilian recipe book? 「ミキ、あなたのブラジル料理の本をお借りできますか」

⑫ 主語 I の動作なので①「借りる」が正解。⑩ 自分が「自分に借りる」② borrow me と、自分が「自分に貸す」④ lend me は意味が通らない。③は他人の本を誰に「貸す」のかが不明。不可。

3. Could you lend me \$10? I'll pay you back tomorrow. 「10ドル貸してくれませんか。明日、返します」

⑫ 「明日返す」という文脈から、「あなた」が「私」に「10ドルを「貸す」ことを依頼するのだから、③ lend が正解。

⑩ ① pay 「支払う」は負債を償済にする行為で、これに対して pay back 「返済する」のは不自然。② borrow 「借りる」は2つの目的語をとらない。④ rent 「(家・土地などを)賃貸する、賃借する」はお金の貸し借りには用いない。

4. "I want to take a shower. Can I use your bathroom?" "Sure." 「シャワーを浴びたいです。浴室を借りてもいいですか」「もちろんです」

⑫ 英語ではふつう、動かせないものや、すぐ返せるものを borrow 「借りる」とは表現しない。④ use 「使う」が正解。

⑩ 相手の浴室を① lend 「貸す」、③ rent 「(お金を払って)貸す・借りる」、② have 「手に入れる」のは、どれも極めて不自然。

5. She rented the house to one of her friends while she lived abroad. 「彼女は海外に住む間、その家を友達の人に貸した」

⑫ 目的語が house 「家」なので、動詞は④ rented 「貸した」が正解。

⑩ ① borrowed 「借りた」は to につながる形がなく、不可。② shared 「シェアした、共用した」の場合、シェアする相手は前置詞 with ~ で表し、③ spared 「貸し与えた、分け与えた」の場合、貸し与える相手は前置詞 for ~ で表す。どちらも不可。

## 学習のポイント

分詞形容詞 ① 5,6, ② 1,2,3,4

主に、人の感情に関する他動詞の分詞から派生したもの。現在分詞 (doing 形) は「(人)に～させる」という能動的な意味を、過去分詞 (done 形) は「(人)が～させられる」という受動的な意味を表す。

ex surprise 「(人)を驚かせる」  
→ surprising 「(人)を驚かせる→(物が)驚かすべき」  
→ surprised 「(人)が驚かされる→(人)が驚いた」

形容詞の限定用法と叙述用法 ① 5,6

形容詞には、名詞を修飾する用法(限定用法)と補語になる用法(叙述用法)があり、どちらか一方の用法でしか使えない形容詞がある。

【限定用法のみの形容詞】  
▶ only 「唯一の」    ▶ living 「生きている」  
▶ total 「全部の」  
【叙述用法のみの形容詞】  
▶ alike 「似て」    ▶ a/ve 「生きて」  
▶ asleep 「眠って」    ※ a-で始まることが多い

## 解答

- ① 1. ② 2. ② 3. ③ 4. ① 5. ②  
6. ③ 7. ① 8. ③ 9. ④ 10. ③  
② 1. mail is seldom distributed before

## ①

1. Have you ever been to the United States? 「今までにアメリカに行ったことはありますか」

㊦ 疑問文で「今までに、かつて」の意味を表す② ever が正解。現在完了の疑問文では、ever は過去分詞の前に置かれる。

㊧ 疑問文で「もう、すでに」の意味を表す① yet は文末に置く。③ still 「まだ、依然として」は継続的な状況を表し、経験を表す have been to ~ 「~へ行ったことがある」と一緒に使わない。④ once にも「かつて」の意味があるが、ふつう疑問文では使わない。

2. Robert lost his watch yesterday and hasn't found it yet. 「昨日ロバートは時計をなくし、まだ見つけていない」

㊦ 否定文で「まだ(～ない)」の意味の② yet が正解。

㊧ ① anymore [any more] はふつう否定文で文末に置かれて「もうこれ以上」の意味になるが、ここでは文意が通らない。文末の③ anyhow は、anyway と同様、「とは言うものの、それでもやはり」という逆接の意味を含む。ここでは内容的に不自然。④ already はふつう肯定文で「すでに、今までに」の意味。否定文や疑問文で用いられる already は〈驚き〉を表す。

3. I was offered that job at the international company, but I still can't believe it. 「私は国際的な会社でのその職を提示されたが、まだそのことが信じられない」

㊦ ③ still は「まだ、依然として」という継続の意味を表し、否定文ではふつう否定語または否定語を含む短縮形の直前に置かれる。ここでは、still can't believe で「まだ信じられない」の意味となり、文意に合う。正解。

㊧ ① hardly 「ほとんど～ない」と② seldom 「めったに～ない」は、否定の意味を含む準否定語。否定語 not とともに用いられない。④ yet は否定文で「まだ(～ない)」の意味を表す。たいてい文末に置く。否定語の直後に置くこともあるが、否定語の前に置くことはない。

4. Jim broke his leg on a ski trip yesterday so, he can barely walk today. 「ジムは昨日スキー旅行で脚を骨折したので、今日は歩くのがやっとだ」

㊦ 前半の「脚を骨折した」という流れから、「歩き

2. booked my flight because I had never  
3. Left alone in the room, the girl almost

にくい」または「歩けない」という内容と判断する。  
① barely は、わずかに肯定的な「かろうじて～」、準否定的な「ほとんど～ない」のどちらの意味ともとれる。ここは前者の意味で訳した。なお、この文では so の前にコンマを入れるのがふつう。

㊧ ② nearly は「ほとんど、もう少しで～するところ」という肯定的な意味なので、接続の接続詞 so 「だから」との流れが不自然。③ rarely と④ seldom はどちらも「めったに～ない」という意味の準否定語で、〈頻度〉が非常に低いことを表す。ここは強く回数を否定する文脈ではない。

5. The road was wet when the accident happened. It had stopped raining only fifteen minutes before. 「事故が起きたとき、道路はぬれていた。雨はそのわずか15分前に降り止んでいた」

㊦ 文脈から、「事故が起きたときより15分「前に」雨が止んでいた」ことがわかる。事故が起きた過去の時点基準に、それよりさらに過去にさかのぼった時の長さを表すときは、過去完了形とともに② before を用いる。

㊧ ① ago は、現在を基準に「(今から)～前に」という意味なので、不可。③ later は、ある基準の時点よりも「後で」を意味する。ここでは、第1文よりも、第2文の方が前の時を表すので、2文の時間がつり合わなくなる。④ yet はふつう肯定文では用いられないし、only fifteen minutes が何を表すのかも不明になる。不可。

6. "How soon does this train leave?" "It'll leave in two minutes." 「この列車はあとのくらいで出発しますか」「あと2分で出発します」

㊦ 第2文の in two minutes 「2分後」から、「あとのくくらいたつと～か」と尋ねる③ (How) soon ~? が正解。soon はある基準時点から見て「(そのあと)すぐに」という意味で、How soon ~? は「(あと)どれくらいすく～か」ということ。

㊧ ① early は、ある基準時点から見て「(その前に)早く」、または、例えば「1日」などのある一定の期間全体から見て「(時刻・期日などが)早く」という意味。How early ~? で「どのくらい(いつもより)早く(朝)早く」などの意味なので、第2文の「(このあと)2分後」という文脈とつながらない。② (How) late は、ここでは early の反意語で、「どのくらい(いつもより)遅く(夜

遅く)などの意味。不可。④ rapidly は「(動作や変化が)すばやく、急激に」の意味で、「(時の流れが)速く」は表現できるが、基準時点からの相対的な「早く」は表現できない。

7. A recent survey found that almost all the boys in this school played video games on a regular basis. 「最近の調査で、この学校のほとんどすべての男子が定期的にテレビゲームをすることがわかった」

㊦ almost は「ほとんど」という意味で、ある数量や状態にもう少しで達することを意味する。副詞なので、数詞、all、every、no など(いずれも形容詞)を修飾できるが、前置詞や冠詞、名詞を修飾できない。よって、① almost all the (boys) が正解。繰り返し音読すること。

㊧ 副詞の almost は名詞を修飾できない。よって、②③④はいずれも不可。

㊨ on a regular basis 「定期的に」。

8. There was hardly any hope of finding the missing report. 「なくした報告書が見つかる望みはほとんどなかった」

㊦ 準否定語の hardly は「ほとんど～ない」という意味の副詞。強い否定語の not より弱い意味だが、語法は同じと考えてよい。ここでは空所の直後が名詞の hope なので、(not any ~) 「～(名詞)がない」から考えて、(hardly any ~) 「～がほとんどない」の意味の③が正解。

㊧ not と同様、hardly も名詞を直接否定することができない(名詞は no で否定する)ので①は不可。②は意味をなさない。hardly は否定の意味を含むため、④のように否定語とともに用いない。

9. If you do not go, I won't either. 「あなたが行かないのなら、私も行かない」

㊦ 否定文に続いて「～もまた(ない)」という意味を表す副詞④ either が正解。肯定文に続いて用いる too 「～もまた」と対照的な語(よって、②は不可)。直前のコンマはあってもなくてもよい。

㊧ ① nor 「～もまた(…ない)」は接続詞なので文末には置けない。③ also 「～もまた」は、肯定文なら文末に置けるが、文中の否定語より後には置けない。

10. You must leave now otherwise, you will be late for your social studies class. 「今出発しないと遅くなります。さもないと社会の授業に遅刻しますよ」

㊦ 前半の「今出発しなさい」と後半の「遅刻する」から、③ otherwise 「さもないと」が正解。接続詞的な副詞で〈接続副詞〉と呼ばれる。

㊧ ① instead 「その代わりに」、② therefore 「それゆえに」、④ accordingly 「それにに応じて」は、いずれも文意がつかまらない。

## ②

1. The mail is seldom distributed before 2:00 in the afternoon. 「午後2時より前に郵便が配達されることはめったにない」

㊦ 主語は名詞なので、(The) mail 「郵便物」が決まる。郵便物は「配達される」ものなので、受動態の is distributed も決まる。準否定語の seldom 「めったに～ない」は、頻度が非常に低いことを表す副詞。頻度を表す副詞は、一般動詞の前、be 動詞・助動詞の後ろに置くのが基本なので、ここでは is の後ろに置く。残った before を前置詞として 2:00 の前に置いて完成する。

2. I chose a vegetarian meal when I booked my flight because I had never tried one before. 「一度も食べたことがなかったので、私はフライトを予約する時にベジタリアン食を選んだ」

㊦ 整序語句中のコロケーション(単語同士の自然な組み合わせのこと)から booked my flight 「フライトを予約した」ができ、これを when I に続ける。ここで文末の before に着目すると、主節(I chose ...) が過去形なので、because I が過去完了の節を作ると判断できる。had (tried) とつながるが、残った never をその間に置き、had never (tried) として完成する。

3. Left alone in the room, the girl almost cried with fear. 「一人だけ部屋に取り残されて、その女の子は恐怖で泣き出しそうだった」

㊦ 動詞の cried が見えているので、その前に主語となる名詞 the girl almost を置き、「少女は恐怖でほとんど泣きそうになった」が決まる。この部分が主節と判断できるので、整序語句中のコンマがついている the room, を in につなげて、その前に置く。残った alone, left には主語になれる名詞がないので、主語を必要としない分詞構文と判断する。分詞構文の実質的な主語は、主節の主語と同じなので、(the girl was) Left alone の受動態と考えて、文を完成する。

## 学習のポイント

still / yet / already ①, 2, 3

- ▶ still 「まだ、依然として(継続)」
- ▶ yet 「(疑問) もう～したか、(否定) まだ～ない」
- ▶ already 「(肯定) すでに」

頻度を表す副詞 ①, 1, 2

- 一般動詞の前、be 動詞や助動詞の後ろに置かれる。
- ▶ always 「いつも」 ▶ usually 「たいてい」
- ▶ often 「しばしば」 ▶ sometimes 「ときどき」
- ▶ seldom [rarely] 「めったに～ない」
- ▶ never 「一度も～ない」

解答

- ③ 1. ① → probable 2. ① → late  
3. ④ → hard  
4. ② → soldiers will come home

5. ④ → high 6. ④ → could  
④ 1. ② 2. ③ 3. ① 4. ① 5. ④

- ③ 1. It is **probably** probable, that a well-developed memory is crucial, when learning a foreign language. 「おそらく、外国語を学ぶときには、よく発達した記憶力が極めて重要なだろう」  
⑫ この文の It は that 以下を指す形式主語で、文全体は SVC の第2文型。C (補語) になれるのは名詞か形容詞である。副詞の① probably 「おそらく」は補語になれないので、形容詞の probable 「十分ありそうな」に正す。  
⑬ ② well-developed 「よく発達した」は memory を修飾する形容詞として正しい。well- は過去分詞形について「よく、十分に」という意味を持つ形容詞になることが多い (ex. well-balanced 「バランスのよい」、well-educated 「高度な教育を受けた」)。形容詞の③ crucial 「極めて重要な」は well-developed memory を説明する補語として正しい。④ (when) learning は when you [we] are learning の (主語 + 主動詞) が省略されたもの。副詞節中の主語が一般の人を表す場合によくある省略である。正しい。  
2. The bus arrived, **lately** late, on account of rain, so we missed the train, we were supposed to take. 「雨のためにバスの到着が遅れたので、私たちは乗るはずだった電車に乗り遅れた」  
⑫ ① lately は「最近、近頃」という意味の副詞で、ある程度幅のある期間を表し、ふつう現在完了時刻の文で使う。ここでは意味も時刻もあわないので、「遅く」という意味の副詞 late に正す。  
⑬ ② on account of ~ 「~のために」は (原因) を表す前置詞句。名詞 rain の前に置かれる用法として正しい。③ missed 「~に乗り遅れた」は他動詞で、目的語 the train があるので正しい。④ (the train we were supposed) to take は「(私たちが) 乗る (ことになっていた電車)」の意味。the train は動詞 take の目的語 (take the train) で、we の直前の関係代名詞が、目的格なので省略されている形。正しい。  
3. The musicians in the orchestra, were very tired, after playing **hardly** hard, all afternoon. 「オーケストラの音楽家たちは、午後の間ずっと熱心に演奏した後で、とても疲れていた」  
⑫ ④ hardly は「ほとんど~ない」という意味の副詞。

「疲れていた」という内容に合わないので、「熱心に」という意味の副詞 hard に正す。

- ⑬ ① in the orchestra 「オーケストラの」は The musicians を修飾する形容詞句。正しい。② (The musicians ...) were very tired は、主語が musicians なので、be 動詞が were、補語が very tired 「とても疲れていた」で正しい。④ after playing 「演奏した後」は (前置詞 + 動名詞) で文法上も意味上も正しい。  
4. Now that the war has ended, soldiers will come to home, soldiers will come home, and everything should be all right. 「もう戦争が終わったのだから、兵士たちは帰国し、すべてがうまくいくはずだ」  
⑫ home は「自宅へ、自国へ」という意味の副詞。go home や come home のように表現するので、②の to を削除して正しい。  
⑬ ① Now that ~ は「今はもう~だから」という意味の接続詞句。the war has ended 「戦争が終わった (完了)」は現在完了形。正しい。③④ and everything should be all right は「そして、すべてがうまくいくはずだ」の意味。この should は「~するはずだ、きっと~だろう」という (当然の推量) や (期待) を表す。正しい。  
5. John was surprised, that the price of vegetables in Tokyo, was very highly high. 「東京での野菜の価格がとても高いことにジョンは驚いた」  
⑫ that 節中の主語は the price (of vegetables in Tokyo) 「(東京での野菜の) 価格」。was の後はこれを説明する補語がくる。④ highly は「非常に、高度に」の意味の副詞だが、副詞は補語になれないので、形容詞の high 「高い」に正す。  
⑬ ① (was) surprised 「驚いた」は、人の主語 John を説明する補語として正しい。② vegetables 「野菜」は、具体的な野菜を限定する必要がない文脈なので、無冠詞、複数形でも正しい。③ was は、that 節中の主語 the price が単数で、主節の過去時刻 (John) was に合わせて that 節中の時刻を一致させる必要がある。was のままで正しい。  
6. The bag was small but so heavy, that I could not could hardly walk. 「そのかばんは小さかったがとても重かったので、私はほとんど歩けなかった」  
⑫ 副詞 hardly 「ほとんど~ない」はそれ自体に否定の意味を含むので、not などの別の否定語と

ともには用いられない。よって、④ could not (hardly) を could (hardly) に正す。

- ⑬ ① small 「小さい」と③ heavy 「重い」は、どちらも主語 The bag を説明する補語として正しい。② so は後ろの that と相関的に用いる、いわゆる so ~ that ... 構文で、「とても~なので…」の意味を表す。正しい。  
④ 1. This hat doesn't fit me. It's too small. 「この帽子は私に合わない。小さすぎる」  
⑫ ② fit は「(服などの寸法や型が、人に) ぴったり合う」の意味で、これが正解。  
⑬ ① match は「(2つの物の、模様や色などが) 調和する、合う、一致する」などの意味。主語の hat (物) と目的語の me (人) の調和には用いられない。③ catch 「捕まえる、(列車などに) 間に合う」は意味が通らない。④ take は、人を目的語にとるときには「連れて行く」などの意味になるが、これも文意が通らない。  
2. I don't think, that red dress suits her. 「あの赤いドレスは彼女には似合わないと思う」  
⑫ ③ suit は「(模様や色や型などが、人) に似合っている」の意味で、これが正解。  
⑬ ① agree は自動詞として「(人と意見が) 合致する、(体質に) 合う、(人と) 気が合う」などの意味があるが、目的語をとるために前置詞 with が必要となる。他動詞として使われる場合、that 節や to 不定詞 (名詞的用法) を目的語にとって「~を合意する、合意に達する」という意味になることが多いが、meet をとることはないと考えていい。他動詞の② meet は「(条件など) を満たす」という重要な意味がある。人を目的語にとるときには「~に会う」の意味だが、「~に似合う」という意味にはならない。④ match は物と人の調和には用いない。  
⑬ I think (that) ~ の文において that 節の内容を否定するときには、否定語を主節に置いて I don't think とするのは、否定的である。  
3. Those shoes don't match your suit, at all. 「あの靴はあなたのスーツに全然合っていない」  
⑫ ① match は「(ある物が別の物) に合う、調和する」の意味で、これが正解。  
⑬ go with ~ は、match と同様、「(物が、別のもの) に調和している」の意味だが、go だけでは不可。③ fit は人を目的語にして「(服などが体に) ぴったり合う」の意味。不可。④ deserve 「(~を受けるに) 値する、ふさわしい」は文意が通らない。

4. Packed, with useful information, the guidebook will meet the needs of tourists. 「役に立つ情報がつまったそのガイドブックは旅行者の必要を満たしてくれるだろう」  
⑫ ① meet は「(必要、条件、要求など) を満たす」という意味の他動詞で、これが正解。demand, expectation, requirement などの語が目的語になることが多い。  
⑬ 他動詞の② show は第4文型 (SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>) で「(O<sub>1</sub>= 人に、O<sub>2</sub>= 物を) 示す、教える、証明する」という形になるのがふつう。ここでは間接目的語 (O<sub>1</sub>) がいない。③ place は (place O + 副詞 (句)) の形で「O を ~ (正しい位置など) に置く」などの意味になるが、ここでは副詞句がない。④ use 「使う」は文意が通じない。  
5. Our children don't know how hard it is, to make ends meet. 「うちの子どもたちは、家計をやりくりするのがいかに難しいか、わかっていない」  
⑫ ④ make (both) ends meet で「生活の収支を合わせる、家計をやりくりする」という意味の慣用句。「家計簿で、収支それぞれの最下部 (ends) にある、合計の数字を合わせる (meet)」ことを意味すれば覚えやすい。  
⑬ ① 他動詞の make は慣用句として成立しない。  
④ how hard ~ は know の目的語となっている節で、it は to make ends meet を表す形式主語。

学習のポイント

- 程度を表す副詞 ① 7, 8, ③ 6  
▶ almost 「ほとんど」(ある数値や状態に、もう少しで達することを表す)  
▶ hardly 「ほとんど~ない」(準否定語 scarcely)  
形の似ている副詞 ② 2, 3  
-ly の語尾がつくと副詞になる形容詞が多いが、このルールに当てはまらない語に注意する必要がある。  
▶ hard 「熱心に」 ▶ hardly 「ほとんど~ない」  
▶ late 「遅く」 ▶ lately 「最近」  
▶ near 「近くに」 ▶ nearly 「もう少しで」  
ex. The girl came near to my dog.  
「その少女は私の犬の近くにきた」  
I nearly missed the train. 「私はもう少しで電車に乗り遅れるところだった (乗り遅れなかった)」  
副詞の用法 ④ 4  
前置詞 to を要さない。  
▶ home 「家へ、自宅へ」  
▶ abroad / overseas 「海外へ」  
▶ downstairs [upstairs] 「階下へ [階上へ]」  
▶ downtown 「中心街へ」  
ex. on my way home 「帰宅途中で」  
study abroad 「(海外で学ぶ) → 留学する」

解答

- ① 1. ① 2. ③ 3. ③ 4. ② 5. ③  
6. ④ 7. ② 8. ① 9. ③ 10. ③  
② 1. to finish the experiment as quickly as

- possible before  
2. knew better than to swim in the  
3. Nothing is more exciting than a

- ①  
1. The crowd was surprised to see that a seven-year-old boy was able to swim as fast as the teenagers. 「7歳の少年が十代の人たちと同じ速さで泳げるのを見て群衆は驚いた」  
② 空所の前に as があるので、(as + 形容詞 [副詞] の原級 + as ~) 「~と同じくらい… (形容詞 [副詞])」の形になる① (as) fast as が正解。  
2. This morning, it was much cooler than yesterday morning. 「今朝は昨日の朝よりもずっと涼しかった」  
③ 比較級の文で、比較する二者の差が大きいことを表すには、比較級の前に much, even, far, a lot などを置く。よって、③ much が正解。  
④ 比較する二者の差が小さいことを表すときには、比較級の前に a little 「少し」を置く。  
⑤ ① too や ④ very は形容詞や副詞の原級を修飾できるが、比較級や最上級を修飾することはできない。② more の比較級の意味は cooler に含まれている (more + cool → cooler)。more を比較級の前に置くことはない。  
3. John is the taller of the two boys. 「ジョンはその2人の少年のうちで背が高い方だ」  
② 二者を比べる場合、とくに書き言葉では、最上級ではなく比較級を使うのが正しいとされる (くだけた会話では最上級が用いられることもある)。例えば、「より高い」方は「(二者のうち) 最も高い」ということと同じである。このとき、(the + 比較級 + of the two) という形を用いる (two が three 以上の場合には、もちろん、「比較級」ではなく「最上級」になる)。ポイントは比較級に the がつくこと (最上級の意味を含むから)。よって、③ the taller が正解。②は不可。  
④ ①のような表現はない。④のように、taller と表現できるのに more tall とするのは、(同一の人や物が持つ、異なる性質を比較する) 際に用いる表現と考えられるが、ここでは内容的に不可 (ex. He is more lazy than clumsy. 「彼は要領が悪いというよりも、むしろ怠け者なのだ」)。  
4. This car is superior in design to other cars. 「この車はデザインが他の車よりも優れている」  
③ superior など語尾が -or の形容詞は、比較の対象を表すのに than ではなく to を使う (ラテン語に由来する形容詞なので、ラテン語比較級) な

- どと呼ばれることがある)。よって、② to が正解。  
④ in design は「デザイン (設計) の点で」という意味の副詞句 (in は〈範囲〉や〈対象〉を表す前置詞)。カッコでくると構造がわかりやすい。superior to ~ 「~よりも優れた」は better than ~ とほぼ同じ意味。ちなみに反意語は inferior で、inferior to ~ 「~よりも劣った」は worse than ~ とほぼ同じ意味。  
5. The higher you climb, the colder the weather becomes. 「高く登れば登るほど、天候は寒くなる」  
② (the + 比較級 + S<sub>1</sub>V<sub>1</sub>, the + 比較級 + S<sub>2</sub>V<sub>2</sub>) 「S<sub>1</sub> が V<sub>1</sub> すればするほど、S<sub>2</sub> はより V<sub>2</sub> する」の形になる③ the colder が正解。この表現は、関連する2つの物事が互いに比例しながら変化することを示す。それぞれの比較級の後に (SV) の形が続くのがポイント。矢印を意識して繰り返し音読すること。  
6. Osaka is the third largest city in Japan by population. 「大阪は人口が日本で3番目に多い都市だ」  
② (the + 序数 (~) + 最上級 (...)) 「~番目に (最も) …な」の形になる④ the third largest (city) が正解。比較級の③では表現しないことに注意。  
④ 「1つの物 (人) が限定できる場合 (ここでは大阪を「3番目」と限定している) には、不定冠詞 a を用いない。よって、①と②は不可。  
7. I cannot even read Russian, much less write it. 「私はロシア語を読むことさえできないし、ましてや書くことはできない」  
③ 否定文に続いて「ましてや~ない」という意味を表す② much less が正解。much の代わりに even [still] (less) が用いられることもある。  
④ ① much more 「ましてや~である」は肯定文に続けるので不可 (実際にはほとんど用いられない)。than を伴わない③ no more には、neither や nor と同様、否定文に続いて倒置を伴って、「~も…ない」の意味を表すことがある (ex. Neither [Nor / No more] do I)。ここでは意味をなさず、不可。④ no less 「同程度に、劣らず」という肯定的な意味なので、文意が通らない。  
8. He is no more a teacher than you or I. 「あなたや私と同様に、彼も教師ではない」  
③ no more A than B 「(当然) B と同様に A で

- はない」で意味が通るので、①が正解。A は a teacher、B は you or I が対応する。  
④ than によって、その前に比較級の形容詞か副詞が必要なので、②と④は不可。more が名詞を修飾する場合、「(数量が) より多い」という意味になるのがふつうだが (ex. more time, more people)、数量を表せない名詞の場合、その名詞が持つ性質などを比較する表現となる。このとき、(more A than B) は「B というより、むしろ A (= A rather than B / not so much B as A)」という意味になる。この文にあてはめると「彼は、あなたや私というよりも、むしろ教師だ」となり、意味が通らない。よって、③は不可。  
9. One of the most interesting places in Florida is Orlando. 「フロリダで最も興味深い場所の1つはオーランドだ」  
③ (one of the + 最上級 (~) + 複数名詞 (...)) の形で最も~なもの(…)の1つを意味する。よって、③ the most interesting places が正解。ポイントは、one of に続く名詞が複数形になり、この意味のまとまり自体が単数 (one) となること。  
④ one of に続く名詞が単数形 (place) なので、①と④は不可。形容詞の最上級の前に置かれる the がないので、②は不可。  
10. This is the most magnificent view we have ever seen. 「これは私たちが今までに見た中で最も壮大な景色だ」  
③ 形容詞の最上級が修飾する名詞に「これまでに~した中で」という意味を付け加えるとき、関係代名詞が導く完了形か過去形の名詞の形で修飾する。正解は③ (we) have ever seen. この節の目的語となる先行詞は the most magnificent view. we の直前の関係代名詞は、目的格なので省略。  
④ ② have never seen では、その景色を「一度も見ることがない」という意味になってしまう。ever は一般動詞の前に置く。①と④は語順が不適。  
②  
1. Our teacher wants us to finish the experiment as quickly as possible before it gets darker. 「先生は私たちに、もっと暗くなる前に、できるだけ急いでその実験を終えてもらいたいと思っている」  
③ wants us が見えているので、(want O to do) 「O に~してほしい」の形になるよう to finish を続け、その目的語となる名詞 the experiment を続けて置く。整序語句内の2つの as から、(as ~ as possible) 「できるだけ~」の形になるよう、as quickly as possible の副詞句を作る。残った before は、接続詞として it gets darker 「より暗

- くなる」の前に置き、さらにその前に as ~ の副詞句を置いて完成する。  
④ before 節の it は〈明暗〉を表す。訳さない。  
2. The children knew better than to swim in the lake in the winter. 「子どもたちは冬にその湖で泳ぐようなバカなことはしなかった」  
③ 整序語内の to, knew, than, better などから、(know better than to do) 「~するほど愚かではない、~しない分別がある」の表現を思い出せるかどうかのカギ。代入すると、knew better than to swim 「泳ぐほど愚かではなかった」となる。残った in と the lake につないで完成する。  
3. Nothing is more exciting than a day at the beach. 「海辺で一日過ごすほど楽しいことはないね」  
③ 不定冠詞 a がつく名詞は整序語内ではなく、空所直後の day につなげて a day とする。主語となる名詞は nothing しかないで、否定語を主語とした (Nothing is + 比較級 (~) + than ... 「…より~なものは何もない」) の構文に気づく。整序語を代入していけば、Nothing is more exciting than という正解にたどり着く。  
④ a day at the beach の直訳は「海辺での一日」だが、文脈から「過ごすこと、遊ぶこと」という含意を理解する。

学習のポイント

- 比較級の強調 ① 2  
比較する二者の差が大きいことを表すには、比較級の前に much, even, far, a lot などを置く。  
the + 比較級 + of the two ① 3  
二者を比べて「より~な方」の意味を表す。  
than ではなく to を使う比較 ① 4, ⑥ 6  
語尾が -or となる形容詞では、比較対象を表すのに、than ではなく to を用いる。  
▶ superior [inferior] to ~ 「~より優れた [劣った]」  
▶ senior [junior] to ~ 「~より年上の [年下の]」  
the + 比較級 + S<sub>1</sub>V<sub>1</sub>, the + 比較級 + S<sub>2</sub>V<sub>2</sub> ① 5  
「S<sub>1</sub> が V<sub>1</sub> すればするほど、S<sub>2</sub> はより V<sub>2</sub> する」という、2つの物事が互いに比例しながら変化することを表す重要表現。  
ex. The more money you have, the easier your life becomes.  
「お金があればあるほど生活は楽になる」  
最上級を使う比較表現 ① 6, 9  
▶ (the + 序数 + 最上級) 「~番目に…な」  
ex. the fourth deepest lake 「4番目に深い湖」  
▶ (one of the + 最上級 (~) + 複数名詞 (...)) 「最も~なもの(…)の1つ」  
ex. one of the best writers 「最高の作家の1人」

## 解答

- ③ 1. easy 2. less 3. twice as many 7. for 8. less 9. more 10. as  
4. any other 5. so much 6. senior ④ 1. ③ 2. ① 3. ④ 4. ① 5. ②

## ⑤

1. The examination wasn't as easy as we expected. 「試験は私たちが思っていたほど簡単ではなかった」  
 ⑫ The examination was harder than we expected. 「試験は私たちが思っていたよりも難しかった」。比較級「思っていたよりも難しかった」を、(not as + 原級 + as ~) 「思っていたほど簡単ではなかった」の表現に書き換える。hard 「難しい」の反意語で、e で始まる easy 「簡単な」が正解。  
 ⑬ expect したのは試験を受ける前なので、過去完了 (we had expected) としてもよいが、時間関係がはっきりとわかるときには、過去完了を使わなくても不自然ではない。  
 2. His new novel is less interesting than his earlier ones. 「彼の新しい小説は、以前のものほどおもしろくない」  
 ⑬ His new novel is not as interesting as his earlier ones. (訳はほぼ同上)。<(not as + 原級 (...)+ as ~) 「~ほど...ない」は <(less + 原級 + than ~) とほぼ同じ意味を表す。下の文に than があるので、空所には形容詞 interesting を比較級にする more か less が入るが、文意から less が正解。この ones は novels を表す。  
 3. She has twice as many CDs as I have. 「彼女は私の2倍の数のCDを持っている」  
 ⑬ She has 40 CDs while I have 20. 「彼女はCDを40枚持っており、一方私は20枚持っている」。上の文から「彼女は私の2倍持っている」とわかる。「~のn倍の数」は <n times as many as ~) で表すが、「2倍」は twice で表す。この many は CDs を修飾する形容詞なので、種さずに twice as many CDs (as) のようにする。  
 4. America is now producing more cars than any other country. 「アメリカは今、他のどの国よりも多くの自動車を生産している」  
 ⑬ America is leading the world in car production. 「アメリカは自動車の生産で世界をリードしている」。上の文の内容を理解し、アメリカが一番であることを、<(比較級(-)+ than any other + 単数名詞(...)) 「他のどの...よりも~」の表現で言い換える。上の文の in car production の in は(領域・分野)を表す前置詞。  
 ⑭ = No (other) country is now producing more cars than America. / No (other) country is now producing as many cars as America.  
 5. He is not so much an artist as a businessman. 「彼は芸術家というよりも、むしろ実業家だ」  
 ⑫ He is a businessman rather than an artist. (訳はほぼ同上)。(A rather than B) 「Bというよりも、むしろA」は、<(not so much B as A) 「(AとしてほどBではない) Bというよりも、むしろA」とほぼ同じ意味。  
 6. He is two years senior to me. 「彼は私の2歳年上だ」  
 ⑫ He is two years older than I. (訳はほぼ同上)。older とほぼ同じ意味を持ち、比較対象を than ~ではなく to ~で表す senior が正解。  
 ⑬ senior の反意語は junior. junior to ~ 「~よりも年下の」は、younger than ~ とほぼ同じ意味。比較する二者の差を具体的な数で表す場合、比較級の直前に数を置いて two years senior [older] とするか、He is senior to [older than] me by two years. のように<(差) を表す by を使う。  
 7. He loves her all the better for her faults. 「彼女に欠点があるから、彼はむしろ彼女のことが大好きなのだ」  
 ⑫ He loves her all the better because she has faults. (訳はほぼ同上)。(all the better [more] + 理由を表す節・句 (-)) で「~なのでいっそう...」の意味。理由を表す節 (SV構法を伴う) は because で導かれ、理由を表す句は for や because of の前置詞 (句) で導かれる。ここでは正解は for。  
 8. He has no less than eight thousand comic books. 「彼は8千冊ものマンガ本を持っている」  
 ⑫ He has as many as eight thousand comic books. (訳はほぼ同上)。この (as many as + 数詞 (-)) 「~もの(多くの)」は数が多いことを強調する表現で、<(no less than + 数詞 (-)) 「~より少ないところではない」> ~もの(多くの)」とほぼ同じ意味。  
 ⑬ <(no less than ~) は数(可算)・量(不可算)どちらの強調にも使えるが、(as many as) は可算、(as much as) は不可算に用いる (ex. He spent as much as 20,000 yen for those books. 「彼はそれらの本に2万円も費やした」)  
 9. When Mary came to Japan with her father, she was only a child. 「父親がメアリーを日本に連れてきたとき、彼女はほんの子どもだった」。(no more than + 名詞 (-)) 「~にすぎない」は only とほぼ同じ意味。数詞が続いても、同様に only 「たった、わずか」の意味で、話し手がその数を少なく評価していることを表す (ex. no more than 3% 「たった3%」)。  
 10. In the summer, it is as hot in Japan as in tropical countries. 「夏には、日本は熱帯の国と同様に暑い」  
 ⑫ In the summer, it is no less hot in Japan than in tropical countries. (訳はほぼ同上)。(no less ~ than ...) 「...と同様に~」は、(as ~ as ...) とほぼ同じ意味で、比較されている二者を肯定する表現である。この逆は <(no more ~ than ...) 「...と同様に~でない」。

## ④

1. The answers to the questions were not so difficult to figure out. 「その問題の答えは、それほど理解しづらくはなかった」  
 ⑫ figure out は、ここでは「理解する」という意味の辞動詞で、③ understand とほぼ同じ意味。  
 ⑬ ① prepare 「準備する」、② memorize 「記憶する」、④ describe 「述べる、描写する」は、どれも意味が違う。  
 2. Thank you very much for coming. I enjoyed your company. 「来てくれて本当にありがとう。あなたと一緒にいて楽しかった」  
 ⑫ この company は「一緒にいること、同席」という意味 (companion 「仲間」に由来する語と考える)。your company 「あなたと一緒にいること」に近い① spending time with you 「あなたと一緒に時を過ごすこと」が正解。  
 ⑬ ② talking about your business 「あなたの仕事について話すこと」、③ working with you 「あなたと一緒に働くこと」、④ your good food and drink 「あなたの(出した)食事や飲み物」は、どれも意味が違う。  
 3. A good architect should take into account a new establishment's surroundings. 「優れた建築家であるならば、新たな建造物の周囲環境を考慮に入れるべきである」  
 ⑫ take into account [consideration] ~ (～はtakeの直後に来ることもある) は「～を考慮に入れる」という意味で、④ consider 「考慮する」とほぼ同じ意味。なお、この should は(義務・当然)の意味を表す仮定法の一つと考えられる。new establishment 「新しい建築物」、one's

surroundings 「周囲の環境、状況」。

- ⑬ ① develop 「開発する」、② assemble 「組み立てる」、③ persuade 「説得する」は、どれも意味が違う。  
 4. Every morning, he spends considerable time reading all the pages of three newspapers. 「毎朝彼は、新聞3紙の全ページを読むのに、かなりの時間を費やす」  
 ⑫ considerable 「かなりの(数量の大きな)」は、① a lot of とほぼ同じ意味。  
 ⑬ ② concentrated 「(液体などが)濃縮された」、③ important 「重要な」、④ relaxed 「(人や雰囲気などが)リラックスした」は、どれも意味が違う。  
 ⑭ spend O (in) doing 「~するのにO(時間や労力など)を費やす」の重要構文も覚えておこう。  
 5. An attractive young man waited on me in that restaurant. 「そのレストランでは、魅力的な若い男性が私に給仕してくれた」  
 ⑫ wait は、前置詞 on や at (英国用法) を伴って「~に給仕する(ウェ이터やウェイトレスが行う動作のこと)」の意味を持つ。これに近い② served 「(食物を)出した」が正解。和製英語の「サービス」と間違つてくと覚えやすいかもしれない。  
 ⑬ ① kept 「~をとどまらせた」、③ stood up to 「~に立ち向かった、耐えた」、④ stopped 「~を止めた」は、どれも意味が違う。

## 学習のポイント

比較級を使った慣用表現 ① 7, 8, ② 1, 2, ③ 5, 7-10

- ▶ know better than to do 「~するほど愚かではない」  
 ▶ more A than B = A rather than B  
 = not so much B as A 「BというよりもむしろA」  
 ▶ all the more [better] for ~ 「~なので、いっそう」  
 ▶ no more ~ than ...  
 = not ~ any more than ... 「...と同様に~ではない」  
 ex. A nation is no more imaginary than a language. 「国家は言語と同様に、空想ではない」  
 ▶ no less ~ than ... 「...と同様に~である」  
 ex. Japanese is no less closely linked to Chinese than English is to Arabic.  
 「英語がアラビア語に対するのと同様、日本語は中国語と密接な関係がある」  
 ▶ no less than ~ = as many [much] as ~ 「~もの(多くの)」(数量が多いことを強調する)  
 ex. He gave me no less than 5,000 yen. 「彼は私に5,000円もくれた」  
 ▶ no more than ~ = only ~ 「~しか」(数量が少ないことを強調する)  
 ex. He gave me no more than 5,000 yen. 「彼は私に5,000円しかくれなかった」



解答

- ① 1. ③ 2. ③ 3. ④ 4. ④ 5. ④  
6. ① 7. ③ 8. ③ 9. ② 10. ④

- ② 1. in this catalog are subject to change  
2. means you are familiar with  
3. was supposed to meet me at the station

- ①  
1. He has been absent from school for a week. 「彼は1週間学校を欠席している」  
⑬ ③ (has been absent) from (～) 「～を欠席している」が正解。この意味で他の前置詞は用いない。  
2. You are totally responsible for the damage that you caused. 「あなたは自分が起こした損害に完全に責任がある」  
⑬ ② (are) responsible (for ～) 「～に責任がある」が正解。that は the damage 「損害」を先行詞とする目的格関係代名詞。  
⑭ ① (be) thankful (for ～) 「～に感謝する」は、「損害に感謝する」という文脈が不自然。③は be capable of ～ 「～の能力がある」の形で用いる。for につながらず、不可。④ available 「手が空いている、入手可能な」は文意が通じない。  
3. I don't want to be dependent on anybody. 「私はだれにも頼りたくない」  
⑬ ③ (be dependent) on ～ 「～に頼っている、依存している」が正解。動詞形の depend も、前置詞 on を伴って 「～に頼る、～次第である」という意味。on の代わりに upon を使うこともある。  
4. I'm a student, but working part-time, to be independent of my family. 「私は学生だが、家族から独立するためにアルバイトをしている」  
⑬ ④ (be) independent (of ～) 「～から独立(自立)している、～と無関係で」が正解。dependent の反意語で、この of は(分譲)の意味。ちなみに、of だと「無関係」という印象が強いので、この文脈では from を用いるネイティブもある。  
⑭ ① intelligent 「聡明な」、② international 「国際的な」、③ interesting 「おもしろい」は、いずれも意味が通らない。  
5. The world might be free from hunger, if we could produce food, more efficiently, with some new technology. 「新しい技術でもっと効率よく食料を生産することができたら、世界から飢餓がなくなるかもしれないのだが」  
⑬ ④ (be) free (from ～) 「～がない、～を免れている」が正解。from の代わりに of を用いることもある。～の部分には「心配、災難、間違い」など、よくないものを意味する語がかかることが多い。この文全体は、現在の事実と異なる内容について述

べる仮定法過去の文。

- ⑭ ① (be) different (from ～) 「～と違う」、③ (be) absent (from ～) 「～を欠席している、(必要なものを)欠いている」はいずれも意味が通らない。  
⑭ ② next 「次の、隣の」は、伴う前置詞はたいいてい to で、from ではない。  
6. When I was a child, I was afraid of dogs. 「私は子どものころ、犬が怖かった」  
⑬ ① (was) afraid (of ～) 「～を怖がっていた」が正解。  
⑭ ② frightening は、進行形の「怖がらせていた」、分詞形容詞の「ぎょっとさせるような」の意味が考えられるが、目的語(怖い対象)をとるために of を要することはない。be frightened [scared] of ～ 「～を(常に)怖いと思う」なら正しい(scaredの方が口語的でやわらかい表現)。③ scary 「恐ろしい(口語的)」も④ terrible 「恐ろしい」も、自分の感情を説明する語ではなく、恐ろしい対象を説明する語。不可。  
7. My father is quite indifferent to his coworkers. 「私の父は同僚にはまったく関心がない」  
⑬ ③ (is indifferent) to (～) 「～に無関心である」が正解。different と形が似ているが、反意語ではない。from を選ばないように注意する。  
8. Mary was so absorbed in reading the book, that she didn't hear the doorbell ring. 「メアリーはその本を読むのに夢中だったので、玄関のベルが鳴るのが聞こえなかった」  
⑬ ③ (was) absorbed (in ～) 「～に夢中になっていた、ふけていた」が正解。absorbed は、他動詞 absorb 「(注意など)を奪う、夢中にさせる、吸収する」の過去分詞から派生した分詞形容詞。この英文には、(so ～ that ... 構文) 「あまりに～なので…」と、知覚動詞 (hear O do) 「O が～するのが聞こえる」の重要表現も含まれている。  
⑭ ① aware は be aware of ～ 「～に気づいている」の形でよく用いられる。意味が通らないし、前置詞も合わない。④ arranged 「配置された、手配された」も意味が通らない。② awaken は「目覚める、～を目覚めさせる」の意味の動詞。直前に was があるので動詞の原形は文法的に不可。  
9. Since I have been studying very hard, I am very likely to pass the examination. 「私はとても熱心

に勉強してきているのだから、たぶん試験に合格するだろう」

- ⑬ ② (am very) likely (to do) 「～する可能性がとても高い、かなり～しそうだ」が正解。  
⑭ ① easy が人を主語にとれるのは、「(with を伴って) 寛大な、親しみやすい」という意味で使う場合と、文の主語が不完詞の意味上の目的語に相当して「～しやすい」という意味で使う場合 (ex. His mother is too easy with him. 「彼の母親は彼に甘すぎる」/ She is easy to talk to. 「彼女は話しやすい」)。ここでは、どちらの意味にも該当しない。副詞③ perhaps 「ひょっとすると」を very で修飾することはない。形容詞④ probable 「十分ありそうな」は人を主語にできない。  
10. Be sure to call me when you arrive at the airport. 「空港に着いたら、必ず私に電話をください」  
⑬ ④ (be) sure (to call) 「必ず電話する」が正解。  
⑭ ① be afraid to do 「怖くて～できない」では意味が通じない。この文は命令文なので主語は you。you are easy to call ～とは言えないので②も不可。③ necessary も人を主語にできない。

②

1. Prices, shown in this catalog, are subject to change. 「このカタログに示された値段は変更されることがあります」  
⑬ Prices (名詞) の直後に過去分詞 shown 「示される」があることから、この shown は Prices を後ろから修飾する限定用法の過去分詞とわかり、さらに示される場所を表す in this catalog と続けられる。ここまでは主語(主部)となる。ここで、残った subject, change, are, to から、be subject to ～ 「(よくないこと)の影響を受けやすい」という意味の表現を思い出す。それぞれを代入し、are subject to change を主語につなげて完成する。この change は名詞。この文全体はカタログや広告などに見られる慣用表現 (without notice 「予告なく」を伴うことも多い)。  
2. Knowing two languages, means you are familiar with two cultures. 「二つの言葉を知ることは、二つの文化に精通するということである」  
⑬ Knowing two languages は動名詞でできた主語と判断できる。この主語(「知ること」)は単独で、動詞は三単現の means 「～を意味する」しかありえない。さらに、この目的語が that を省略した that 節 「～ということ」だと見做る。節はふつうの文と同様の構造をとるので、残った4語と文末の two countries を用いて文を作ればよい。be familiar with ～ 「(主に、物)に精通している」

から、you are familiar with (two cultures) とつなげて完成する。

- ⑭ be familiar は、それに続く前置詞が重要である。be familiar with ～で「(人が、主に物)をよく知っている、～に精通している」。be familiar to ～で「(物が、人)にとってなじみがある」。  
ex. I am familiar with this song. 「私はこの歌をよく知っている」/ This song is familiar to me. 「この歌は私にとってなじみ深い」。  
3. He was supposed to meet me at the station, but he never came. 「彼は私に会いに駅まで来ることになっていたが、まったく来なかった」  
⑬ 整序語句の中にある supposed がカギ。目的語としての that 節をとるか、(be supposed to do) 「～することになっている」の形をとるかを見極める。前者の場合、that 節の主語が the station、動詞が was となるが、その後がつかない。後者の場合、was supposed to meet 「会うことになっていた」という迷語動詞ができるので、主語の He からつかげられる。meet の目的語は me しかなく、さらに、残った3語でできる at the station 「駅で」という副詞句をその後につなげれば完成できる。

学習のポイント

形容詞を含む重要表現

- ▶ be particular about ～ 「～に気を遣う、好みがある」
- ex. She is particular about her clothes. 「彼女は着るものにうるさい」
- ▶ be short of ～ 「～が不足している」
- ex. I'm short of cash now. 「私は今、現金が不足している」
- ▶ be similar to ～ 「～に似ている」
- ex. That house is similar to ours. 「あの家は私たちの家と似ている」
- ▶ be well off 「暮らし向きがよい」
- ex. We are better off now than we were ten years ago. 「今、私たちは10年前よりも暮らし向きがよい」(比較級表現による応用)
- ▶ be ashamed of ～ 「～を恥じている」
- ex. I'm ashamed of having said such a thing. 「私はそんなことを言ったことを恥じている」
- ▶ be involved in ～ 「～に関わる、巻き込まれる」
- ex. I don't want to be involved in that matter. 「私はその件に関わりたくない」
- ▶ be bound to do 「きつと～する」
- ex. This country is bound to change. 「この国はきつと変わっていく」
- ▶ be willing to do 「～する気がある、喜んで～する」
- ex. I'm willing to work on Saturdays. 「私は土曜日に働くのは構わない」

## 解答

- ① 1. ③ 2. ② 3. ① 4. ① 5. ②  
6. ③ 7. ③ 8. ① 9. ② 10. ②

- ① 1. ② 2. ④ 3. ③ 4. ② 5. ①

- ③
- Most of the students are quite keen on studying English. 「学生のほとんどは英語の勉強にかなり熱心だ」
    - ⑫ keen には、「鋭い、厳しい、熱心な」などのさまざまな意味があるが、be keen on ~で「~に熱中している」という意味を表す。これとはほぼ同じ意味の③ enthusiastic「熱心な」が正解。
    - ④ ① pessimistic「悲観的な」、② clever「賢い」、④ skilled「熟練した」は意味が違う。
  - We were ignorant of the fact that the store was closed on Thursday. 「私たちはその店が木曜日に閉店したという事実を知らなかった」
    - ⑫ be ignorant of ~「~を知らない、~に無知で」から、ほぼ同じ意味の② (be) unaware of ~「~に気づいていない」が正解。反意語の aware「気づいている」も、be aware of ~「~に気づいている」の形をとる。
    - ④ ① (be) disturbed by ~「~に邪魔される」、③ (be) surprised at ~「~に驚く」(by ~となることもある)、④ (be) disappointed by ~「~にがっかりする」(at ~となることもある) は、いずれも意味が違う。
    - ③ 以下は名詞の同格節を導く接続詞で、the store 以下で the fact の内容を説明している。
  - Mary is very concerned about her sick father. 「メアリーは病気の父親のことをとても心配している」
    - ⑫ be concerned [anxious] about ~は「~を心配している」の意味。ほぼ同じ意味の① (be) worried (about ~)「~を心配している」が正解。
    - ④ be concerned with ~「~に関係がある」。
    - ③ ② (be) sad (about ~)「~を悲しむ」、④ (be) unsure (of [about] ~)「~に自信がない、不確かな」は意味が合わない。④ be mixed「混ぜられる」は受動態で、目的語(「~と」)をとるために前置詞 with を要する。不可。
  - I'm fed up with listening to his complaints. 「私は彼の不評を聞くのにうんざりしている」
    - ⑫ be fed up with ~「~にうんざりして」は、feed up ~「~にたくさん食べさせる、太らせる」(英用法)の受動態と考えればわかりやすい(「たくさん食べさせられて」うんざり)。ほぼ同じ意味の① (be) tired of ~「~に飽きて」が正解。
    - ④ ② (be) happy about ~「~をうれしく思う」、③

- (be) used to ~ (doing)「~(すること)に慣れている」、④ (be) sympathetic when ~「~するときに賛同する、共感する」は、どれも意味が違う。
- ④ なお、④のときは、接続詞 when の後の(主語+be 動詞 (I am)) が省略されている構造なので、listening は進行形を作る現在分詞。一方、①~③のときの listening はすべて、前置詞に導かれているので動名詞。be tired from ~「~に疲れて」。
- She is anxious to get the results of the examination. 「彼女は試験の結果を知りたがっている」
    - ⑫ be anxious to do「~したいと切望する」。② (be) hoping は hope「望む」の進行形を作る現在分詞なので、be hoping to do「~することを望んでいる」が最も意味が近く、正解と判断する。
    - ④ ① (be) hesitating (to do)「~するのをためらっている」、④ (be) thrilled (to do)「~してわくわくする」は意味が違う。③「彼女は計画される」は文が成立しない。
    - ④ be anxious to do [that 節 / for ~]「~を切望している」、be anxious [worried] about ~「~のことを心配している」。まとめて覚えておこう。
  - Babies are apt to put all kinds of things into their mouths. 「赤ちゃんは何でも口に入れがちである」
    - ⑫ be apt to do「~しがちである、(生まれつき) ~しやすい」とほぼ同じ意味の③ tend to (do)「(~する) 傾向がある」が正解。
    - ④ ① intend to (do)「~するつもりだ(一時的な意図)」、② pretend to (do)「~するふりをする」はいずれも意味が違う。④ attend「出席する、注意を払う」は to 不定詞を目的語にとらないので、この to put は「~するために」という副詞的用法となる。意味が通じないので不可。
  - Do your homework immediately. 「すぐに宿題をしろ」
    - ⑫ immediately は「直ちに、すぐに」の意味の副詞。ほぼ同じ意味の③ right away「すぐに(くだけた表現)」が正解。at once「すぐに(堅い表現)」や right now「今すぐに」も覚えておこう。
    - ④ ① from time to time「ときどき」、② once and for all「これを最後に」、④ sooner or later「遅かれ早かれ、いずれは」はどれも意味が違う。
  - I am sure she will be home before long. 「きっと彼女は間もなく帰ってくるだろう」
    - ⑫ before long は「(長くなる前に) 間もなく」の

- 意味。ほぼ同じ意味の① soon「すぐに」が正解。
- ④ ② later「後で、後ほど」、③ today「今日」、④ suddenly「突然」はどれも意味が違う。
- Sometimes my job is boring, but by and large I enjoy it. 「私の仕事は、退屈なときもあるが、全体としては楽しい」
    - ⑫ by and large は主に口語で用いられ、「全体としては、概して」の意味。ほぼ同じ意味の② on the whole「全体的に見て」が正解。どちらの表現も「例外はあるが、全体として」の含意がある。
    - ④ ① seldom「めったに~ない」(否定的な表現)、③ in particular「とりわけ、とくに」、④ now and then「ときどき、たまに」は意味が違う。
  - We occasionally meet for a drink after work. 「私たちはたまに、仕事の後に会って飲みに行く」
    - ⑫ occasionally「ときどき、たまに」(少々改まった表現) とほぼ同じ意味の② every now and then が正解。この every はないこともある。
    - ④ ① over and over again「何度も何度も」、③ nearly always「ほとんどいつも」、④ by chance「偶然に、たまたま」は意味が違う。
  - David's wife dislikes his smoking habit so much that she wants him to quit for good. 「デイビッドの妻は彼の喫煙癖をとても嫌っているので、永久に禁煙してもらいたいと思っている」
    - ⑫ for good (and all) は口語で用いられ、for ever [forever] と同様、「永久に」という意味。ほぼ同じ意味の② permanently「永久に」が正解。
    - ④ ① all of a sudden「突然に」、③ punctually「時間通りに」、④ right away「すぐに」はどれも意味が違う。
  - All of a sudden, it started to rain heavily. 「突然、激しい雨が降り始めた」
    - ⑫ all of a sudden は suddenly と同じ「突然に」の意味。ほぼ同じ意味の④ all at once が正解。all at once には「(一度に全部) 一斉に、同時に」の意味もある。
    - ④ ① all too often「(望ましくないことの頻度が) あまりにも頻繁に」。この all は「まったく、すっかり」の意味で、副詞や形容詞を強調する役割をしている。② once in a while「(しばらくの間に1回) ときどき、たまに」。③ at any moment「(どの瞬間にも) いつ何とき、今すぐにでも」は「~かもしれない」という(推量)の文脈で用いられる表現。どれも意味が違う。
    - ④ この文の it は(天候)を表し、訳さない。
  - James was called to see the manager and got the

- job on the spot. 「ジェイムズは経営者に会うように呼び出され、その場で職を得た」
- ⑫ on the spot は「その場で、即座に」の意味。(場所)・(時間) のどちらも表すことができるが、ここでは(時間)の③ immediately「すぐに」とほぼ同じ意味と考える。
- ④ ① respectively「それぞれに」、② comfortably「快適に、楽に」、④ reluctantly「いやいやながら、しぶしぶ」は、どれも意味が違う。
- Halloween is around the corner. 「もうすぐハロウィーンだ」
    - ⑫ around the corner は、直訳すると「(場所について) 角を曲がったところ」だが、転じて「(角にかかわらず) すぐそこ」、さらに転じて「(時間について) もうすぐ、間もなく」の意味になることがある。ここでは主語「ハロウィーン」の時期についての表現となるので、② coming soon「間もなくやってくる」(確定的な近未来の予定)を表す現在進行形が正解。
    - ④ ① gone「行ってしまった、終わってしまった」、③ coming late「遅れている」、④ coming early「早まっている」は、どれも意味が違う。
  - You didn't do well on the test, but at any rate you passed. 「君は、テストの結果はよくなかったが、いずれにせよ(少なくとも)合格だよ」
    - ⑫ at any rate は、「いずれにせよ、とにかく、少なくとも」の意味で用いられ、ほぼ同じ意味の① in any case「いずれにせよ、とにかく」が正解。どちらも、主に口語で用いられる表現。
    - ④ ② fortunately「幸運にも」、④ by and large「全体として」は意味が違う。不可。③ above all「とりわけ、中でも」は少々わかりづらいが、at any rate が「(ある基準を満たした範囲内で、どの割合でも) いずれにせよ」という含みを持つのに対し、above all は「(すべての、さらに上) 何よりも重要」という含みを持つ点で異なる。不可。

## 学習のポイント

## 副詞を含む重要表現

▶ from now on「今後は」

ex. From now on, I'm going to walk my dog before breakfast. 「今後は朝食前に犬を散歩させるつもりだ」

▶ on and off [off and on]「断続的に」

ex. It has been raining on and off. 「断続的に雨が降り続けている」

▶ so far「これまでのところ」

ex. Everything has worked well so far. 「これまでのところ、すべてうまくいっている」

## 解答

1. ① 1. ② 2. ④ 3. ④ 4. ③ 5. ②  
6. ③ 7. ④ 8. ④ 9. ④ 10. ①

2. 1. that the president knew would be unpopular with

2. what little service I can do  
3. come when the mystery of the event can be

## 1

1. Thank you, Hiromi. This book is exactly what I wanted. 「ありがとう、ヒロミ。この本はまさに私が欲しかったものだ」

⑫ I wanted の後に目的語がないので、空所には wanted の目的語に相当するものが入る。空所前に先行詞がないことから、先行詞をその中に含む関係代名詞の① what が正解。(what SV) で「S が V すること (もの)」のように、名詞節のまとまりとして覚えてしまうのがよい。(ex. what she sees 「彼女が見るもの」、what your parents want you to do every morning 「あなたの両親があなたに毎朝してほしいこと」)

⑬ ② which、③ of which、④ that はいずれも先行詞を必要とする関係代名詞なので、不可。

2. Mr. Smith is the scientist whose reputation is growing fast. 「スミス氏は、その評判が急速に高まっている科学者だ」

⑫ 空所の前で文が完成しているため、空所以降は直前の the scientist 「科学者」を修飾する関係代名詞が入ると考える。空所の後に reputation 「評判」が続くので、「(科学者) の」という所有 (格) の役割をする関係代名詞④ whose が正解。

⑬ ① which、② who、③ whom はいずれも、所有の意味を含まない。

3. France is a country which I want to visit. 「フランスは私が訪れたい国だ」

⑫ 関係代名詞の先行詞は、その後の節で欠けている名詞 (つまり主語か目的語か補語) の部分である。ここでは、I want to visit a country という節の目的語が欠けて、先行詞となっている。よって、空所に入る関係代名詞は、visit の目的語の働きをする (目的格の) ④ which が正解。

⑬ ① who は先行詞が人ではないので不可。② what は先行詞を要さないため不可。③ to which は、前置詞 to が不要。他動詞 visit は目的語をとるので、visit to a country とは言わないからである。

⑭ 先行詞が場所を表す語でも、関係副詞の where が入るとは限らない。関係代名詞はあくまで名詞として、主語や目的語などの名詞を修飾する働きをする。(場所) や (時) などを表す副詞として働く、関係副詞との違いを明らかにすること。

4. These are the tools with which he built his own house. 「これらは彼が自分の家を建てるのに使った工具だ」

⑫ 空所後の he built his own house 「彼は自分の家を建てた」は文として欠けがないが、空所前の the tools との関連を考えると、with the tools 「工具を使って (建てた)」という副詞句が見えてくる。この中の名詞 the tools が欠けて、関係代名詞の先行詞になっていることがわかるので、この副詞句において the tools は前置詞 with の目的語である。よって、the tools (which) he built his own house with 「彼が自分の家を建てるのに使った工具」と表現できる。また、この with は先行詞の直後に置けるが、この (前置詞 + 関係代名詞) の形で用いられる関係代名詞は目的格の whom と which だけ。よって、③ with which が正解。②は不可。

⑬ 前置詞のない①と④は不可。

5. Rome, which is my favorite Italian city, seems to have more visitors every year. 「ローマは、私のお気に入りのイタリアの都市なのだが、毎年訪問者が増えているようだ」

⑫ まず文全体の基本構造を理解する。主語が Rome 「ローマ」、動詞以降が seems ~、空所から Italian city までがコンマで囲まれた挿入節。この挿入節で、空所は節として欠けている主語の部分。よって、主格の関係代名詞② which が正解。

⑬ 先行詞 Rome は人ではないので③ who は不可。関係副詞の① where と④ how も不可。

⑭ 先行詞の後に (コンマ + 関係詞) が続くとき、関係詞が導く節は先行詞を補足説明する働きをする (継続用法) または (非制限用法) という。固有名詞など唯一のものが先行詞となる場合は、必ず継続用法を用いる。

6. He passed the exam, which surprised us all. 「彼は試験に合格したが、そのことに私たちは全員驚いた」

⑫ 空所後に動詞 surprised が続くので、空所にはこの主語となるものが入る。前にコンマがあることから、継続用法の主格関係代名詞③ which が正解。文脈から、「私たちが驚かせた」のは the exam 「試験」ではなく、he passed the exam 「彼が試験に合格した」ということ。つまり、which の先行詞は、コンマの前の文全体の内容である。

⑬ 1つの文が2つ以上の節から成り立つ場合、これらをつなぐ接続詞が必要になる。① it を入れると接続詞がないので不可。関係代名詞の that には、直前にコンマを置く継続用法がないので②も不可。④ what を入れると「私たち全員を驚かせたもの」という意味の名詞節になるが、この節の文全体における役割が不明になる。

7. I want to stay in a room, where I can see the ocean. 「私は海が見える部屋に泊まりたい」

⑫ 空所後の I can see the ocean 「私は海を見ることが出来る」は文として欠けがないが、a room との関連を考えると、from a room 「部屋から」という副詞句の名詞 a room が欠けて、関係代名詞の先行詞になっていることがわかる。この副詞句において a room は前置詞 from の目的語。よって、a room from which I can see the ocean 「私 (そこから) 海が見られる部屋」と表現できる。さて、このときの先行詞が場所を表すとき、関係副詞の where を用いて、a room where I can see the ocean と表現できる。よって、正解は④。

⑬ 関係代名詞の① which と② that は、I can see ~ の節において名詞が欠けていないので、不可。③ why は (理由) を表す関係副詞だが、先行詞に場所を表す a room をとることはない。不可。

8. Michael works very hard. That's why I respect him. 「マイケルはとても熱心に働く。そういうわけで、私は彼を尊敬している」

⑫ 第1文は文脈的に第2文 I respect him の理由を表しているため、(that's (the reason) why ~) 「それが~の理由だ」という表現をあてはめる。正解は④。the reason はたいてい省略される。

⑬ ① (That's) how ~ 「それが~の方法だ」の表現をあてはめると、「それが、私が彼を尊敬する方法だ」という意味になり、理由を表す文脈では不自然。② the person や③ the thing を入れるには、That's the person [the thing] (whom [that]) I respect. 「それが、私が尊敬する人 [尊重するもの] だ」のように、関係代名詞の目的格 (whom [that]) が省略されている形にしなければならない。目的語の him があるので、不可。

9. Those who were present, were very glad to hear the news. 「出席していた人々はその知らせを聞いてとても喜んだ」

⑫ 文全体の動詞が2番目の were で、その前の部分の Those ( ) were present に主語としての名詞の役割を持たせる。代名詞 those は people と同様「人々」の意味を表せるので、これを後ろから修飾する。were present は主語が欠けていると判断し、入である those を先行詞とする主格関

係代名詞④ who が正解。those who ~ 「~する [である] 人々」で覚えてしまうこと。

⑬ ① whom は目的格関係代名詞なので不可。② what は先行詞をとらないので不可。③ which は、先行詞 those が人を表すので不可。

10. As is often the case with him, he is late for school on rainy days. 「彼にはよくあることだが、雨の日は学校に遅刻する」

⑫ 「~にはよくあることだが」という意味で慣用的に使われる① As is often the case with ~ が正解。この as は主語で、主節全体を先行詞とする関係代名詞。慣用表現として覚えてしまうこと。

## 2

1. There was a lot of work that the president knew would be unpopular with many employees. 「多くの社員には不評だろうと社長にはわかっている仕事がたくさんありました」

⑫ a lot of work 「たくさん仕事」を形容できそうな unpopular は、be unpopular with ~ 「~に不人気だ」の形にして、関係代名詞の that を用いて表現すると、a lot of work that would be unpopular with ~ となる。この前置詞の目的語は the president か many employees だが、前者にすると knew だけが余ってしまうので、後者につなげる。残った the president knew を、関係代名詞 that の直後に挿入的に置いて完成する。

2. I'd like to do what little service I can do for your family. 「ささやかながら、あなたの家族のお役に立てることは何でもしたい」

⑫ what ~ は「~するすべての」の意味で名詞を修飾することがあり (関係形容詞という)、(what (little) + 名詞 (~) + SV) 「S が V する (少ないながらも) すべての~」の形でよく用いられる。この形を整序語内にあてはめると、what little service I can do 「少ないながらも私にできるあらゆるお世話」の句ができ、文が完成する。

3. The time will come when the mystery of the event can be explained. 「その事件の謎が解明される時が来るだろう」

⑫ 冒頭の The time will に続く動詞の原形は come に決まる (the time = the mystery が成立しないので be は来ない)。ここで The time will come という文がいったん成立するが、先行詞の the time は、関係副詞の when に導かれる隠れた節で説明できる。節を作る (主語 + 動詞) を、the mystery of the event + can be (explained) として完成する。関係副詞の when は疑問詞ではないので、語類は平叙文のままである。

## 解答

3. 1. ① 2. ① 3. with whom 4. which  
5. of which 6. Whoever 7. whoever

8. No matter how 9. what  
3. 1. ① 2. ② 3. ④ 4. ④ 5. ④

## 3

1. The roof of the building, which was damaged, has already been repaired. 「破損した建物の屋根はすでに修理されている」
- ① The building's roof was damaged. It has already been repaired. 「建物の屋根が破損した。それはすでに修理されている」。The roof (of the building) を先行詞とし、was damaged の主語となる主格の関係代名詞① which が正解。
- ② 副詞は主語にならないので関係副詞② where は不可。先行詞があるので③ what は不可。所有格関係代名詞 whose には名詞が続く。④ は不可。
2. The building you see over there, is City Hall, where his father works. 「あそこに見える建物は市役所で、そこで彼の父親が働いている」
- ① The building you see over there is City Hall. His father works there. 「あそこに見える建物は市役所だ。彼の父親がそこで働いている」。空所直後の his father works は文が成立しているの、空所には副詞が入る。よって、場所を表す関係副詞① where が正解。継続用法で、コンマの後の節が先行詞 City Hall を補足説明している。
- ② 文が欠けていないので、関係代名詞② which は不可。名詞句がコンマを伴って同格を表すことがある (ex. the Nile, the longest river on Earth「地球上で最長の川であるナイル川」)。ここで City Hall と同格の名詞句を作るには、(the place where [at which] his father works) または (the place his father works at) 「彼の父親が働く場所」としてはならない。よって③は、たとえ単数形であっても、不可。④ the scenery「景色」は City Hall を言い換えられる名詞ではない。
3. He had no one with whom he could consult about the matter. 「彼にはその問題のことで相談できる人はだれもいなかった」
- ① He had no one to consult with about the matter. (訳は同上)。上の文の to consult with は no one を修飾する形容詞的用法の不定詞で、no one は consult with の意味上の目的語。下の文では consult の後に with がないので、with とその目的語にあたる関係代名詞を補う。先行詞 no one は人なので、関係代名詞は whom (目的格) を用いる。よって、with whom が正解。
4. We ordered a French wine, which we all liked very

much. 「私たちはフランスワインを注文したが、それを全員がとても気に入った」

- ① We ordered a French wine and we all liked it very much. (訳はほぼ同上)。下の文には liked の目的語 it がなく、上の文の and と欠けた it の働きをする継続用法の関係代名詞 which が正解。
5. We were given a lot of information, most of which was useless. 「私たちはたくさんの情報をもらったが、その大部分は役に立たなかった」
- ① We were given a lot of information. Most of the information was useless. (訳はほぼ同上)。上の第2文の the information は前置詞 of の目的語 (most「ほとんど」は名詞)。これを関係代名詞 which に置き換えてできる most of which という句を、第1文の a lot of information を先行詞としてつなげると下の文ができる。よって、正解は of which。継続用法の which や whom は (数量を表す (代) 名詞 (~) + of which [whom]) の形で「そのうちの～」という意味。数量を表す (代) 名詞には most, some, all, both などがある。
6. Whoever reads this novel, will be surprised. 「この小説を読む人はだれでも驚くだろう」
- ① Anyone who reads this novel will be surprised. (訳はほぼ同上)。anyone who ~ は「～する人はだれでも」の意味。これを1語で表す whoever ~ が正解。この whoever は reads this novel という節の欠けた主語で、また、この節は文全体の主語となっている。この whoever を、名詞節を導く、複合関係代名詞という。
7. I will give my picture to whoever wants it. 「私の写真をだれでもほしい人にあげよう」
- ① If anyone wants my picture, I will give it to them. 「だれか私の写真をほしい人がいたら、あげよう」。空所以下の節は to の目的語だが、空所は動詞 wants の主語と考える。よって、人を表す主格の複合関係代名詞 whoever が正解。
8. No matter how hard it may be, it is worth trying. 「どんなに難しくても、それはやってみる価値がある」
- ① However hard it may be, it is worth trying. (訳は同上)。(however + 形容詞 [副詞] ~) は「どんなに～でも」という (譲歩) の意味を表す副詞節。この節を導く however を複合関係副詞といつて、no matter how に書き換えられる。よって、正解は No matter how。

9. He's made me, what I am today. 「今の私があるのは彼のおかげだ」 ※ He's = He has

- ① He's made me the person that I am today. (訳はほぼ同上)。上下の文を直訳すると「彼は私を今日の私 (という人物) にした」となる。このときの be 動詞は「存在する」という意味に近い。上の文の the person + that + I am (先行詞 + 関係代名詞 that + SV) を、下の文では what + I am (先行詞を含む関係代名詞 what + SV) で表し直す。後者は、関係代名詞 what を使った慣用表現として、what you are 「ありのままのあなた」、what I used to be 「(今はそうではない) かつての私」などの形で覚えてしまうとよい。

## 4

1. It doesn't matter, if I miss this train. I can always get the next one. 「この電車は逃しても構わない。いつでも次の電車に乗れるから」
- ① (it doesn't) matter ~ 「～はたいしたことではない」という意味の慣用表現が正解。この It は～以降の内容を表す形式主語だが、～の部分には if 節「～かどうか」、that 節「～ということ」、what・how などの疑問詞節「何が・どのように～か」が来ることが多い。
- ② concern 「～に関係する、影響を与える」、③ worry 「(物が) 心配させる」は、いずれも他動詞。目的語がないので不可。④ care 「心配する、気にかける」は人を主語にとるので不可。
2. Thank you very much, for your help! I owe you a lot. 「手伝ってくれて本当にありがとう。ずいぶん借りができました」
- ① owe 「(借金・恩義など) を負っている」が正解。ここでは SVO(you) O(a lot) の第4文型で、a lot は「たくさん (の恩義)」という名詞。
- ② beg 「懇願する、請う」は、お礼を言った第1文との文脈が不自然。第4文型をとらないので a lot は名詞にならず、副詞的に「とても」と訳すのも不自然。③ see 「見る、会う、理解する」も第4文型をとらず、「頻繁に会う」も意味が不明瞭。④ tell 「話す、命じる」は第4文型をとるが、ここでの「あなたに多くのことを話す」は、前文との文脈上、不自然と判断する。
3. I don't get it—why would she do a thing, like that? 「わからないな。なぜ彼女がそんなことをしようとしたのか」
- ① get (it) は「(状況などを) 理解する」の意味の口語表現。ダッシュ後の文脈にも合致するので、これが正解。この it は、漠然とした状況や雰囲気から判断できる物事を指す用法で、訳さない。

なお、このダッシュは情報の付け足しの意味。

- ① catch には、主に疑問文・否定文で「(意味をとらえる、理解する)」の意味があるが、catch it は慣用的に「罰を受ける、叱られる」という意味で用いられることが多い。② keep 「とっておく」は「漠然とした状況の it」を目的語にとらない。③ make (it) は「間に合う、成功する、(困難などを) 切り抜ける」などの意味があるが、ここでは文脈に合わない。
4. I can't stand it; I just can't take it, anymore. 「私には我慢できない。もうまったく我慢できないよ」
- ① take (it) は、ふつう can を伴って「我慢する、耐える」という意味を表す。文前半の stand it も同じ意味で、これらの目的語 it は「漠然とした状況の it」を表す。セミコロン (;) は、関係ある2文をつなぐ等位接続詞 and の代用で、コンマとピリオドの中間的な休止の役割を持ち、ここでは2文が似た内容であることを示している。not ~ anymore は「もはや～ない」という意味。
- ① put (it) は「言う」の意味を持つことがあるが、この it は前出の文脈全体を指す。ここでは文脈が通らない。② dislike 「好まない」では目的語 it が指す内容がわからないし、「もうこれ以上堪えられない」という文脈も不自然。③ hand 「手渡す」も、it の内容が不明。
5. Some day you will realize, that honesty pays. 「正直が割に合うって、いつの日かあなたにもわかるよ」
- ① pays は自動詞 (目的語をとらない) で「割に合う、得になる」という意味を持つことがある。文意にも合うので、これが正解。この realize は「悟る、理解する」の意味。
- ① buys 「買う」、③ gives 「与える」は他動詞で目的語が必要。② (honesty) sells 「売れる」とは慣用的に言わない。

## 学習のポイント

## 関係代名詞 what

① 1

what 自体に先行詞を含み、「～すること [もの]」の意味を表す名詞節を作る。

ex. What he needs is some rest. 「彼に必要なものは休息だ」

## 複合関係代名詞・複合関係副詞

⑥ ~ 8

-ever の形の関係詞。それ自体に先行詞を含み、「～なら何 (誰・どこ) でも」、何 (誰・どこ) が～しようとも」といった意味の節を作る。

ex. Help yourself to whatever you like. 「何でも好きなものを自由にお取りください」(名詞節)

ex. You can sit wherever you like. 「どこでも好きなところに座っていいよ」(副詞節)

## 解答

- ① 1. ③ 2. ④ 3. ① 4. ③ 5. ③  
6. ② 7. ① 8. ① 9. ② 10. ①  
② 1. won't be long before the plan is

2. so that she could be independent of  
3. far as math is concerned

## ①

1. **Hurry up, or you will be late for school.** 「急ぎなさい。さもないと、学校に遅れるよ」  
⑫ 「急ぎなさい。( ), 学校に遅れるよ」の文脈から、(命令文 (~), or ... ) 「~しなさい。さもないと…」の表現をあてはめる。よって、③ or が正解。この (コンマ + or) 「さもないと」は、動詞の原形が始まる命令文に限らず、命令文に準じた表現、例えば must や had better などで (義務) を告げたり、強い (勧告) をしたりする場合にも用いられる。反対表現の (命令文 (~), and ...) 「~しなさい。そうすれば…」も覚えておくこと。  
⑬ ① but は、「急ぎなさい。でも間に合わない」が、事実上ありえる表現だとしても、内容的に不自然と判断する。② if 「もし~するつもりなら」(if が導く副詞節中の will は主語の (意志) を表す)、④ so 「その結果」(コンマのあとの so) はいずれも、文の内容がつかまらない。  
2. **That Bill accepted our offer, was a big surprise to us.** 「ビルが私たちの申し出を受け入れたことは、私たちにとって大きな驚きだった」  
⑫ 文全体の述語動詞は was なので、その前の部分が主語。Bill accepted our offer という節 (SV 構造) が主語となるには、名詞節を導く接続詞が必要となる。よって、「~ということ」の意味で名詞節を導く④ That が正解。  
⑬ ① What は先行詞を含む関係代名詞だが、Bill ~ offer の節に欠けている名詞がないので、名詞節が成立していない。② Although 「~だけれども」は副詞節を導く接続詞なので主語になれない。③ If は「~かどうか」の意味で名詞節を導くが、この節は主語としないのが原則 (代わりに Whether を用いる)。「~かどうかは驚きだ」という内容も不自然。  
3. **The fact that he passed the examination, made everyone happy.** 「彼が試験に合格したという事実には、だれもが喜んだ (一事実がみんなを喜ばせた)」  
⑫ he passed the examination は、fact の具体的な内容を説明する節で、fact と同格の関係にある。よって、名詞と同格になる節を導く接続詞① that が正解。これは (同格の that) と呼ばれる。that に導かれた節の中の名詞が欠けておらず、文として成立している点で、関係代名詞と見分ける。

- ⑬ 空所のあとの節中の名詞が欠けていないので、関係代名詞の② which と④ what は不可。③ how は関係副詞として「~する方法」を表す名詞節を導けるが、ふつう先行詞をとらない。「後がどのように試験に合格したかという事実」という内容も不自然である。  
4. **Whether you pay in cash, or by credit card, will make no difference.** 「現金で払ってもクレジットカードで払っても、どちらでもいいですよ」  
⑫ この文の述語動詞は will make で、その前の部分が主語。you pay ~ は節なので、これが主語となるためには、名詞節を導く接続詞が必要。節の中に or があることから、③ Whether 「~かどうか」が正解。whether A or B は、ここでは「A か B かどちらか (ということ)」の意味。  
⑬ ① Although 「~だけれども」と④ Since 「~して以来 (過去の始点、~ので (理由))」は副詞節を導くので主語になれない (主語になれるのは名詞だけ)。② How ~ は「~する方法」の意味で名詞節を導けるが、この「方法」は文中に、in cash 「現金で」と by credit card 「クレジットカードで」で示されているので、文が成立しない。  
5. **I'm not going to sleep tonight, until I finish my homework.** 「私は今夜は宿題を終えるまで眠らないつもりだ」  
⑫ 「眠らない」と「宿題を終える」という内容から、「宿題を終えるまで眠らない」という文脈にするのが適切。よって、「~まで」の意味を表す接続詞③ until が正解。主節の表す状態が「その時点まで続く」ことを意味する。このような、(時) や (条件) を表す副詞節中の時刻は、未来のことであっても現在 (完了) 形にしないでいい。  
⑬ ① by 「~までに」と② during 「~の間」は前置詞で、名詞 (句) の前にしか置けないので不可 (名詞節は接続詞や関係詞に導かれる)。④ since は、「~して以来」の意味では過去形の節を導くので不可。「~ので」の意味では、「宿題を終える」のは未来のことなので、(意志) の will や (義務) の have to を伴わなくてはならない。  
6. **Unless I study very hard, I won't pass all of my exams.** 「一生懸命勉強しない限り、私はすべての試験には合格しないだろう」  
⑫ 「一生懸命勉強する」と「すべての試験には合格

しないだろう」という相反する内容をつなげるので、空所には否定、または譲歩 (「たとえ~としても」) の意味を表す接続詞を入れる。② Unless 「もし~でなければ、~でない限り」が正解。

- ⑬ ③ Still 「それでも」は接続詞ではないので節を導けない。① Once 「いったん~すると」と、(理由) を表す④ Since は文意が通らない。  
7. **Even if we understand his anger, we cannot accept his behavior.** 「たとえ彼の怒りを理解したとしても、彼の振る舞いを受け入れることはできない」  
⑫ 「彼の怒りを理解する」と「彼の振る舞いを受け入れられない」は内容が逆接しているので、ここでは「たとえ~としても」の (譲歩) の意味の仮定を表す① Even if ~ が正解。  
⑬ ② Only if ~ 「~の場合に限って」は文意が通じない。③ What if ~ は「もし~したらどうなるか (仮定)、~したらどうか (提案)」などの意味を表す口語表現で、主節が what、従節が if に導かれる節という構造と判断される (ex. What (would you do) if the world ended tomorrow? 「明日世界が終わるとしたら (どうしますか)」のように意味がわかる)。主節が2つになってしまいうので不可。④ As if ~ 「(仮定法) まるで~であるかのように、(直説法) たぶん~であるかのように」は、ここでは文意が通らない。  
8. **Exhausted, as she was, she stayed up all night to finish the job.** 「彼女は疲れ切っていたけれども、その仕事を終えるために徹夜した」  
⑫ she was の後にくるはずの exhausted が、文頭に置かれて強調される倒置構造。2つの節の内容から、「疲れ切っていたけれども徹夜した」という意味となるので、(譲歩) の接続詞① as が正解。形容詞や副詞を文頭に置いて (形容詞 (副詞) (~) + as [though] SV) 「S は~だけれども」の形で用いられる。英文をそのまま覚えてしまうこと。  
⑬ ② if 「もし~ならば」と④ however 「どんなに~でも」は、このような倒置では使わない。前置詞③ despite 「~にもかかわらず」は節を導けない。  
9. **Take a map with you, in case you should get lost.** 「道に迷ったときに備えて、地図を持っていきなさい」  
⑫ 「地図を持っていきなさい」と「道に迷う」という2つの節の内容から、「~するといけなから、~する場合に備えて」の意味の② in case が正解。この節の内容が起きる可能性は低いと話者が考えている場合、should を伴うことがある。  
⑬ 命令文に続く and は、別の命令文か、(コンマ + and) 「そうすれば」に導かれる節。構造が成立しないので①は不可。③ so that ~ 「~するために」では「道に迷うために~」となり、目的が逆

になってしまう。④ in that ~ 「~という点で」は文意が成立しない。

10. **It was such a lovely day, that I went for a walk.** 「とても素晴らしい天気の日だったので、私は散歩に出かけた」  
⑫ 「とても~なので…」の意味を表す (such ~ that ...) または (so ~ that ...) の構文を使うと判断する。原則として、such には名詞が続き、so には形容詞や副詞が続く。ここでは、名詞の① such a lovely day 「素晴らしい天気の日」が正解。  
⑬ ②と④は so も such もないので相関係詞が成立せず、不可。(so ~ that ...) の構文において、~の部分に名詞、例えば a lovely day を入れたい場合には、形容詞を so の直後に出して、so lovely a day の語順とする (ただし、これはかなり堅い表現)。よって、③は不可。

## ②

1. **It won't be long before the plan is carried out.** 「まもなくその計画は実行されるだろう」  
⑫ 整序語句から、it won't be long before ~ 「(~する前まで、長くかからないだろう) まもなく~するだろう」の構文が頭に浮かぶかどうかがかギ。残った is と the plan を文末の carried out 「実行する」につなげて、受動態の節を作れば完成する。  
2. **She got a job, so that she could be independent of her parents.** 「彼女は、両親から独立できるようにと頑張って就職した」  
⑫ 冒頭に見えている「彼女は職を得た」、整序語句内は be independent of ~ 「~から独立している」、文末に見えている「両親」から、「彼女は両親から独立するために頑張った」といった内容が想像できる。「(can を伴って) ~できるように、~するために」を意味する接続詞 so that と、be independent of (her parents) が決まれば、残った she could be so that の直後に入るしかなく、これで文が完成する。  
3. **As far as math is concerned, Jonathan is not in the same league as Howard.** 「数学に関する限り、ジョナサンはハワードにとりもかかない」  
⑫ as far as I am concerned 「私に関する限り、私に言わせれば」という定型表現を覚えておけば、その応用で対処できる。必ず覚えておこう。math 「数学 (mathematics)」を I の部分に代入して完成する。  
⑬ be not in the same league as ~ は、「(~と同じリーグにいない) ~には (レベルや質が) 遠く及ばない」という意味のイディオム。

解答

- ③ 1. ④ 2. ② 3. ④ 4. ④ 5. ③  
6. either, or 7. neither, nor 8. long

- ④ 1. ② 2. ① 3. ② 4. ④ 5. ③

- ③
- Now that it's 9 p.m., the children have to go to bed. 「もう午後9時なので、子どもたちは寝ないといけない」
  - Since it's 9 p.m., the children have to go to bed. (訳はほぼ同上)。(now (that) ~) は「今はもう~なので」の意味の接続詞(句)。(理由)を表す Since「~ので」に意味が近く、④が正解。
  - ① After「~する後に」、② Before「~する前に」、③ Just when「ちょうど~するとき」は意味が違うので不可。
  - Every time I listen to Mozart, I think of my uncle. 「私はモーツァルトを聞くたびに、おじを思い浮かべる」
  - I never listen to Mozart without thinking of my uncle. 「(私はおじのことを思い浮かべずにモーツァルトを聞くことは決してない) 私はモーツァルトを聞くことと必ずおじを思い浮かべる」。下の文には節が2つあるので、これらを結ぶ接続詞が必要。「~するたびに(いつも)」という意味の接続詞の働きをする② Every time が正解。
  - ① All time は、最上級のあとに of all time で用いて「史上で」の意味を表す(この all time は名詞)が、接続詞にはなれない。③ Often「しばしば」、④ Always「いつも」は副詞で、どちらも接続詞的に用いられることはない。
  - We went home / the moment we were ready. 「私たちは用意ができたらずくに帰宅した」
  - We went home as soon as we were ready. (訳はほぼ同上)。(as soon as ~) は「~するとすぐに」という意味の接続詞として働く。同じ意味を表す④ (the) moment ~ が正解。moment の代わりに instant を使うこともできる。
  - ① は (the + 比較級 ~, the + 比較級 ...) 「~するほど…」の形が成立していない。②③はどちらも、the とともに接続詞的な役割を持たない。
  - No sooner had the stranger seen the sight than he began to weep. 「その光景を見とすぐに、その見知らぬ人は泣き出した」
  - On seeing the sight, the stranger began to weep. (訳はほぼ同上)。(on doing) 「~するとすぐに」は、(no sooner ~ than ...) 「~するとすぐに…」と同様の意味。比較級の sooner が文頭なので④ than が正解。ふつう、no sooner が文頭に來て、過去完了形の倒置形 (had S done) が続き、

than に過去形が続く。

- She would not let her cat outside for fear that it would get run over. 「彼女はネコが(車に)ひかれるといけないので、どうしても外に出させてやろうとしなかった」
- Because she was worried that her cat would get run over, she would not let it outside. 「彼女はネコが車にひかれるのが心配だったので、どうしても外に出させてやろうとしなかった」。上の文の Because「~ので」と was worried「心配だった」の意味を含む、③ (for) fear (that) ~ 「(~という恐れを理由に~) するといけないので」が正解。
- ① (for) reason (that it would get run over) は「(ネコがひかれる) 理由・原因 (のために)」(that は同格)の意味。② (for) purpose ~ でも同様に「(ネコがひかれる) 目的・意図 (のために)」という意味。どちらも文意が通らない。④ worry「心配、悩み事」は、慣用的にこのようには言わない。
- get [be] run over by ~ 「(車などに) ひかれる」(get は be よりも(動作)を明確に表す)。would not ~ 「どうしても~しようとしなない」(強い拒絶)。
- We can leave either today or tomorrow. 「私たちは、今日か明日のどちらかに出発できる」
- We can leave today or we can leave tomorrow whichever you prefer. 「私たちは今日出発してもいいし、明日出発してもいい—どちらも、あなたの好きなほうで(どうぞ)。2つのうちどちらか一方を表すには、(either A or B) 「AかBのどちらか」の形を用いる。よって、either, or が正解。
- Mike likes neither coffee nor tea. 「マイクはコーヒーも紅茶も好きではない」
- Mike doesn't like coffee. He doesn't like tea, either. 「マイクはコーヒーが好きではない。彼は紅茶も好きではない。2つのうち両方の否定を表すには (neither A nor B) 「AもBもどちらも~ない」で表す。よって、neither, nor が正解 (nor ではなく or を使う人もいるが、標準的ではないので不可とする)。
- Any book will do as long as it is interesting. 「おもしろければ、どんな本でもよい」
- Any book will do only if it is interesting. (訳はほぼ同上)。(only if ~ 「~でさえあれば、~の場合

合に限って」は(最低限の条件)を表し、同じ意味は (as [so] long as ~) で表すことができる。よって、long が正解。(as [so] far as ~) は、原則として、「~の範囲内では、~の限りでは」という(程度・範囲)を表し、(条件)を表さない。よって、不可とする。

- ④
- Linda went back to Hong Kong, and I miss her very much. 「リンダが香港に帰ってしまい、私は彼女がいなくてとても寂しく思っている」
  - 「リンダが帰って(いなくなって)しまった」という文脈から、他動詞② miss「~がいなくて寂しく思う」が正解。
  - ① mean「~を意味する」は文意が通じない。③ lack「~を欠いている」は、ふつう数量や程度の不足を表し、人を目的語にとらない。④ lose「~を失う」は、(程度)を強調する副詞 very much を伴わない。「失う」か「失わないか」に程度は関係しないからである。
  - The new albums of this rock group are selling very well right now. 「このロックグループのニューアルバムは、現時点でもとてもよく売れている」
  - 副詞句 right now「現時点で、たった今」があるので、現在進行形の① are selling が正解。この sell は自動詞「(ものが) 売れる」の現在分詞。
  - ② were sold「売られた」(他動詞)と④ sold「売れた」は時制が合わず不可。③では述語動詞がなく、不可。
  - Mary has run the most well-known restaurant in this area for the past five years. 「メアリーは過去5年間、この地域で最も有名なレストランを経営してきた」
  - 「レストラン」を目的語にできる動詞は② run「経営する(ここでは過去分詞)」(= managed) だけで、これが正解。
  - ① driven (過去分詞形) < drive「運転する、(感情などを) 駆り立てる」。他動詞の③ work は「(機械などを) 動かす」。「レストランで働く」は、ふつう自動詞を用いて work at a restaurant と表現する。④ ridden (過去分詞形) < ride「(二輪車や馬)に乗る」。いずれも不可。
  - That year, our wedding anniversary luckily fell on a Sunday. 「その年、私たちの結婚記念日は、幸運にも日曜日に当たった」
  - 「結婚記念日」、「幸運にも」、「日曜日」などのキーワードから、「(記念日や日付が、曜日)に当たった」の意味の④ fell (on) ~ (fallの過去形)が正解。
  - ① turned (on) ~ 「(電気やガスなどを) つけた、

(~の方に) 振り向いた」② put (on) ~ 「(衣類、装飾品などを) 身につけた」は、どちらも曜日を目的語にとらない。「結婚記念日」が③ crossed「交差した、横断した」とは言わない。いずれも不可。

5. See that all the books are returned to the shelves. 「すべての本は必ず棚に戻すよう気をつけなさい」

⑫ all以降が文として成立しているので、この that は関係代名詞ではなく、名詞節を導く接続詞 (that 節「~ということ」)。that 節を目的語にとれるのは⑩ See だけで、これが正解。この see は「(見て) 確かめる」という意味に近い。本来の形は (see (to it) that ~) 「必ず~するよう気をつける」で、この it は that 節を指す形式目的語と考えられる。口語では that it は省略されることが多い。

④ ① Put「置く」、② Make「作る」、④ Have「持つ」はいずれも、that 節に続く用法を持たない。

学習のポイント

副詞節を導く重要接続詞句 ①, ②, ③, ⑤

- in case ~ 「~するといけないから」
- ex. Take an umbrella with you in case it rains. 「雨が降るといけないから傘を持って行きなさい」
- for fear (that) ~ 「~するといけないから」
- ex. I wrote down the number for fear that I would forget it. 「忘れるといけないから、私はその番号を書きとめた」
- so (that) S can (may) ~ 「Sが~できるように」
- ex. Speak louder so (that) everyone can hear you. 「みんなに聞こえるように、もっと大きな声で話しなさい」
- so ~ that ... 「とても~なので、…」
- ex. The story was so touching that I was moved to tears. 「その話はとても感動的だったので、私は涙が出た」

「~するとすぐ」の表現 ③, ④

- 「彼女は学校を卒業するとすぐにパリに渡った」
- = As soon as she graduated from school, she went to Paris.
  - = The moment [The instant] she graduated from school, she went to Paris.
  - = She had no sooner graduated from school than she went to Paris.
  - = No sooner had she graduated from school than she went to Paris.
  - = She had hardly [had scarcely] graduated from school when [before] she went to Paris.
  - = Hardly [Scarcely] had she graduated from school when [before] she went to Paris.
  - = On graduating from school, she went to Paris.

## 解答

- ① 1. ② 2. ① 3. ① 4. ② 5. ③  
6. ② 7. ① 8. ② 9. ① 10. ③

- ② 1. alone with his back against the

2. year is of little importance to  
3. home instead of going to the concert

## ①

1. **前置詞** He went swimming, in the river. 「彼は川に泳ぎに行った」

⑫ 前置詞に導かれる句は、動詞を修飾する副詞句や、名詞を修飾する形容詞句になるが、(go doing + 場所を表す前置詞句) の文では、場所を表す前置詞句は doing の内容に依存する。つまり、ここでは、go to the river 「川に行く」と swim in the river 「川で泳ぐ」で前置詞が異なるが、go よりも swim の内容に依存するという。よって、前置詞は② in が正解。①は不可。

ex. I went shopping at a supermarket. 「私はスーパーに買い物に行った」

⑬ ③川の上を(川に接触して)泳ぐことはできない(ex. swim on the floor 「床の上を泳ぐ(まねをする)」。④go for ~は「~するために行く」の意味で、~の部分には、(行き先)ではなく(目的)を表す語が入る(ex. go for a walk 「散歩に行く」)。いずれも不可。

2. "You look really tired." "Yes, I woke up, several times, during the night." 「本当に寝れているようですね」「ええ、夜中に数回目が覚めたのですから」

⑫ 空所の後が名詞 the night なので、この空所に入るのは前置詞。「(特定の期間を指して)~の間に」という意味になる前置詞① during が正解。

⑬ ② while 「~する間に」と④ when 「~するとき」は接続詞なので、原則としてSV構造の節が続かなくてはならない。③ between 「(2つのもの)の間に」は、後に複数形の名詞や、(between) A and Bの形が続かなくてはならない。どれも不可。

⑭ several times 「何回か」は(頻度)を表す副詞句。

3. I have to finish the report, by Friday. 「私は中国語の授業のレポートを金曜日までに仕上げなければならない」

⑫ 文意から、「(金曜日)までに」の意味になる① by が正解。この by は(期限)を表す。

⑬ 前置詞の② at と③ in は、曜日名を目的語にとれない。④ until 「~まで」は、動作や状態の(継続)を表し、「(ある時)まで(ずっと)」という意味なので、finish 「終える」のような、瞬間的な動作を表す動詞と一緒に用いられない。

ex. I'm going to stay here until Friday. 「私は金曜日までここに滞在する予定だ」

4. The president will arrive, at the hotel, in ten minutes. 「社長は10分後にホテルに到着するだろう」

⑫ 文意から、「10分後に、あと10分で」の意味になる② in が正解。この in は(時の経過)を表す。within 「~以内に」との意味の違いに注意する。

⑬ ① at は(時点)を表す(ex. at 7 o'clock 「7時に」)が、時間の(幅)を表さない。③ on は(特定の日)を表す(ex. on July 4 「7月4日に」)。④ with が時間の幅を表すときは、(材料・同伴)などの意味になる(ex. What can you do with just one minute? 「わずか1分で何ができますか」)。

5. We talked, about our future, over a cup of coffee. 「私たちはコーヒーを飲みながら将来について話した」

⑫ 文意から、「コーヒーを飲みながら」という意味になる③ over が正解。「(食事、仕事など)をしながら」という(従事)の意味の前置詞。

⑬ ① at は(従事)の意味では、あつう無冠詞で at work 「就業中で」、at table 「食事中で」、at peace 「平和で」などの表現で用いる。② by 「~のそばで」に「飲みながら」という含意はなく、不自然なので不可とする。④ to は(到達点・方向)などを表すので、to a cup of coffee は「コーヒーを一杯飲むために」などのイメージになる。

6. Are you for or against the plan, we made yesterday? 「昨日私たちが立てた計画に、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか」

⑫ 空所の後に or against 「または~に反対で」が続くので、against の反意語② for 「賛成で」が正解。「私はその計画に賛成だ」は I am for the plan. のように表す。

⑬ ①③④いずれの前置詞も、against の反意を表す意味を持つものはない。

7. The policeman caught the thief, by the arm. 「警官は泥棒の腕をひっつかんだ」

⑫ (catch [hold / take] + 人 + by the + 体の一部)で「(人)の(体の一部)を(無理やり)つかむ」という意味。よって、① by が正解。caught the thief's arm がつかんだ位置に焦点を当てるのに比べ、つかんだ相手(泥棒)に焦点を当てる表現である。hold her hand が「(やさしく)手を握る」のに比べて、hold her by the hand は「手を握って(無理やり)引き留める」というニュアンスになる。

8. My friend is going to fly back to California, by way of Hawaii. 「私の友達は飛行機で、ハワイ経由でカリフォルニアに帰る予定だ」

⑫ 文意から、「ハワイを経由して」の意味になる② by way of が正解。via とほぼ同じ意味。

⑬ ① by means of 「~を用いて、~(という手段)によって」、③ in line with 「~と一致して、~に従って」、④ in the course of 「~のうちに、~の最中に」は、いずれも文意が通らない。

9. Galileo argued, in favor of the sun-centered Copernican theory of the universe, and against the earth-centered Ptolemaic theory. 「ガリレオは、太陽を中心としたコペルニクスの(地動)宇宙説に賛成し、地球を中心としたプトレマイオスの(天動)説に反対した」

⑫ 文の後半で「天動説に反対して」とあるので、前半は「地動説に賛成して」と考えるのが自然。よって、① in favor of 「~に賛成して」が正解。

⑬ ② in exchange for 「~と引き替えに、交換に」、③ in charge of 「~を担当して」、④ in return for 「~に対する見返りに」は、いずれも文意が通らない。

⑭ Ptolemaic の P は黙字で、発音しない。

10. "Last night, were you late for the concert?" "Fortunately, no. Thanks to Mary's advice, we managed to get there, on time." 「昨夜はコンサートに遅れたのかな」「遅良く、遅れなかったよ。メアリーの忠告のおかげで、どうにか時間通りにそこに着いたんだ」

⑫ 「コンサートに時間通りに着いた」という内容から、「(メアリーの忠告)のおかげで」の意味になる③ Thanks to が正解。

⑬ ① According to 「~によると」、② In addition to 「~に加えて」、④ But for 「もし~がなければ」は、いずれも文意が通らない。

## ②

1. **前置詞** The boy was standing, alone, with his back against the wall. 「少年は壁に寄りかかって、一人で立っていた」

⑫ stand は自動詞なので The boy was standing で文が成立し、後に副詞(句)が続くと考える。副詞 alone 「一人で」がまず成立するので standing の直後に置く。文末に wall が見えているので、副詞句 against the wall 「壁に寄りかかって」も成立する。残った back, with, his から付帯状況と判断し、with his back against the (wall) という付帯状況の句にして、完成する。

⑬ 付帯状況とは、ある中心となるものの動作・状態

に、他の付帯的なものの状況を付け加える表現のこと。(with + 名詞(主語) + 主語の状況)の形だが、例を覚えた方が早い(ex. with her eyes shining 「目を輝かせながら」、with his arms crossed 「腕組みをしながら」、with her hands in her pockets 「両手をポケットに入れてながら」)。

2. To take a summer vacation this year, is of little importance, to me. 「今年夏休みをとることは私にはほとんど重要でない」

⑫ to不定詞の名詞的用法 To take に導かれる句は、this に year を続ければ「今年夏休みをとること」という主語になる。同時に、これに続く動詞が is に決まる。ここで、importance, little, of から、(of + 抽象名詞)(=形容詞)の慣用表現に気づくかがポイント。of little importance 「ほとんど重要ではない」(little は準否定語)を動詞につなげ、残った to は to (me) 「(私に)にとって」のように文末につなげれば完成する。

3. I stayed home, instead of going to the concert yesterday. 「昨日は演奏会に行かずに家にいた」

⑫ 整序語内における群前置詞 instead of ~は、(動)名詞を目的語にとって、「~の(することの)代わりに」という意味の前置詞句を作る。ここでは、instead of going to the concert 「コンサートに行く(こと)の代わりに」までをつなげられる。残った home は「家に」という意味の副詞と考え(stay at home という表現もある。このときの home は名詞)、stayed につなげて完成する。

## 学習のポイント

間違えやすい(時)を表す前置詞 ① 2,3,4

▶ in は時間の経過

ex. I'll be back in 5 minutes. 「5分後に戻ります」

▶ 特定の日の朝(午後、晩など)には on

ex. Kate was born on the morning of May 5.

「ケイトは5月5日の朝に生まれた」

▶ for は時間の長さ、during はある特定の期間

ex. I stayed in Canada for two weeks.

「私は2週間カナダに滞在した」

I stayed in Canada during the summer vacation. 「私は夏休みの間カナダに滞在した」

▶ during (前置詞)には名詞(句)が続き、while (接続詞)には節が続く

ex. I visited him during my stay in Tokyo.

= I visited him while (I was) staying in Tokyo.

「私は東京に滞在中に彼を訪ねた」

▶ by は「それまでに終わる」こと、until [till] は「それまでずっと続く」こと

ex. Come back by seven. 「7時までに戻らない」

We waited until seven. 「私たちは7時まで待った」

## 解答

- ③ 1. ③ 2. ② 3. ② 4. ③  
5. with, care 6. To 7. due [owing]  
8. According 9. in

- ④ 1. must 2. pretty 3. charge  
4. rest 5. second

- ③  
1. The scenery is beautiful, beyond description. 「その景色は言葉で言い表せないほど美しい」  
⑬ The scenery is too beautiful to describe. 「その景色は美しすぎて言葉で言い表せない」。上の文は「too ~ to ...」[「とても~なので...できない」]の構文。「...を超えて、...できないほど」の意味の前置詞③ beyond が正解。beyond description で覚えてしまうこと。  
⑳ ① with では「説明付きで」、② except では「説明以外に」、④ for では「説明用に」などと、それぞれ訳せるが、同じ意味とはならない。  
2. On reaching Osaka, I rang her up. 「大阪に着くとすぐに私は彼女に電話をした」  
⑬ As soon as I reached Osaka, I rang her up. (訳はほぼ同上)。接続詞句 as soon as ~ 「~するとすぐに」と同じ意味を表す前置詞② on が正解。on の中心的な意味は「接触」で、2つの動作(ここでは reaching と rang) が時間的に接することから、「~するとすぐに」という意味になる。  
㉑ reach は他動詞なので、to などの前置詞は不要。  
㉒ ③ By では「到着することによって」、④ For では「到着するために」などの意味が考えられるが、いずれも上と同じ意味にはならない。① At は動名詞を導いて副詞句にはならない。  
3. Your composition is good, except for a few spelling mistakes. 「いくつかのスペリングミスを除けば、あなたの作文はよくできている」  
⑬ Although there are a few spelling mistakes, your composition is generally good. 「いくつかのスペリングミスがあるが、あなたの作文はおおむねよくできている」。「いくつかのスペリングミスを除けば」という意味になる② except for が正解。  
㉓ ① instead of ~ 「~の代わりに」、③ according to ~ 「~によれば」、④ due to ~ 「~が原因で」はどれも上と同じ意味にならず、文意も通らない。  
4. With all his boasting, he knows next to nothing about the classics. 「その自慢にもかかわらず、彼はクラシックについてほとんど何も知らない」  
⑬ Though he boasts, he knows only a little about the classics. 「彼は自慢するけれども、クラシックについてごくわずかしか知らない」。下の文の knows next to nothing 「ほとんど何も知らな

- い(ここでは next to = almost)」と、上の文の knows only a little 「ほんの少ししか知らない」がほぼ同じ意味なので、従節をほぼ同じ意味にすればよい。上の文の he boasts は節(SV構造)なので接続詞の Though ~ 「~だけれども」に導かれているが、下の文の his boasting は名詞(句)なので、「~にもかかわらず」といった意味の前置詞に導かれる必要がある。よって、前置詞句③ With all ~ 「~にもかかわらず」が正解。  
㉔ ① All about ~ 「(彼の自慢)に関するすべて」は単なる名詞句で、接続詞的な意味を持たない。② Without ~ 「(彼の自慢)なしで」の仮定の意味は文意が通らない。④ Concerning ~ 「(彼の自慢)に関して」は、主節が彼の自慢についてのものではない。どれも文意も通らなければ、ほぼ同じ意味にもならない。  
5. She wrote the letter, with much care. 「彼女はとも注意してその手紙を書いた」  
⑬ She wrote the letter very carefully. (訳はほぼ同上)。<with + 抽象名詞>は「様態(動作の様子)」を表して副詞と同じ働きができる。ここでは carefully と同じ意味の with (much) care が正解。very は「とても」の意味で名詞を修飾しないので、下では much 「たくさん」で表している。  
6. To my disappointment, I found that he was not kind. 「がっかりしたことに、私は彼がやさしくないことに気づいた」  
⑬ I was disappointed to find him unkind. 「私は彼がやさしくないことを知ってがっかりした」。<to one's (~) + 感情を表す名詞(...)>で「~が...することには」の意味。(be disappointed to do) 「~して(主語が)がっかりする」は <to one's disappointment, ~> 「(主語が)がっかりすることには、~」に書き換えられる。よって、To が正解。  
7. Our plane was delayed, due [owing] to a mechanical problem. 「私たちの(乗る)飛行機は、機械系統の問題のために遅れていた」  
⑬ Our plane was delayed because of a mechanical problem. (訳はほぼ同上)。because of ~ 「~のために、~が原因で」、due to ~, owing to ~, on account of ~ などとはほぼ同じ意味。正解は due または owing。  
8. According to the President, less money should

be spent on weapons. 「大統領によると、兵器に費やされるお金は削減されるべきとのことだ」

- ⑬ In the President's opinion, less money should be spent on weapons. 「大統領の意見では、~」。上下英文で主節は同じ。in one's opinion 「~の意見では」と according to ~ 「~によると」は、実質的に同じ内容と判断できる。よって、正解は According。  
9. My grandmother is very well, in spite of her age. 「私の祖母は年齢にもかかわらず、とても健康だ」  
⑬ My grandmother is very well despite her age. (訳はほぼ同上)。despite ~ は「~にもかかわらず」を意味する前置詞で、前置詞句 in spite of ~ とほぼ同じ意味。よって、in が正解。  
④  
1. (a) I must admit, I was surprised, it cost so little. 「お金がほとんどかからなくて驚いたことを、私は認めざるを得ない」  
(b) If you live in the country, a car is a must. 「田舎に住んでいれば、車は必需品である」  
⑬ (a) を見ると、空所は主語 I と動詞の原形 admit の間にあるので、助動詞とわかる。must は「義務」「~しなくてはならない」(a) や「強い推量」「~に違いない」を表す助動詞だが、義務の意味が軽じて、名詞で「絶対に必要なもの、必需品」(b) の意味を持つことがある(口語的な表現)。正解は must。  
㉕ (a) の文は、admit と I の間、さらに surprised と it の間の that が省略されている、入れ子構造の文と考える。it の内容はこの文からは不明。little は「ほとんど~ない」という否定的な意味。  
2. (a) I'm pretty sure that he'll say yes. 「彼がうんと言ってくれれば、私はかなり確信している」  
(b) You look so pretty in that dress, Yurii 「そのドレス、とてもかわいく似合っているね、ユリィ」  
⑬ (a) の空所は動詞 am と形容詞 sure の間にあるので、副詞とわかる。(b) の空所は look so に続くので、補語としての形容詞とあたりが付き。pretty には、副詞として「かなり」(a)、形容詞として「かわいい、美しい」(b) の意味がある。正解は pretty。  
㉖ (b) の in は「~を着て」という意味の前置詞。  
3. (a) You have to pay an extra charge for Sunday delivery. 「日曜日の配達に別途料金がかかります」  
(b) I want to know who is in charge of this library. 「私はこの図書館の責任者が誰なのかを知りたい」  
⑬ (a) の空所は pay 「支払う」の目的語にふさわしい名詞。charge には、名詞として「料金」(a) や「管

理」(b) などの意味がある。後者は in charge (of ~) 「(~の) 監督をして、担当をして」の形容詞句の形でよく用いられる。正解は charge。

4. (a) You should sit down, and rest for a while. 「あなたは、座ってしばらく休むべきです」  
(b) Mr. Wang is Chinese, and the rest of us are Japanese. 「ワン氏は中国人で、残りの私たちは日本人だ」  
⑬ (a) の空所は、内容的に sit down 「座る」に類する動詞で、for a while 「しばらく」続く動作とわかる。(b) の空所は、Chinese と Japanese の対比から、Mr. Wang と対比できる「人」を表す内容とわかる。rest には、動詞として「休憩する」(a)、名詞として「残り」(b) の意味がある。正解は rest。  
5. (a) As a football player, John is second to none. 「サッカー選手として、ジョンは誰にもひけをとらない」  
(b) On second thought, I'd better do it. 「よくよく考えると、私はそれをした方がいい」  
⑬ (a) は、be 動詞の is に続くので、( ) to none で形容詞的な意味のイディオムになるとあたりが付き。(b) はコンマがあるので、その前まで副詞的な意味のイディオムになるとあたりが付き。second to none は「(何に対しても)2番目ではない→何(誰)にも劣らない、最高である」を意味するイディオムで、形容詞的に用いられる。on second thought(s) は「(2回目の考えでは→)よく考えてみると」を意味するイディオムで、副詞的に用いられる。正解は second。

## 学習のポイント

<前置詞+抽象名詞>

②, ⑤

▶ <with + 抽象名詞>で副詞の働き

ex. with ease = easily 「容易に」

with care = carefully 「注意して」

with patience = patiently 「辛抱強く」

▶ <of + 抽象名詞>で形容詞の働き

ex. of importance = important 「重要な」

of value = valuable 「価値のある」

of use = useful 「役に立つ」

<重要な群前置詞> ① 8 ~ 10, ③ 3, ⑤ 3, 4, 7 ~ 9

▶ because of ~ [due to ~ / owing to ~ /

on account of ~] 「~のために、~が原因で」

▶ except for ~ [apart from ~] 「~を除けば」

▶ in favor of ~ 「~を支持して」

▶ at the expense of ~ 「~を犠牲にして」

▶ by means of ~ 「~によって、~の手段で」

▶ for the purpose of ~ 「~の目的で」

▶ in terms of ~ 「~の点から」

▶ regardless of ~ 「~に関係なく」



解答

- ① 1. ② 2. ③ 3. ① 4. ③ 5. ①  
6. ③ 7. ② 8. ④ 9. ④ 10. ①  
② 1. pieces of baggage do you have

2. made a lot of progress in the  
3. a day is enough to help you lose one pound a month

①

1. Sorry, I can't go to the cinema/tonight. I have homework to do. 「ごめんください、今夜は映画に行けません。すべき宿題があるので」  
⑫ homework 「宿題」は不可算名詞。不可算名詞には、不定冠詞 a [an] をつけたり、複数形にすることはできない。② homework が正解。  
⑬ 不定冠詞がついている①、複数形の③は不可。④ any は肯定文で用いられると「どんな～でも」の意味になり、ここでは文章が通らない。  
2. We don't have much money left. We've only got a few coins. 「私たちにお金はあまり残っていない。硬貨が数枚あるだけだ」  
⑫ money 「お金」は、通貨の種類を表現する場合などに例外的に可算名詞になることはあるが (ex. three different kinds of moneys 「3種類の通貨」)、同一通貨内で金額の多寡を表すたいの場場合は不可算名詞 (物質名詞) という) となる。much は「たくさん」の意味で不可算名詞を修飾するので、③ much money が正解。  
⑬ 複数形の①や④は不可。② many 「たくさん」は可算名詞 (複数形) を修飾するので不可。  
⑭ have got は have 「持っている」の口語的表現。  
3. A friend of mine gave me a piece of advice/for my trip/to England. 「友人が、私のイングランド旅行のために、ひとこと助言をしてくれた」  
⑫ advice 「助言、アドバイス」は (抽象名詞) と呼ばれる不可算名詞なので、数える必要があるときには、a piece of advice 「ひとこと助言」のように表す。正解は①。a piece of 「ひとかけらの」は、chalk 「チョーク」や cake 「ケーキ」などのような (物質名詞) だけでなく、具体的な形を持たない (抽象名詞) にも使うことがある。  
⑬ 不定冠詞がついている④、複数形の②は不可。③ advise 「～に忠告する」は動詞なので不可。  
4. The car crashed/into a tree/and suffered some damage. 「その車は木に衝突し、いくらか損傷を受けた」  
⑫ damage 「損傷」は数えられない名詞なので、③ some damage が正解。この some は不特定の数量を表し、可算・不可算どちらの名詞にも使える。  
⑬ 不定冠詞がついている①、複数形の②と④は不可。  
5. Is there room/for my daughter/in the car? 「車

に私の娘が乗る場所はありますか」

- ⑫ room には、数えられる「部屋」以外に、数えられない「場所、余地」の意味がある。文章から後者が適切なので、① room が正解。  
⑬ in the car は There is [are] 構文の一部で、my daughter を修飾しているわけではない。  
⑭ 数えられないので、複数形の②と不定冠詞つきの④は不可。「余地」とは本来、不特定の場所や機会などを表すので、定冠詞 the を併せて限定することはない。よって、③は不可。  
6. It is not easy/to make friends with him. 「彼と友達になるのは容易ではない」  
⑫ 「～と友達になる」の意味の慣用表現③ (make) friends with (～) が正解。「友達」関係は2人以上以上ないと成立しないため、この friends は必ず複数形になる (相互複数) という。  
7. Don't forget to give my best regards/to your parents/when you are back home. 「ご自宅に戻られたら、どうか両親によくお伝えください」  
⑫ 「～に、私からよろしくと伝えてください」という意味の慣用表現② (give my best) regards (to ～) が正解。この regards は「よろしく (とのあいさつ)」の意味の名詞で、常に複数形を用いる。  
⑬ give ～ my best regards (第4文型) や、best を略したり、regards を略したりする形もある。  
⑭ 単数形の① regard は「関心、敬意」の意味を表す。③ reward は「報酬」、④ rewarding は「報酬のよい、報われる」の意味の形容詞で、文法的に不可。  
8. There are several women's universities/in Nagoya. 「名古屋には女子大学がいくつかある」  
⑫ 「女子大学」は、複数名詞の語尾に (アポストロフィ + s ('s)) をつけて所有格にして、a women's university 「女性たちの大学」と表現するのが慣用。よって正解は④。なお、-s で終わる複数名詞を所有格にする場合、a boys' high school 「男子高校」のように、アポストロフィだけをつける。  
9. I'm afraid/the answer is "No." Come back/when you can make a new proposal. 「あいにく返事は「ノー」です。新たな提案ができるようになったらまた来てください」  
⑫ 最初の空所では answer 「答え、返事」に注目。ここでは、「(その) 答えは～」というように、何に対する答えなのかを、送り手 (話し手) と受け

手 (聞き手) の双方が特定できると考えられる。すでに話題になった名詞を指す場合や、名詞が前後関係や状況から特定できる場合、その名詞の前に定冠詞 the を添えるのが基本。

- ⑬ 次の空所では new proposal 「新たな提案」に注目。文脈的に、双方が知る古い提案が却下され、新たな提案を促しているが、この新たな提案は、ここで初めて話題に上った、これから聞き手が用意すべきものである。特定のものではなく、また proposal が可算名詞であることから、その前に不定冠詞 the を置く。よって、④ the, a が正解。  
10. When you are hired/as a part-time worker, you'll be paid/by the hour. 「パートタイムの従業員として雇われると、時給 (制) で支払われる」  
⑫ 「～の単位で」は (by the + 単位を表す名詞の単数形) を用いる。よって、① the hour が正解。このとき、the は「～につき、～の単位で」の意味で、by 「～ごめ」は (単位) を表す。

②

1. How many pieces of baggage/do you have/all together? 「手荷物は何個ありますか」  
⑫ baggage 「(旅行時の) 手荷物 (類)」は、使用中の「カバン」や「スーツケース」などで構成される、総称としての集合体を表す名詞 (集合名詞) という。不可算扱いなので、例えば「手荷物1つ」は a piece of baggage と表す。ここでは、数を尋ねる How many に続く文なので、可算名詞の pieces から of baggage につなげ、さらに do you have とつなげて疑問文を完成する。all together は副詞句で、「(個々) 一緒に」になって全部で」という独立した意味と考える。  
2. Technology made a lot of progress/in the nineties. 「90年代に科学技術はおおいに進歩した」  
⑫ 主語 Technology につながる動詞は made しかない (動詞の原形の progress は不可)。ここで、make progress 「進歩する」というコロケーション (単語同士の自然な組み合わせ) に気づけるかどうか。整序語から a lot of 「たくさん」の句を作り、progress を前から修飾する (a lot of は可算・不可算どちらの名詞も修飾できる)。残った語で、in the (nineties) 「90年代に」という (時) を表す副詞句を文末に置いて完成する。  
3. Cutting out just one can of sugared soda/a day/is enough/to help you lose one pound/a month. 「砂糖入りのソーダを1日に1缶やめるだけで、体重を1か月に1ポンド減らすのに十分な効果がある」  
⑫ 冒頭の動名詞に導かれた句 Cutting out just one can of sugared soda 「砂糖入りのソーダをわず

か1本やめること」が主語の一部とわかる。例えば、lose one pound 「1ポンドを失う」などの他のキーワードを参考にしながら、おおよその文脈を把握する。ここでは、「炭酸飲料を1日1缶やめれば、月に1ポンド (体重) 減る」といった意味になると予想できる。動名詞の主語は三人称単数として扱われるので、述語動詞になれるのは is だけ。enough と不定詞があることから、is enough to help you まではほぼ自動的に決まる。さらに、(help O (to) do) 「O が～する助けとなる」から、lose one pound と続けられる。残る選択肢 a month と a day は、不定冠詞の a [an] 「～につき、～ごとに」の意味から、それぞれ「1か月に」、「1日に」という単位を表せる。文脈から、Cutting out just one can of sugared soda a day 「1日にたった1缶の砂糖入りソーダを減らすこと」、lose one pound a month 「1か月に1ポンド (の体重) を減らす」とつなげて完成する。

学習のポイント

間違えやすい不可算名詞 ① 1～4, ② 1, ③ 1, 3

不定冠詞の a [an] をつけることができず、複数形にもならないのが原則。

- ▶ advice 「忠告」
- ▶ furniture 「家具」
- ▶ information 「情報」
- ▶ news 「知らせ」
- ▶ homework 「宿題」
- ▶ baggage 「手荷物 (米)」
- ▶ luggage 「カバン類 (英)」
- ※ 船や飛行機の旅では、英圏でも baggage がよく用いられる。

これらの名詞を数える場合は、a piece of ～、two pieces of ～の形を使う。

ex. I got an important piece of information about the accident. 「私はその事故について、1つの重要な情報を得た」

可算(左)・不可算(右)で意味が変わる名詞 ① 5, ② 2

- ▶ room 「部屋」 — 「余地」
- ▶ time 「回、倍」 — 「時間」
- ▶ work 「作品」 — 「仕事」

複数形の名詞を用いる慣用表現 ① 6, ② 4

目的語に名詞の複数形を常に用いる表現 (相互複数)

- ▶ change trains 「電車を乗り換える」
- ▶ make friends (with ～) 「(～と) 友達になる」
- ▶ shake hands (with ～) 「(～と) 握手する」

動詞+名詞の慣用表現 ② 2

give, have, make, take, pay などの基本動詞は、動作や行為を表す名詞を目的語にとる (動詞+名詞) の形で、動詞の意味を表すことがある。

- ▶ give a call 「電話をする」 (= call)
- ▶ have a sleep 「眠る」 (= sleep)
- ▶ make a promise 「約束する」 (= promise)
- ▶ take a rest 「休憩する」 (= rest)
- ▶ pay a visit 「訪問する」 (= visit)

## 解答

- 3 1. ① → sad [a sad piece of / a piece of sad]  
 2. ① → a lot of time 3. ③ → furniture  
 4. ② → trains 5. ③ → bad manners  
 6. ② → means

7. ④ → thirty thousand yen  
 8. ① → A number

- 4 1. public 2. late 3. between  
 4. good 5. unique

## 3

1. There was a ~~sad sad~~ news<sub>1</sub> on the radio<sub>2</sub> yesterday<sub>3</sub> about the gas explosion<sub>4</sub> in the city. 「市内でのガス爆発についての悲しいニュースが、昨日ラジオで流れた」  
 ① news は不可算名詞なので、不定冠詞 a 「1つの」を置けない。よって、①を sad に正す。あるいは、news を数えるときには a piece of news 「1つのニュース」と表現できるので、ここでは a sad piece of [a piece of sad] も可とする。  
 ② on the radio 「ラジオで」は正しい。前置詞 on は〈情報網〉を表す (ex. on the Internet)。③ about (the gas explosion) 「(ガス爆発)について」は news を修飾する形容詞句、④ in the city 「市内での」は the gas explosion を修飾する形容詞句として、それぞれ正しい。  
 2. People in the city spend a lot of times a lot of time preparing for the festival held once a year. 「その市の人々は年に1回開催される祭りの準備に多くの時間を費やす」  
 ① 「時間」の意味の time は不可算名詞で、a lot of で修飾される場合でも複数形にはならない。よって、①を a lot of time に正す。  
 ② (spend O doing) 「O (時間やお金) を～に費やす」と、prepare for ~ 「～の準備をする」から、②は正しい。③ held は the festival を後ろから修飾する、過去分詞の限定用法。④ (once) a (year) は「(1年)につき(1回)」の意味で、この a は(単位)を表す。the festival held once a year 「年に1回開催される祭り」となり、正しい。  
 3. There is a lot of furnitures furniture in my bedroom. 「私の寝室には家具がたくさんある」  
 ① furniture 「家具」は、タンスやベッド、ソファなどの総称で、不可算名詞として常に単数形。よって、③を furniture に正す。  
 ② There is [are] 構文の動詞は、is [are] の直後にくる主語によって決まる。主語 furniture は常に単数扱いなので① is は正しい。② a lot of は不可算名詞を修飾できるので正しい。④ in (my bedroom) 「(私の寝室)の中に」は、動詞 is 「ある(存在する)」を修飾する副詞句で、正しい。  
 ③ 「家具1点」は a piece [an article] of furniture

のように表現する。

4. You had better change train trains at the next station. 「次の駅で電車を乗り換えた方がいい」  
 ① 「電車を乗り換える」という行為は「複数の電車」がないと成立しないため、change trains と表現する(〈相互複数〉)。  
 ② had better ~ 「～した方がいい」は助動詞のように扱われ、動詞の原形が続くので、正しい。at は比較的狭い(地点・場所)を表す前置詞で、「次の駅」は the next station で表す。よって、③ at (the) ④ next station 「次の駅で」は正しい。  
 5. This is how we eat soba. It is not a bad-manner bad manners, to make noise while you are eating it. 「このようにして私たちはそばを食べる。そばを食べながら音を立てるのは不作法ではない」  
 ① 「行儀、作法、マナー」という意味では常に複数形の manners が用いられる。よって、③を bad manners に正す。なお、「方法、態度」の意味を表すときは可算名詞として扱う (ex. Fred has a gentle manner. 「フレッドは態度が優しい」)。  
 ② (This is) how ~ は「(これが) ~の方法(だ)」の意味で、～の部分には節(SV構造)や to 不定詞がくる。ここでは節。③ It is (~ to do) は形式主語構文で、it は to do 以下の真主語の内容を表す。真主語の一部の④ to make noise は「音を立てること」。make a noise とすることもありますが、a はなくてもよい。いずれも正しい。  
 6. Ken promised to use every possible mean means to finish the job by the end of this week. 「ケンは今週末までにその仕事を終わるために、可能なあらゆる手段を使うと約束した」  
 ① mean には動詞「意味する」形容詞「いじわるな」などの意味があるが、s のついた means は名詞の「手段」という意味 (ex. by means of ~ 「(の手段)によって」)。手段が単数でも複数でも形は同じ。ここでは「可能なあらゆる手段」という意味にするために、②を means に正す。every 「すべての、あらゆる」は単数の可算名詞を修飾するので、この means は単数形ということになる。  
 ③ promise は、「～すると約束する」の意味で to 不定詞を続けるので、① to use は正しい。④ to finish (the job) は to 不定詞の副詞的用法で、「仕

事を終わるために」の意味と考えて差し支えない。  
 ④ by (the end of this week) 「(今週の終わり)までに」は〈期限〉を表す前置詞。いずれも正しい。

7. She purchased a pair of walking shoes for thirty thousands-yen thirty thousand yen. 「彼女は3千円でウォーキングシューズを1足買った」  
 ① 数詞や数を表す形容詞が前にくるとき、hundred や thousand などの単位を表す名詞に複数形の s はつけない。よって、④を thirty thousand yen に正す。  
 ② 漠然とした多数を表す場合、thousands of ~ 「何千の、非常に多くの」のように s をつける。  
 ③ 他動詞① purchased 「購入した」は目的語(ここでは a pair of walking shoes)をとる。正しい。scissors 「はさみ」や shoes、glasses 「眼鏡」など、一対のものを数えるときは a pair [two pairs] of shoes 「一足の〔二足の〕靴」のように表現する。よって、② a pair of (walking shoes) は正しい。前置詞③ for は「～の値段で、～と引き換えに」という〈交換〉の意味。正しい。  
 8. The number A number of people have been suffering from hunger and diseases like AIDS. 「多くの人々が飢えや、エイズのような病気に苦しんでいる」  
 ① the number of ~ は「～の数」、a number of ~ は「多くの～、いくつかの～」の意味。ここでは文脈的に「多くの(人々が苦しむ)」と判断できるので、①を A number に正す。  
 ② 正した A number of people 「多くの人々」(複数扱い)が主語で、suffer from ~ 「～に苦しむ、悩まされる」から、③ have been suffering ④ from ~ 「～に苦しみ続けている」(現在完了進行形)は正しい。④ diseases like AIDS 「エイズのような病気」も正しい。この like は前置詞。  
 4  
 1. High gas prices are accelerating a shift toward public transportation. 「高騰したガソリン価格のせいで、公共交通機関への転換が加速している(直訳:高騰したガソリン価格が、公共交通機関への転換を加速させている)」  
 ① Gasoline is so expensive that more and more people are turning to trains and buses. 「ガソリンがとてつもないので、ますます多くの人々が電車やバスへと変えつつある」。2つの文意を比較すると、上の文の turn to trains and buses には「(自家用車をやめて)電車やバスに変わる」という含意があり、これは下の文の a shift toward (p ) transportation 「(p )の交通機関への

転換」と対応することがわかる。バスや電車を言い換えた public (transportation) 「公共の(交通機関)」が正解。

2. I thought the man was in his late fifties. 「私はその男性が50(歳)代後半だと思った」  
 ① Probably the man was between 57 and 59. 「おそらく、その男性は57歳から59歳の間(の年齢)だった」。下の文の between 57 and 59 「57歳から59歳の間で」は、in one's late fifties [50s] 「～の50(歳)代の後半に」に言い換えられる。よって、正解は late. probably 「たぶん」と I thought 「私は考えた」の不確実さに大差はないと判断できる。  
 3. What I said in this room is strictly between you and me. 「この部屋で私が言ったことは、厳にここだけの(内緒の)話だ」  
 ① No one has to know what I said in this room. 「私がこの部屋で言ったことは誰も知ってはならない(一誰にも知られてはならない)」。上の文は全否定の文だが、この文を話す人と聞く人は当然知っている。この「2人だけが知っている」という状態を表す between you and me 「あなたと私の間(だけ)、ここだけの(内緒の)話」という慣用表現をあてはめる。正解は between。  
 4. He has good reason to be proud of his son. 「彼には自分の息子を誇るもっともな理由がある」  
 ① He may well be proud of his son. 「彼が自分の息子を誇りに思うのもっともだ」。上の文の may well do は「(推量の may 「～かもしれない」+副詞の well 「十分に、よく」=「～でもおかしくない)～するのもっともだ、～するの当然だ、おそらく～する」といった意味を持つ。これと have (g ) reason との対応を考える。have good [every] reason to do は「～する十分な理由がある、～するのもっともだ」の意味。よって、正解は good。  
 5. The ability to make tools is not unique to humans. 「道具を作る能力は人間に特有のものではない」  
 ① Humans are not alone in their ability to make tools. 「人間だけに道具を作る能力があるわけではない(直訳:道具を作る能力において、人間は独りではない)」。2つの文意を比較すると、上の Humans are not alone 「人間だけではない」と下の is not (u ) to humans 「人間に(u )ではない」が対応しているとわかる。be unique to ~ 「～に特有な、独特の」の表現から、正解は unique。日本語の「ユニーク」には「おもしろい」の意味(誤用)があるが、英語にこの意味はない。また、alone に「寂しい」という含意はない。

## 解答

1. ① ③ 2. ③ 3. ④ 4. ② 5. ④  
6. ① 7. ④ 8. ④ 9. ① 10. ③

② 1. There is something wrong with this

## ①

1. "I want to write it down. Do you have a pen?"  
"Oh, I'm sorry, I don't have one." 「それを書き  
留めたいのですが、ペンをお持ちですか」「ああ、  
あいにくペンは持っていません」

⑫ 空所には a pen の代わりをする代名詞が入るが、  
文脈上、特定のペンを意味しているわけではない。  
前に話題に出た可算名詞 (pen) と同種かつ「不  
特定の」1つを意味する③ one が正解。

⑬ ① it や ② that は、話題に出た特定の単数名詞な  
どを指す代名詞なので、どれも文脈上不可 (特定  
できるものは、ここでは the pen のように、(the  
+ 単数名詞) 「その〜」に置きかえられる)。④  
none 「何も〜ない」はそれ自身が否定語で、ふ  
つう他の否定語 (not など) と一緒に用いない。

2. To know the rules, is one thing, but to play the  
game, is another. 「ルールを知っていることと  
ゲームをすることは違う」

⑬ A is one thing, and [but] B is (quite) another  
thing. は「(Aはあるもので、Bはそれとは別の  
ものだ) AとBは(まったく)別ものだ」と  
いう意味の、慣用的な相関表現 (2番目の thing  
はよく省略される)。よって、③ another が正解。  
one 「(不特定の) 1つ (の)」と another 「(不特  
定の) 他1つ (の)」の組み合わせと意味を理  
解する。another は (an + other) である。

⑬ ① other が単独の代名詞として用いられることは  
ない。形容詞としては、some other time 「いつ  
か別の時に」のように名詞を直接修飾できるが(限  
定用法)、be 動詞の後に補語として用いる (叙述  
用法) ことはできない。② the other は、the によ  
って特定された「残り (の)」の意味。集団が2つ  
からなる場合、one が決まれば the other (one)  
は「もう一方 (の1つ)」となり、集団が3以上  
の場合、one が決まれば複数形の the others 「残  
りのすべて」となる。④ others は「(不特定の)  
他の人 (もの)」を表す複数名詞。to play the  
game 「ゲームをすること」は単数なので不可。

3. We have another six miles to walk before we  
get to our house. 「家に着くまでに、私たちはも  
う6マイル歩かなくてはならない」

⑬ another に続く名詞はふつう単数形だが、数詞  
を伴う複数名詞を1つのまとまりとしてとらえ、

2. must have something to do with  
3. help yourself to anything you like on

(another + 数詞 + 複数名詞) の形で「もう (さ  
らに)〜」の意味を表す (この another は形容詞)。  
この表現をあてはめた④ another six miles 「も  
うあと6マイル」が正解。

4. I have two bicycles. One is red, and the other is  
green. 「私は自転車2台持っている。1台は赤で、  
もう1台は緑だ」

⑬ 第1文から、集団 (自転車) は「2台」とわかる。  
2つの中の「一方」を one で表すとき、「もう  
一方」は the other で表す。よって、②が正解。

⑬ ① another は「(不特定の) 他1つ (の)」を  
指すので不可。「2台の中の」別の1台」は  
自然と特定されるから、the が必要になる。③  
the others は複数の意味するので不可。ふつう  
another の前に the や this や my などの限定詞が  
つくことはない (another = an + other) ので、  
④は不可。

5. Most of my friends have been to a foreign country.  
「私の友達の大部分は外国に行ったことがある」

⑬ most of ~ は、~の部分に〈限定詞 (the [my,  
this など]) + 名詞〉を伴って、「~の大部分」の  
意味を表す。よって、④ Most of が正解。この  
most は代名詞。何度も音読して覚えること。

⑬ ③は不可。限定詞を伴わない複数名詞や不可算名  
詞は (most + 名詞) の形で「たいいてい」の  
意味になる。このときの most は、名詞を修飾す  
る形容詞 (ex. in most cases 「たいいていの場合」、  
most Japanese 「たいいていの日本人」)。almost  
は「ほとんど」という意味の副詞なので、my  
friends のような名詞 (句) を修飾できない。よ  
って①は不可。代名詞としての用法もないので②も  
不可。most of my friends = almost all (of) my  
friends で、この almost は all を修飾している。

6. Mrs. Smith did not choose any of the three dresses,  
because she found none of them satisfactory. 「ス  
ミス夫人は3着のドレスのどれにも満足ではな  
かったため、どれも選ばなかった」

⑬ 文の前半 (主節) から、集団 (ドレス) は「3着」  
とわかる。3以上の集団の中で、「どれも [だれも]  
〜ない」の意味を表す none を用いた① none of  
them が正解。because から始まる従節は、(find  
O C) 「O が C とわかる」の意味の第5文型。C  
の satisfactory は「満足のいく」の意味の形容詞。

⑬ ② neither (of them) は「(2つのうちの) どちら  
も〜ない」の意味。③ either (of them) は、肯定  
文で「(2つのうちの) どちらか一方」、否定文で  
「(2つのうちの) どちらも〜ない」の意味 (not  
either = neither)。どちらも集団は「2つ」に限  
られるので、不可。nothing は「まったく何もし  
ない (no + thing)」の意味で、集団としての「ド  
レス」も含まないことになる。よって、④は不可。

⑬ not ~ any 「ひとつも〜ない」。

7. Each of the three girls participated in the  
international exchange program. 「その3人の女  
子のそれぞれが国際交流プログラムに参加した」

⑬ ④ Each (of + 限定詞 + 複数名詞(...)) は「(…の)  
それぞれ」の意味。of の後には the や所有格な  
どで限定された3つ [3人] 以上の複数名詞や、  
us のような複数代名詞 (目的格) がくる。この  
each は代名詞で、単数扱い。複数名詞が2つ [2  
人] の場合には、each ではなく either 「どちらか」  
を用いる。

⑬ ① Every 「あらゆる、どの〜もみんな」は形容詞  
なので名詞を修飾する。修飾するべき名詞が続か  
ないので不可。② Any は、肯定文では「どれ  
でも、だれでも」の意味。「3人の女子のうちの (だ  
れでもいいが) だれであっても〜に参加した」で  
は意味が通らない。③ Both は、2つ [2人] の  
うちの「両方」の意味。不可。

⑬ participate [take part] in ~ 「〜に参加する」。

8. These letters of his were written in blue ink.  
「彼のこれらの手紙は青いインクで書かれた」

⑬ 限定詞 (冠詞 a [an], the や、指示形容詞 this,  
these, that, those など) は所有格と並べて使うこ  
とができない。所有の意味を加えるときには、(冠  
詞 (または指示形容詞) + 名詞) の後に (of +  
所有代名詞 (mine, yours, his, hers など)) を置  
いて表す。よって、④ These letters of his が正解。

9. When I saw the doctor, he told me to take this  
medicine every six hours. 「私が医者に見てもら  
ったとき、医者はこの薬を6時間おきに服用  
するよう言った」

⑬ 文意から、空所以下は薬を服用する間隔を表す副  
詞句になると考える。(every + 数詞 + 複数名詞)  
で「〜ごとに」の意味を表すので、これにあては  
まる① every (six hours) が正解。every は形容  
詞で、ふつう単数名詞を修飾するが、この場合は  
「6時間」を1つのまとまりとして考える。

⑬ ② any (six hours) 「どんな (6時間) でも」、③  
all (six hours) 「(6時間) ずっと」は、どちらも  
文意が通らない。each は単数の可算名詞を修飾  
するので、④は不可。

10. "Do you think Yoko will pass the test?" "I'm not  
sure, but I do hope so." 「ヨコは試験に受かる  
と思いますか」「わかりませんが、心からそう望  
みます」

⑬ 他動詞の hope は that 節 (名詞節) を目的語に  
とるが、副詞の so は、前出の節の内容全体を指  
し、hope や think などの動詞の後に置くことが  
できる。よって、③が正解。ここでは、so は (that)  
Yoko will pass the test の名詞節全体の内容指  
している。

⑬ hope に that 節や to 不定詞以外の名詞を続ける  
場合、前置詞の for を要するのがふつう (ex. I  
hope for your success. 「あなたの成功を望んで  
います」)。hope の目的語に代名詞をとることは  
ないので、①②④は不可。

⑬ hope の前の do は述語動詞を強調する助動詞。

## ②

1. There is something wrong with this camera. 「こ  
のカメラは調子がおかしい」

⑬ 文末に camera が見えているので、整序語内の  
there は副詞の「そこ」ではなく、There is [are]  
構文 (「〜がある、いる」) の一部と判断する。整  
序語内から、something wrong with ~ 「〜の何  
かおかしいところ」の定型表現をつなげれば、~  
の部分に this (camera) が決まって、完成できる。  
something, anything, nothing などの -thing で  
終わる名詞は後ろから修飾するのが原則。

2. Tom must have something to do with this case.  
「トムはこの事件になんらかの関係があるに違  
いない」

⑬ 主語の Tom が見えているので述語動詞の must  
have が決まる。have nothing [something] to  
do with ~ 「〜と関係がない [ある]」という意  
味の慣用表現をあてはめて完成する。case には  
「事件、状況、問題、症例」など、さまざまな意  
味が考えられるが、ここでは「事件」と訳した。

3. Please help yourself to anything you like  
on the table. 「どうぞテーブルの上の好きなもの  
をお召し上がりください」

⑬ 整序語内から、help oneself (to ~) 「(〜を) 自  
由に取って食べる、飲む、使う」の慣用表現に気  
づき、あてはめる。~の部分にくるのは名詞なの  
で anything が決まり、これを後ろから修飾する  
you like と続けて「あなたが好きなものを何でも」  
という意味にする (肯定文で用いる anything は  
「(たくさんの中から) 何でも」の意味)。文末の  
the table の前に、残った前置詞 on を置いて形容  
詞句「テーブルの上の」をつくらば完成する。

## 解答

1. ① it 2. that of 3. nothing 4. by  
5. ② 6. ④ 7. ④ 8. ③

1. ③ 2. ② 3. ③ 4. ② 5. ④

3. 1. No one thinks it a waste of time/ to read books. 「本を読むことが時間の無駄だとは誰も思わない」  
11 No one believes that reading books is a waste of time. (訳はほぼ同上)。believe「信じる」は、目的語に that 節をとるときに think「思う」とほぼ同じ意味になることがある。上の文の that 節内では、reading books (主語:S) = a waste of time (補語:C) の関係が成り立っているが、下の文では逆になっている。この順番を直すために、形式目的語の it (O) を a waste of time の前に置いて、<sup>(O)</sup> think / <sup>(O)</sup> it / <sup>(O)</sup> a waste of time / to read books (= it) の形で (think O C) 「O を C と思う (第5文型)」の形を成立させる。正解は it。  
2. The climate of Los Angeles differs/ a lot/ from that of Boston. 「ロサンゼルスとボストンの気候とは大きく異なる」  
11 There is a vast difference between the climates of Los Angeles and Boston. 「ロサンゼルスとボストンの気候の間には、とても大きな違いがある」。上の文の the climates of Los Angeles and Boston「ロサンゼルスとボストンの気候 (climate が複数形)」が、下の文の The climate of Los Angeles と空所部分とに対応していることがわかる。日本語では例えば「北海道の気温は沖縄よりも低い」と言えるが、英語では比較対象を厳密に「～は沖縄の気温よりも低い」と表現しなくてはならない。The climate of Los Angeles の比較対象は the climate of Boston となるが、後者の the climate は、同じ名詞のくり返しを避けるために that で代用できる。正解は that of。  
11 that is (the + 単数名詞) の代用だが、(the + 複数名詞) は those で代用する (ex. The rules of baseball seem simpler than those (= the rules) of tennis. 「野球のルールはテニスのルールよりも単純に見える」)。  
3. There was nothing/ for me/ to do/ but cry. 「私はただ泣くしかなかった」  
11 All I could do was cry. 「私にできるのは泣くことだけだった」。all (that) S can do is (to) do は「S ができるすべてのことは～することだ→S は～することしかできない」という意味。この can do の部分には、has to do や wants to do など、

do を含むさまざまな述語動詞が用いられる。be 動詞の後は動詞の原形となることが多い。下の文の but は、動詞の原形や不定詞を伴って「～を除いて」のような意味で、there is nothing to do but (to) do で「～すること以外にすべきことは何もない→～することしかできない」という意味になる。よって、正解は nothing。

4. Sally is very independent; she likes to work/ by herself. 「サリーはとても自立している。彼女はひとりて仕事をするのを好む」  
11 Sally is very independent; she likes to work alone. (訳は同上)。alone「ひとりで、独力で」とほぼ同じ意味を by oneself で表せる。よって、by が正解。for oneself も「(自分のために) ひとりで」を意味することがあるが、work for oneself は「自営業を営む」という含意があるので、ここでは不可とする。  
5. He was beside himself/ with joy/ when he passed the examination. 「彼は試験に合格したとき、喜びで我を忘れた」  
11 He was extremely happy when he passed the examination. 「彼は試験に合格したとき、この上なく嬉しかった」。extremely happy「極めて嬉しい」とほぼ同じ意味を表す 11 beside (oneself with joy) 「喜びで我を忘れて」が正解。beside oneself は「(本来の) 自分自身の隣にいて→(喜びや怒りなどで) 我を忘れて」の意味。  
6. He goes swimming/ every other day. 「彼は2日ごとに泳ぎに行く」  
11 He goes swimming every two days. (訳は同上)。「～日(年)ごとに」は (every + 数詞 + days (years)) または (every + 序数詞 + day (year)) で表す。ただし、every two days [second day] は every other day 「2日ごとに」のようにも言える。よって、11 other が正解。  
7. Tom does nothing but worry/ all day. 「トムは一日中心配ばかりしている」  
11 Tom only worries all day and does nothing else. 「トムは一日中心配するだけで、ほかに何もしない」。but は「～を除いて」を意味するので、do nothing but do で「～する以外は何もしない」の意味になる。ここでは「心配することを除いて何もしない→ただ心配しているだけ」の意味の 11 (does) nothing but (worry) が正解。

- 11 ① alone「一人で」、② as expected「予想された通り」、③ in addition「さらに」はどれも副詞(句)と考えられるが、いずれの場合も、does が worry を強調する助動詞になってしまい、上の文とは意味が一致しなくなる。  
8. No other child in the class/ was as quiet as Makoto. 「クラスにマコトほどおとなしい子はいなかった」  
11 Makoto was the quietest child in the class. 「マコトはクラスで最もおとなしい子だった」。上の最上級の文を、下の文で (as ~ as ...) の原級比較を使って書き換える。「マコトほどおとなしい子はほかにいなかった」の意味から、11 No other ~ 「ほかに～するのは誰もいない」が正解。  
11 the を伴わない 11 Other「ほかの」と 11 Most「たいていの」は、ふつう複数名詞を修飾する。単数名詞 child が続くので、どちらも不可。肯定文の 11 Any ~ は「どんな～でも」の意味で、「どの子もおとなしい」ことになってしまい、文意が一致しなくなる。  
4. 1. The new software program will save/ us/ a lot of time and labor. 「その新しいソフトウェアプログラムによって、多くの時間と手間が省けるだろう(直訳: その新しいソフトウェアプログラムは、私たちから多くの時間と手間を省いてくれるだろう)」  
11 11 save には、第3文型 (SVO) の「教う、貯える」の他に、第4文型 (SVOO) の「(手間などを) 省く、節約させる」の意味があり、無生物主語の構文としてよく用いられる。これが正解。  
11 11 give では「私たちに多くの時間と手間を与える」、11 get では「私たちに～を持ってきてくれる」、11 make では「私たちに～を作ってくれる、用意してくれる」の意味になる。いずれも第4文型をとれる動詞だが、意味は通らない。  
2. One hundred dollars will cover/ all your expenses/ for the trip. 「100ドルあれば、その旅行の費用がすべてまかなえるだろう」  
11 11 cover には「～を覆う」の他に、「(人/金額などが) ~をまかなう」の意味がある。これが正解。cover には他にも、「～の距離を行く」、「(本やニュースが問題など) を扱う」の入試頻出の意味がある。共通する「覆う」イメージをつかもう。  
11 11 cost「費用がかかる」、11 give「与える」、11 spend「費やす」は、ふつう能動態の文において、主語に金額がかかることはない。いずれも不可。  
3. How much you will spend/ doesn't matter. It's/ what you are going to buy/ with the money/ that really counts. 「あなたがいくら使うかは問題では

- ない。本当に重要なのは、そのお金であなたが買おうとしているものだ」  
11 11 count「数える」には、目的語をとらない自動詞で「重要である、価値を有する」の意味がある。これが正解。第1文の doesn't matter「重要ではない」と対比されている。この matter も自動詞。  
11 11 cost(s) はふつう目的語をとる他動詞。「費用がかかる、高くつく」の意味の自動詞もあるが、ここでは with the money「そのお金で」とあるので金額がわかっているはずだし、第1文との文脈も不自然になる。11 important は形容詞なので動詞が不在になる (that is ならば可)。11 occur(s)「起こる」は「あなたが買おうとしているもの」という主語に対する動詞ではない。  
11 11 第2文は強調構文 (it is ~ that ...) 「～なのは～である」の構造。強調構文は、この it is と that を取り除いても文が成立する。What you are going to buy with the money really counts. 「そのお金であなたが買おうとしているものが本当に重要である」。  
4. Do not hesitate to ask any questions/ you may have. 「どのような質問でも、ご遠慮なくお問い合わせください(直訳: あなたが持つかもしれないどのような質問も、ためらわずにお尋ねください)」  
11 11 11 hesitate (to do) は「(～すること) をためらう」の意味。文意にも合うので、これが正解。  
11 11 have (to do) 「～しなくてはならない」は命令文に用いない。11 mind「いやだと思う、気にする」は目的語に不定詞をとらない。動詞の 11 worry「心配させる」は、能動態では目的語に不定詞をとらない(受動態の (be worried to do) 「～して心配する」は可)。いずれも不可。  
5. It is commonly believed/ that smoking affects people's health/ in many ways. 「喫煙は多くの点で人々の健康に影響を及ぼすと一般に考えられている」  
11 11 11 affect(s) は「～に影響を与える」という意味の他動詞で、influence とほぼ同じ意味。これが正解。名詞形の 11 effect(s) 「影響」は不可。  
11 11 cause「引き起こす」の目的語に (people's) health 「(人々の) 健康」がくることはない。11 effect(s) にも他動詞としての用法があるが、「もたらす」という意味なので、この目的語には適さない。11 cost は「主語が人に損をさせる」という意味で、ふつう間接目的語「～に」を必要とする (ex. Smoking will cost you your health. 「喫煙はあなたの健康を損ねる」)。不可とする。  
11 11 have an effect (influence / impact) on ~ 「～に影響を与える」も重要表現。in many ways「多くの点で」(副詞句)。